河内長野市遺跡調査会報Ⅹ

宮の下遺跡

宮の下農道新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1995年3月

河内長野市遺跡調査会

序　　文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向かう南河内の交通の要衝として発展してきた町です。

このため市内には数多くの文化財が残されています。

このような河内長野市も大阪市内への通勤圏に位置しているため住宅都市として近年、開発の波がおしよせてきています。

開発がもたらす文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。特に、埋蔵文化財は開発と直接に結び付く大きな問題です。

遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージを現在の市民、更には未来の市民へ伝えてゆかなければなりません。

本書は発掘調査の成果を収録しています。先人達のメッセージの一部でも理解するための資料として活用していただければ幸いです。

これらの発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成７年３月

河内長野市遺跡調査会
理事長　中尾　謙二

例　　言

1．本報告書は平成５年度・平成６年度に河内長野市遺跡調査会が河内長野市から委託を受けて実施した宮の下遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査費については全額河内長野市が負担した。

3．調査は、本市教育委員会社会教育課文化係尾谷雅彦・鳥羽正剛を担当者として実施した。

4．調査にかかる事務は調査会事務局長松垣孝康が主担した。

5．本書の執筆は尾谷雅彦が行った。

6．編集は尾谷が担当し、松尾和代が補助した。本書の文責は尾谷が負うものである。

7．発掘調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。（敬称略）

池田　武・嘉悦真紀子・喜多順子・久保八重子・古島亮介・小森　光・重野真紀・杉本祐子・田中良明・田川富子・中尾智行・中西和子・中村嘉彦・林　和宏・東田幸子・東原美佳・福島里浦・藤井美佐子・古池陽子・枡本裕子・松村佳映・三井義勝・牟田口京子・株式会社八洲・株式会社島田組

8．石器の実測に関しては、粟田　薫氏の助言を得た。

9．調査の実施に関しては河内長野市環境経済部農林課の協力を得た。

10．本調査の記録はスライドフイルム等でも記録しており、広く一般の方々に活用されることを望むものである。

凡　　例

1．本報告書に掲載されている標高はＴＰを基準としている。

2．土色は新版標準土色帖1990年度版による。

3．平面測量基準は国家座標第Ⅵ系による５ｍメッシュを基に実施したものである。

4．図中の北は座標北である。

5．遺構名は下記の略記号をもちいた。

　ＳＢ…掘立柱建物　　ＳＤ…溝　　ＳＫ…土坑　　ＳＰ…ピット

6．遺構実測図の縮尺は１/30・１/40・１/60・１/80・１/100・１/300とした。

7．遺物実測図の縮尺は土器１/2・1/4、瓦１/4、鉄器１/3、石製品１/4、石器2/3、土製品１/4とした。

8．弥生土器・土師器・土師質土器・黒色土器の断面は白抜き、その他の断面は黒塗りである。また、黒色土器の黒色部分には、スクリーントーンを付した。

9．遺物番号と写真図版の番号は共通する。

目　　次

序文
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
図版目次
付図目次
第１章　はじめに……1
　第１節　調査に至る経過……1
　第２節　位置と環境……5
　　1　位置……5
　　2　歴史的環境……5
第２章　調査の結果……7
　第１節　第１調査区……7
　　1　概略……8
　　2　遺構と遺物……8
　第２節　第２調査区……31
　　1　概略……31
　　2　遺構と遺物……32
第３章　まとめ……41
　第１節　第１調査区……41
　　1　遺構……41
　　2　遺物……41
　第２節　第２調査区……42
　　1　遺構……42
　　2　遺物……42
　第３節　最後に……43

挿図目次

第１図　遺跡位置図……1
第２図　河内長野市遺跡分布図（１/40000）……2

第３図　調査区位置図（１/5000）……5
第４図　第１調査区土層断面実測図（１/80）……7
第５図　ＳＢ１遺構実測図（１/60）……8
第６図　ＳＢ２出土遺物実測図……8
第７図　ＳＢ２遺構実測図（１/60）……9
第８図　ＳＢ３出土遺物実測図……9
第９図　ＳＢ３遺構実測図（１/60）……9
第10図　ＳＤ１遺構断面実測図（１/40）……10
第11図　ＳＤ２遺構断面実測図（１/40）……10
第12図　ＳＤ２出土遺物実測図……10
第13図　ＳＤ３遺構断面実測図（１/40）……10
第14図　ＳＤ４出土遺物実測図……10
第15図　ＳＤ４遺構断面実測図（１/40）……10
第16図　ＳＤ５遺構断面実測図（１/40）……10
第17図　ＳＤ６遺構断面実測図（１/40）……11
第18図　ＳＤ７遺構断面実測図（１/40）……11
第19図　ＳＤ８遺構断面実測図（１/40）……11
第20図　ＳＤ８出土遺物実測図……11
第21図　ＳＤ９出土遺物実測図……11
第22図　ＳＤ10遺構断面実測図（１/40）……11
第23図　ＳＫ１遺構断面実測図（１/40）……12
第24図　ＳＫ２遺構実測図（１/30）……12
第25図　ＳＫ２出土遺物実測図……12
第26図　ＳＫ３遺構断面実測図（１/40）……12
第27図　ＳＫ４遺構断面実測図（１/40）……12
第28図　ＳＫ４出土遺物実測図……13
第29図　ＳＫ５遺構断面実測図（１/40）……13
第30図　ＳＫ６遺構断面実測図（１/40）……13
第31図　ＳＫ７遺構断面実測図（１/40）……13
第32図　ＳＫ８遺構断面実測図（１/40）……13
第33図　ＳＫ８出土遺物実測図……13
第34図　ＳＫ９出土遺物実測図……14
第35図　ＳＫ９遺構実測図（１/30）……14
第36図　ＳＫ10遺構断面実測図（１/40）……14
第37図　ＳＫ12遺構断面実測図（１/40）……14

第38図　ＳＫ12出土遺物実測図……14
第39図　ＳＫ13遺構断面実測図（１/40）……15
第40図　ＳＫ13出土遺物実測図……15
第41図　ＳＫ14出土遺物実測図……15
第42図　ＳＫ15遺構断面実測図（１/40）……15
第43図　ＳＫ16遺構実測図（１/30）……15
第44図　ＳＫ16出土遺物実測図（１）……16
第45図　ＳＫ16出土遺物実測図（２）……17
第46図　ＳＫ17出土遺物実測図……17
第47図　ＳＫ18遺構断面実測図（１/40）……17
第48図　ＳＫ19出土遺物実測図……18
第49図　ＳＫ20出土遺物実測図……18
第50図　ＳＫ21出土遺物実測図……18
第51図　ＳＫ22出土遺物実測図……18
第52図　ＳＫ23出土遺物実測図……18
第53図　ＳＫ24遺構断面実測図（１/40）……19
第54図　ＳＫ25出土遺物実測図……19
第55図　ＳＫ26遺構断面実測図（１/40）……19
第56図　ＳＫ27遺構断面実測図（１/40）……19
第57図　ＳＰ１出土遺物実測図……19
第58図　ＳＰ２遺構実測図（１/30）……19
第59図　ＳＰ２出土遺物実測図……20
第60図　ＳＰ３出土遺物実測図……20
第61図　ＳＰ５出土遺物実測図……20
第62図　ＳＰ６出土遺物実測図……20
第63図　ＳＰ７出土遺物実測図……20
第64図　ＳＰ８出土遺物実測図……20
第65図　ＳＰ９出土遺物実測図……21
第66図　ＳＰ10出土遺物実測図……21
第67図　ＳＰ11出土遺物実測図……21
第68図　ＳＰ12出土遺物実測図……21
第69図　ＳＰ13・16遺構実測図（１/30）……21
第70図　ＳＰ13出土遺物実測図……21
第71図　ＳＰ15出土遺物実測図……22
第72図　ＳＰ16出土遺物実測図……22

第73図　ＳＰ17出土遺物実測図……22
第74図　ＳＰ18出土遺物実測図……22
第75図　ＳＰ19出土遺物実測図……22
第76図　ＳＰ20出土遺物実測図……22
第77図　ＳＰ21出土遺物実測図……23
第78図　第１調査区包含層出土遺物実測図（１）……24
第79図　第１調査区包含層出土遺物実測図（２）……25
第80図　第１調査区包含層出土遺物実測図（３）……26
第81図　第１調査区包含層出土遺物実測図（４）……27
第82図　第１調査区遺構配置図（１/300）……29・30
第83図　第２調査区土層断面実測図（１/40）……31
第84図　ＳＢ４出土遺物実測図……32
第85図　ＳＢ４遺構実測図（１/60）……32
第86図　ＳＢ５遺構実測図（１/60）及び出土遺物実測図……33
第87図　ＳＢ６出土遺物実測図……33
第88図　ＳＢ６遺構実測図（１/60）……33
第89図　ＳＤ11出土遺物実測図……34
第90図　ＳＤ13出土遺物実測図……34
第91図　ＳＫ28出土遺物実測図……34
第92図　ＳＫ29出土遺物実測図……34
第93図　ＳＫ30出土遺物実測図……35
第94図　ＳＫ31出土遺物実測図……35
第95図　ＳＫ32出土遺物実測図……35
第96図　ＳＰ22出土遺物実測図……35
第97図　ＳＰ23出土遺物実測図……35
第98図　ＳＰ24出土遺物実測図……35
第99図　第２調査区包含層出土遺物実測図……36
第100図　第２調査区遺構配置図（１/300）……39・40

表　目　次

第１表　河内長野市遺跡地名表……3
第２表　第１調査区出土遺物の分類……41
第３表　第２調査区出土遺物の分類……42

図版目次

図版１　遺構　第１調査区　調査区全景
図版２　遺構　第１調査区　調査区全景（西から）、ＳＢ３・ＳＫ30（西から）
図版３　遺構　第１調査区　ＳＤ４・ＳＤ５・ＳＤ６（東から）、ＳＫ12（西北から）
図版４　遺構　第１調査区　ＳＫ９（北から）、ＳＫ16（東から）
図版５　遺構　第１調査区　ＳＰ３（西から）、ＳＰ17（北から）
図版６　遺構　第２調査区　調査区全景、調査区全景（北東から）
図版７　遺構　第２調査区　ＳＢ４・ＳＢ５（西から）、ＳＢ６・ＳＤ12（北から）
図版８　遺物　第１調査区　ＳＢ２（１）、ＳＢ３（２・３）、ＳＤ２（４）、ＳＤ４（５・６）、ＳＤ８（７）、ＳＤ９（８）、ＳＫ２（９～11）、ＳＫ４（12～18）、ＳＫ８（19）、ＳＫ９（20）、ＳＫ12（23）
図版９　遺物　第１調査区　ＳＫ９（21・22）、ＳＫ13（24）、ＳＫ14（25・26）、ＳＫ16（27～36・39・40）
図版10　遺物　第１調査区　ＳＫ16（37・38）、ＳＫ17（41～44・46・47）、ＳＫ19（48）、ＳＫ20（49）、ＳＫ21（50）、ＳＫ22（51・52）、ＳＫ23（54・55）、ＳＫ25（56）、ＳＰ１（57）、ＳＰ６（61）、ＳＰ７（62）、ＳＰ８（63）、ＳＰ９（64・65）、ＳＰ10（66～69）、ＳＰ11（70）、ＳＰ12（71）
図版11　遺物　第１調査区　ＳＰ２（58）、ＳＰ３（59）、ＳＰ５（60）、ＳＰ13（72～74）、ＳＰ15（75）、ＳＰ16（76）、ＳＰ17（77）、ＳＰ18（78）、ＳＰ19（79）、ＳＰ20（81）、ＳＰ21（82）、包含層（89～103）
図版12　遺物　第１調査区　包含層（83～85・87・104～119・121～132）
図版13　遺物　第１調査区　包含層（86・133～142・144～160）
図版14　遺物　第１・第２調査区　第１調査区包含層（161～165・167～174）、ＳＢ４（175～177）、ＳＢ５（178）、ＳＢ６（179）、ＳＤ11（180・181）、ＳＤ13（182）、ＳＰ22（192）、ＳＰ23（193）、ＳＰ24（194）
図版15　遺物　第２調査区　ＳＫ28（183～185）、ＳＫ29（186～188）、ＳＫ30（189）、ＳＫ31（190）、ＳＫ32（191）、包含層（195～213・217）
図版16　遺物　第２調査区　包含層（214～216・218～233・235・236）

付図目次

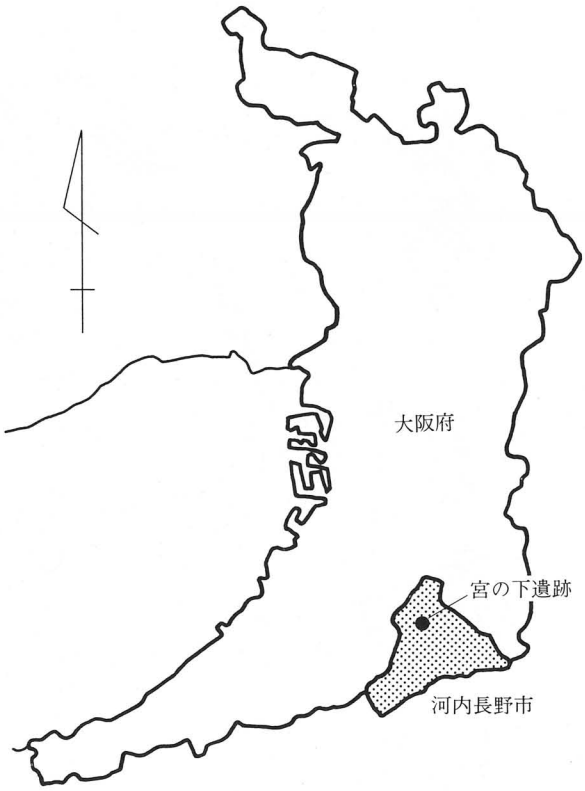
付図１　宮の下遺跡第１調査区遺構配置図（１／100）
付図２　宮の下遺跡第２調査区遺構配置図（１／100）

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

本市は近年の著しい人口増加も一段落し、成熟した住宅都市としての様相を呈してきた。しかし、まだまだそれに伴う都市の基盤整備を進めなければならない。このような状況の中で、河内長野市は公共上下水道、アクセス道路、公園等の都市機能の整備、文化会館などの文化施設の充実に努めている。

しかし、このような公共関係の整備も一般の開発と同じように埋蔵文化財を避けて通ることはできないものである。教育委員会と都市整備部とは、公共事業に関連する埋蔵文化財の取り扱いについては計画段階からの保存協議を進め、文化財保護と開発の調整に力を注いできた。



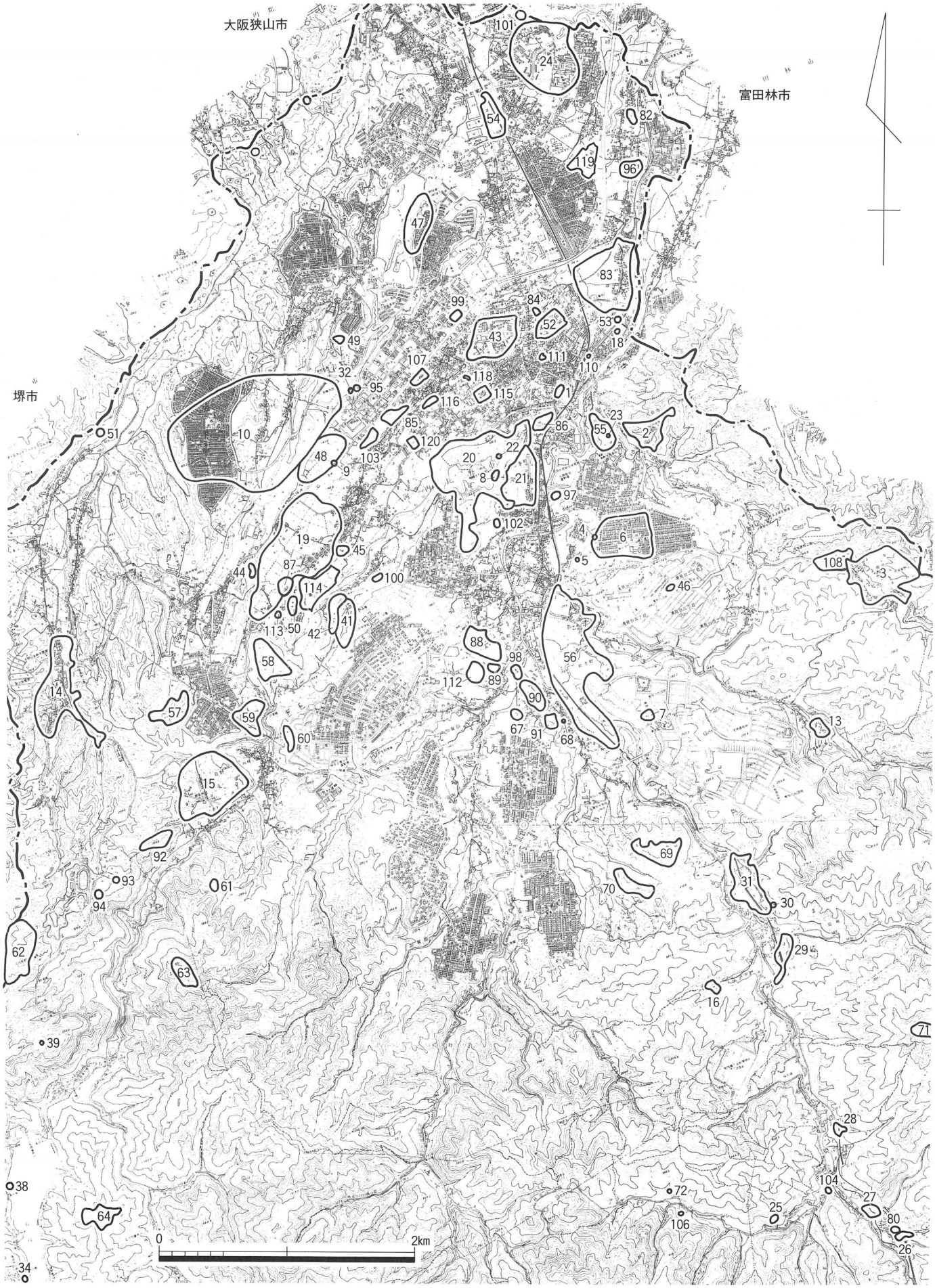
第１図　遺跡位置図

本調査の原因となった宮の下農道新設事業についても周知の埋蔵文化財包蔵地外ではあるが、道路施工ということで総面積が500㎡以上であることから計画段階から埋蔵文化財の取り扱いについて協議を進めた。

当該事業地については、平成４年に事業主体者で主管担当課である環境経済部農林課と教育委員会が予定地内について試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無を確認することに合意した。この調査については河内長野市遺跡調査会が実施することになった。

調査は平成５年に第１次施工計画部分（1000㎡）を対象に平成５年５月19日から５月31日まで試掘調査を実施し、平安時代から中世の遺構・遺物を発見した。このことから文化財保護法第57条の６にもとづき、河内長野市長名で遺跡の発見通知が提出された。これに伴い教育委員会は当該遺跡を宮の下遺跡と命名し、担当課と協議して第１次施工計画部分について本調査を実施した。

また、第２次施工計画部分（750㎡）を対象に平成５年10月25日から10月29日まで試掘調査を実施し、同様に中世の遺構・遺物を発見した。本調査は第１次分が平成５年７月19



第２図　河内長野市遺跡分布図（１／40000）

番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町
2	河合寺	社寺	
3	観心寺	社寺	平安～
4	大師山古墳	古墳	古墳（前期）
5	大師山南古墳	古墳？	古墳（後期）
6	大師山遺跡	集落	弥生（後期）
7	興禅寺	社寺	
8	烏帽子形八幡神社	社寺	室町
9	塚穴古墳	古墳	古墳（後期）
10	長池窯跡群	生産	平安～近世
11	小山田1号古墓	墳墓	奈良
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良
13	延命寺	社寺	
14	金剛寺	社寺	平安～
15	日野観音寺遺跡	社寺	中世
16	地蔵寺	社寺	
(17)	岩湧寺	社寺	平安～
18	五ノ木古墳	古墳	古墳（後期）
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世
20	烏帽子形城跡	城館	中世～近世
21	喜多町遺跡	集落	縄文～中世
22	烏帽子形古墳	古墳	古墳（後期）
23	末広窯跡	生産	
24	塩谷遺跡	散布地	縄文～中世
25	流谷八幡神社	社寺	
26	蟹井淵南遺跡	散布地	中世
27	蟹井淵北遺跡	散布地	中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世
29	千早口駅南遺跡	散布地	中世
30	岩瀬薬師寺	墳墓	近世
31	清水遺跡	散布地	中世
32	仲哀天皇社跡	古墳？	
(33)	堂村地蔵堂跡	社寺	近世
34	滝畑埋墓	墳墓	近世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世
(36)	東の村観音堂跡	社寺	近世
(37)	西の村観音堂跡	社寺	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世
39	滝尻弥勒堂跡	社寺	近世
(40)	宮ノ下内墓	墳墓	古墳
41	宮山古墳	古墳？	古墳
42	宮山遺跡	散布地	縄文～中世
43	西代藩陣屋跡	城館 散布地	江戸 飛鳥～奈良
44	上原町墓地	墳墓	
45	惣持寺跡	社寺	鎌倉
46	栗山遺跡	祭祀	中世～近世
47	寺ケ池遺跡	散布地	縄文
48	上原遺跡	散布地	中世
49	住吉神社遺跡	社寺	
50	高向神社遺跡	社寺	中世
51	青が原神社遺跡	社寺	
52	膳所藩河州出張所跡	城館	江戸
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳
54	菱子尻遺跡	散布地	縄文～中世
55	河合寺城跡	城館	
56	三日市遺跡	集落	旧石器～近世
57	日の谷城跡	城館	室町
58	高木遺跡	散布地	縄文
59	汐の山城跡	城館	中世
60	峰山城跡	城館	中世

番号	文化財名称	種類	時代
61	稲荷山城跡	城館	中世
62	国見城跡	城館	中世
63	旗蔵城跡	城館	中世
64	権現城跡	城館	中世
(65)	天神社遺跡	社寺	
(66)	葛城第15経塚	経塚	
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世
68	庚申堂	社寺	
69	石仏城跡	城館	中世
70	佐近城跡	城館	中世
71	旗尾城跡	城館	中世
72	葛城第16経塚	経塚	
(73)	葛城第18経塚	経塚	
(74)	葛城第19経塚	経塚	
(75)	笹尾塞	城館	中世
(76)	大沢塞	城館	中世
(77)	三国山経塚	経塚	
(78)	光滝寺	社寺	
(79)	猿子城跡	城館	中世
80	蟹井淵神社遺跡	社寺	
(81)	川上神社遺跡	社寺	
82	千代田神社遺跡	社寺	
83	向野遺跡	集落・生産	縄文～室町
84	古野町遺跡	散布地	中世
85	上原北遺跡	散布地	
86	大日寺遺跡	社寺	中世
87	高向南遺跡	散布地	鎌倉
88	小塩遺跡	集落	縄文～奈良
89	加塩遺跡	集落	古墳（後期）
90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
91	ジョウノマエ遺跡	城館？	中世
92	仁王山城跡	城館	中世
93	タコラ城跡	城館	中世
94	岩立城跡	城館	中世
95	上原近世瓦窯	城館	近世
96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
97	上田町窯跡	生産	近世
98	尾崎北遺跡	散布地	古墳
99	西之山町遺跡	集落	中世
100	野間里遺跡	集落	平安
101	鳴尾遺跡	散布地	中世
102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
104	小野塚	墳墓	
(105)	葛城第17経塚	経塚	
106	薬師堂跡	社寺	中世～
107	野作遺跡	集落	中世
108	寺元遺跡	集落	奈良・中世
(109)	鳩原遺跡	散布地	中世
110	法師塚古墳跡	古墳	
111	山上講山古墳跡	古墳	
112	西浦遺跡	集落	古墳・中世
113	地福寺跡	社寺	近世
114	宮の下遺跡	集落	平安～中世
115	栄町遺跡	散布地	縄文・古墳
116	錦町遺跡	散布地	中世
(117)	太井遺跡	散布地	中世
118	錦町北遺跡	社寺	中世
119	市町西遺跡	散布地	縄文・中世
120	栄町南遺跡	散布地	中世

（　）は地図範囲外

第1表　河内長野市遺跡地名表

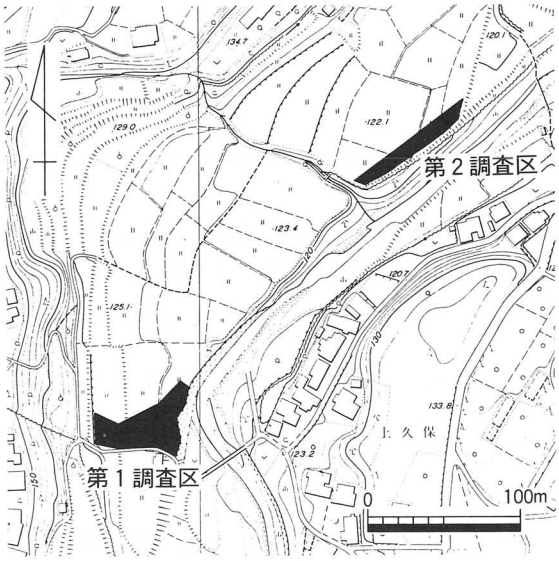
日から平成５年９月８日まで、第２次調査として平成６年１月10日から平成６年２月14日まで実施した。そして、これらの整理作業と報告書作成を平成５年４月１日から平成６年３月25日まで実施した。

第２節　位置と環境

１　位置

当該遺跡は大阪府河内長野市高向地内に位置し、標高は約120ｍを測る。遺跡は和泉葛城山系から流れ出た石川の左岸、低位段丘上に広がる。この付近から天見川の合流地点までは、左岸に低位と中位の段丘が発達し河内長野市域の平坦部の大部分を構成している。

この和泉山脈、金剛山地に源を発する石川の各支流や西除川は狭小な河谷を形成しながら北流する。河内長野市はこれら河川によって作られた谷や河岸段丘上に集落が発達している。特に中心となる長野や三日市は谷口の集落として、また、各谷筋を通る街道の要衝として発達してきたものである。



第３図　調査区位置図（１／5000）

２　歴史的環境

遺跡もまた、谷筋毎に分布している。縄文時代の遺跡は最近増加しているが、石川本流から天見川沿いに北から向野遺跡、喜多町遺跡、三日市遺跡、小塩遺跡の４遺跡があり、後期を中心とする土器が出土している。また、石川本流には高向遺跡や宮山遺跡があり、宮山遺跡からは中期後半の土器と共に竪穴住居も確認されている。さらに、三日市遺跡や小塩遺跡からは早期の押型文土器が出土している。これらの遺跡以外に高向遺跡、高木遺跡、寺ケ池遺跡、菱子尻遺跡からはサヌカイト片や石器が出土している。

弥生時代は石川左岸の塩谷遺跡や天見川右岸の三日市遺跡から中期の遺物が、大師山遺跡からは後期の遺物が出土している。

古墳時代は天見川を見下ろす位置に前期の前方後円墳である大師山古墳、中期の三日市遺跡の古墳群、後期の烏帽子形古墳が分布している。石川本流の向野町から寿町にかけては五ノ木古墳、法師塚古墳、双子塚古墳などの古墳が分布していた。また、石川の左岸の上原町には塚穴古墳が現存している。集落遺跡では前期から中期にかけては天見川沿いに三日市遺跡があり、後期前半では同じく天見川沿いに喜多町遺跡、そして当該遺跡と同じ段丘上に近接して小塩遺跡、加塩遺跡がある。

奈良時代になると、高向遺跡や喜多町遺跡、小塩遺跡から掘立柱建物や土坑が検出されている。また、本市と大阪狭山市との市境の小山田町からは２基の火葬墓が発見されてい

る。

平安時代の遺跡は向野遺跡や天見川沿いの尾崎遺跡の10世紀の掘立柱建物や三日市遺跡の11～12世紀の掘立柱建物、そして石川本流の野間里遺跡が確認されている。また市内にある観心寺や金剛寺などの寺院は平安時代末頃から伽藍が整い多くの荘園を有していた。

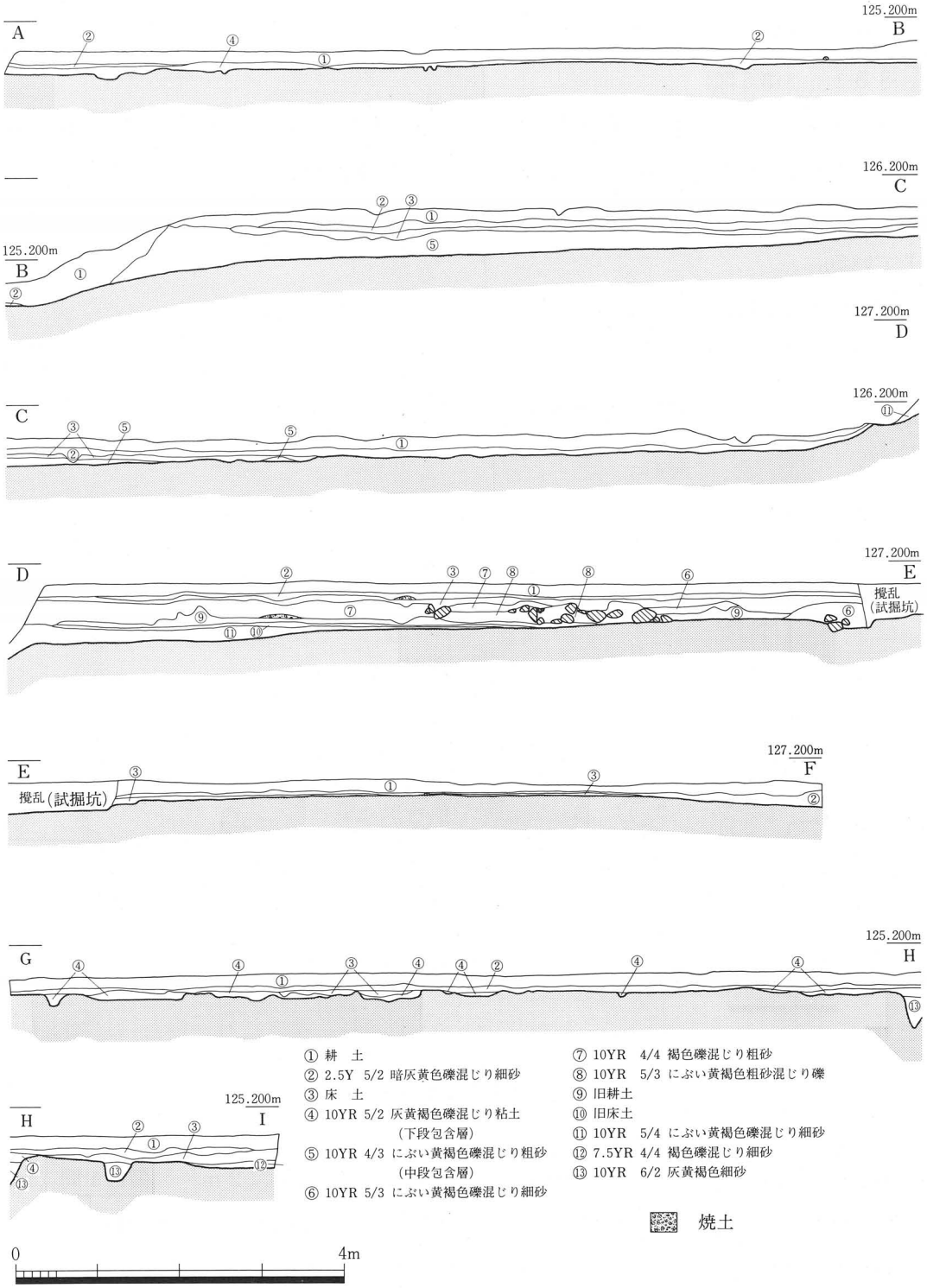
中世になると、交通路が整備され各谷筋を通る高野街道や天野街道沿いに集落が分布している。とくに、西高野街道では北から菱子尻遺跡や古野町遺跡があり、東高野街道では向野遺跡がある。西、東が一つとなって天見川沿いを南に伸びる高野街道では、合流付近の長野神社遺跡や、喜多町遺跡、更に南に三日市遺跡、尾崎遺跡、ジョウノマエ遺跡、清水遺跡、千早口駅南遺跡（寺院跡も含む）、天見駅北方遺跡、蟹井淵北遺跡、蟹井淵南遺跡と続く。これらは明らかに街道と共に発達した遺跡である。集落跡以外では、同じように街道を見下ろす尾根上には南北朝から戦国時代にかけての城塞が20数ヵ所分布している。生産遺跡としては平安時代から中世にかけての炭焼窯と思われる窯跡が市内の山間部に分布している。

近世になると近江膳所藩や河内西代藩の陣屋跡があり、さらに、確認数は少ないが近世瓦窯趾も、地元の伝承通り確認されている。

当遺跡の周囲を見れば、中位段丘上には高向遺跡が位置する。また石川の対岸には縄文時代の宮山遺跡や古墳時代の宮山古墳、サヌカイト片が散布する高木遺跡がある。宮の下遺跡の周囲は遺跡が密に分布する所である。

第２章　調査の結果

第１節　第１調査区



第４図　第１調査区土層断面実測図（１／80）

1　概略

本調査区は遺跡の南側に位置し、標高130mを測る。調査区のある低位段丘は中位段丘崖から石川に向かって高度を下げている。調査区の東側は石川が流れ、川原と約５mの比高差がある。西側は中位段丘と約27mの段丘崖がある。調査面積は約1000m²である。

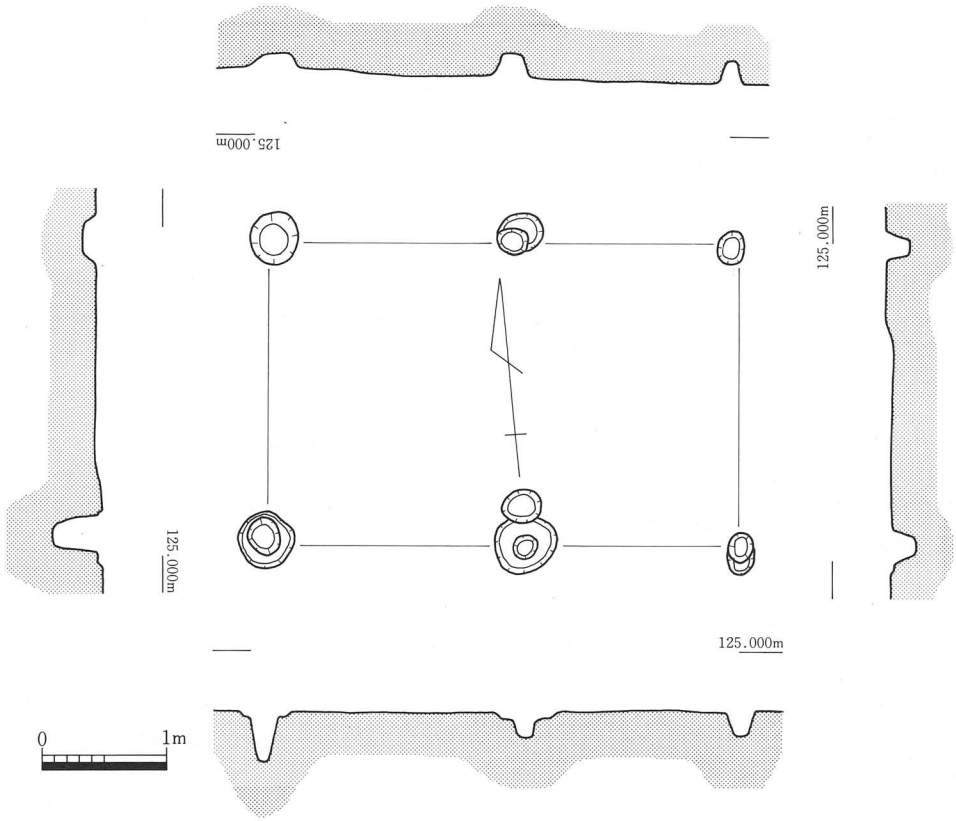
2　遺構と遺物

(1)掘立柱建物

［ＳＢ１］（第５図）

第１調査区の下段南側端で検出されている。桁行２間（3.7m）×梁行１間（2.4m）の建物である。桁行方向はＮ－85°－Ｗを示す。桁行柱間は西側から２ｍ・1.7mを測る。柱穴は径0.2m、深さは0.2mで掘方は楕円形で長径0.4mを測る。建物はＳＫ15・16と重複している。

実測可能な遺物は出土しなかった。

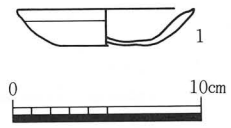


第５図　ＳＢ１遺構実測図（１／60）

［ＳＢ２］（第６図・７図、図版８）

調査区の下段北側でＳＢ３の西側３ｍに位置する。桁行１間（２ｍ）×梁行１間（1.9ｍ）の建物である。桁行方向はＮ－４°－Ｅを示す。掘方は楕円形で長径0.3m、深さは0.05mで柱穴は確認できなかった。建物としては規模も小さく柱の本数も４本であるところから倉庫小屋のようなものと考えられる。

遺物は南西隅の柱穴から土師質皿（1）が出土した。

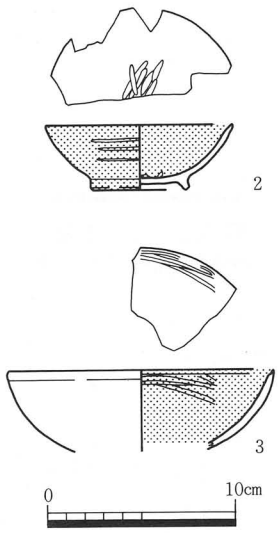


第６図　ＳＢ２出土遺物実測図

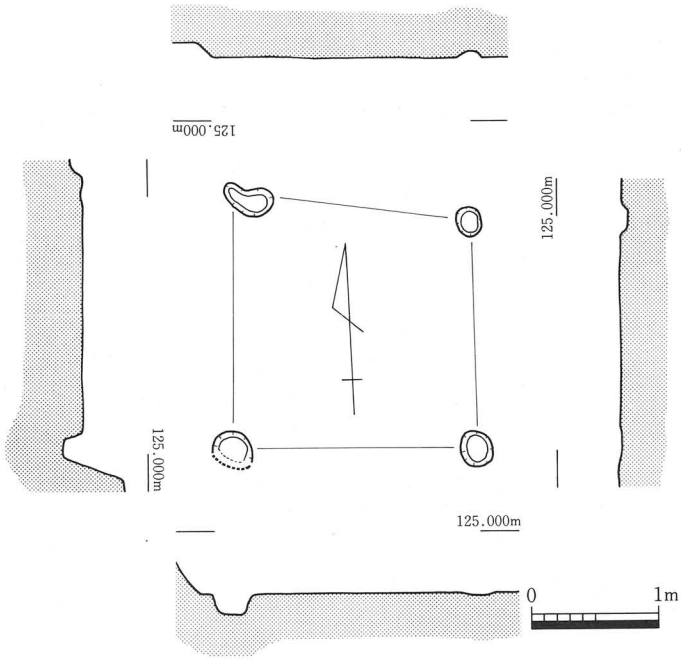
［ＳＢ３］（第８図・９図、図版２・８）

調査区の下段北側でＳＢ２の東側３ｍに位置し、ＳＫ26と重複する。桁行２間（4.4m）×梁行１間（2.2m）の建物である。桁行方向はＮ－４°－Ｅを示す。桁行柱間は北側から2.4ｍ・1.9ｍを測る。柱穴は確認されず、掘方だけで平均径0.3m、深さは0.2mを測る。

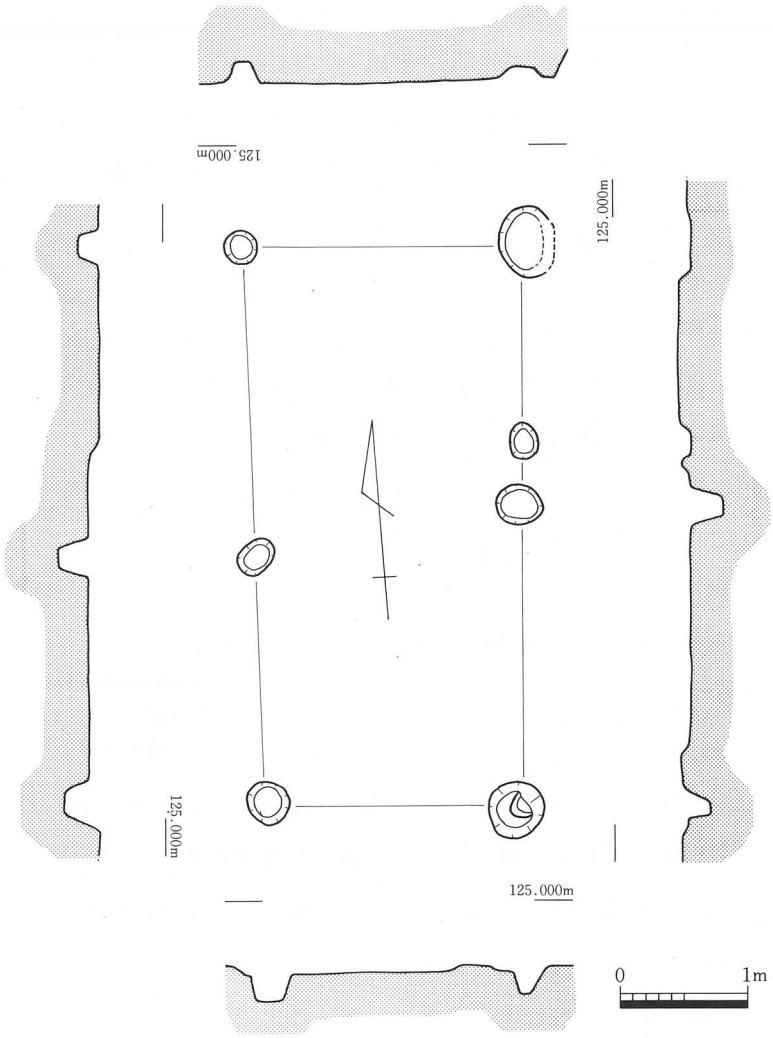
遺物は北西と南西隅の柱穴から、黒色土器Ｂ類埦（２）と黒色土器Ａ類埦（３）が出土した。



第８図　ＳＢ３出土遺物実測図



第７図　ＳＢ２遺構実測図（１／60）



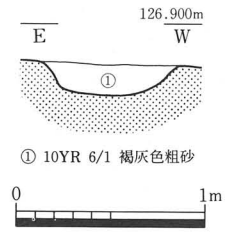
第９図　ＳＢ３遺構実測図（１／60）

（２）溝

［ＳＤ１］（第10図）

調査区の上段西側端で南北に約7.6mの長さで検出された。南端は調査区外に走るようである。埋土は褐灰色粗砂の一層である。最大幅は1.2m、深さは0.2mを測る。

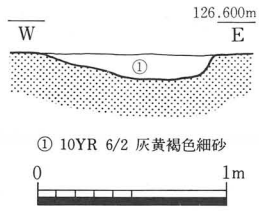
実測可能な遺物は出土しなかった。



第10図　ＳＤ１遺構
断面実測図（１／40）

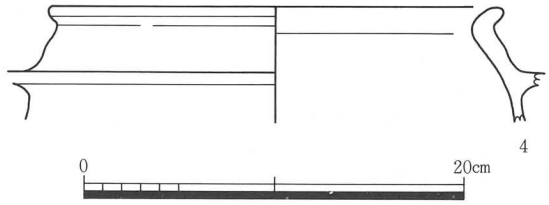
［ＳＤ２］（第11図・12図、図版８）

調査区の上段中央でＳＤ３の西側を平行するように南北に走る。検出長は約6.1mである。北端は不明であるが調査区内で終わる。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。最大幅は１m、深さは0.09mを測る。



第11図　ＳＤ２遺構
断面実測図（１／40）

実測できたのは土師質の土釜（４）１点であった。

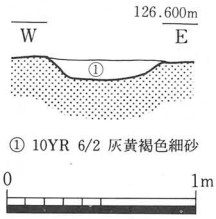


第12図　ＳＤ２出土遺物実測図

［ＳＤ３］（第13図）

調査区の上段中央でＳＤ２の東側を平行するように南北に走る。検出長は約6.3mで、ＳＤ２と同様に北端は不明であるが調査区内で終わるようである。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。最大幅は0.7m、深さは0.09mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

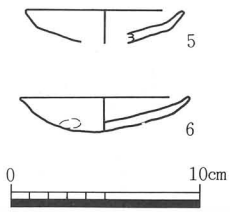


第13図　ＳＤ３遺構
断面実測図（１／40）

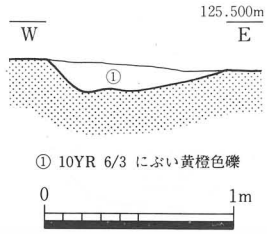
［ＳＤ４］（第14図・15図、図版３・８）

調査区の中段中央でＳＤ５の西側を平行するよう西に偏しながら約6.9mの長さで検出された。溝は北端がやや広がる。埋土はにぶい黄橙色礫の一層である。最大幅は2.0m、深さは0.2mを測る。

実測できたのは土師質の皿（５・６）の２点であった。



第14図　ＳＤ４出土
遺物実測図

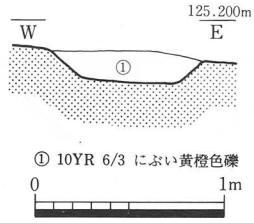


第15図　ＳＤ４遺構
断面実測図（１／40）

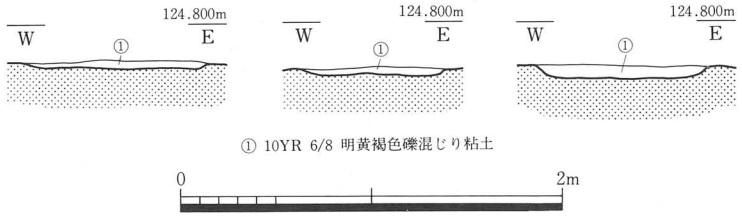
［ＳＤ５］（第16図、図版３）

調査区の中段中央でＳＤ４の東側を平行するよう西に偏しながら約19mの長さで検出された。溝は北端がやや広がる。埋土はにぶい黄橙色礫の一層である。最大幅は1.5m、深さは0.2mを測る。

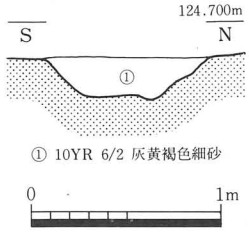
実測可能な遺物は出土しなかった。



第16図　ＳＤ５遺構
断面実測図（１／40）



第17図　ＳＤ６遺構断面実測図（１／40）



第18図　ＳＤ７遺構断面実測図（１／40）

［ＳＤ６］（第17図、図版３）

調査区の下段の西端で中段との境で南北に30m検出され調査区外に走る。埋土は明黄褐色礫混じり粘土の一層であった。最大幅は1.4m、深さは0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

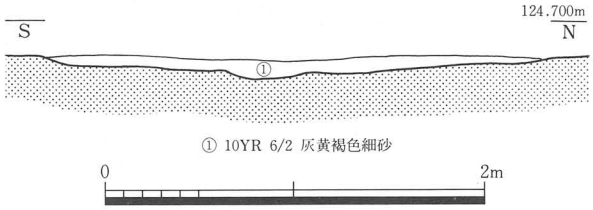
［ＳＤ７］（第18図）

調査区の下段でＳＢ１の北側約３ｍに位置し、東西に5.5m走るのが検出された。溝は不定形な形状を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。最大幅は1.5m、深さは0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

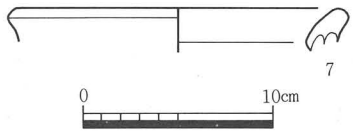
［ＳＤ８］（第19図・20図、図版８）

調査区の下段でＳＤ７の北側約３ｍに位置し、東西に6.6m走り、東側は調査区外に広がる。溝は不定形な形状を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。最大幅は3.2m、深さは0.1mを測る。



第19図　ＳＤ８遺構断面実測図（１／40）

実測できたのは土師質の甕（７）１点であった。

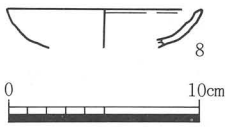


第20図　ＳＤ８出土遺物実測図

［ＳＤ９］（第21図、図版８）

調査区の下段の北側でＳＢ２の南側約１ｍに位置する。溝は不定形な形状を呈し、西側をＳＤ６によって切られている。最大幅は1.2m、深さは0.1mを測る。

実測できたのは土師質の皿（８）１点であった。

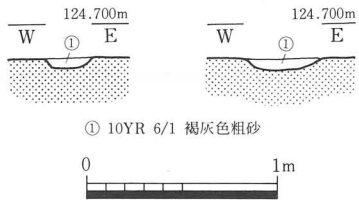


第21図　ＳＤ９出土遺物実測図

［ＳＤ10］（第22図）

調査区の下段の北側でＳＢ３の東側約４ｍを南北に走る。検出長は8.3mを測り南端は調査区外にのびる。埋土は褐灰色粗砂の一層である。最大幅は0.45m、深さは0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

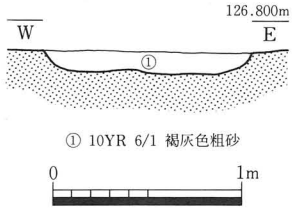


第22図　ＳＤ10遺構断面実測図（１／40）

（３）土坑

［ＳＫ１］（第23図）

調査区の上段でＳＤ１の東側約１ｍに位置する。平面形は不定形な長楕円形を呈する。埋土は褐灰色粗砂の一層である。主軸方向はＮ－18°－Ｅを示す。長径2.07ｍ、短径1.06ｍ、深さ0.15ｍを測る。



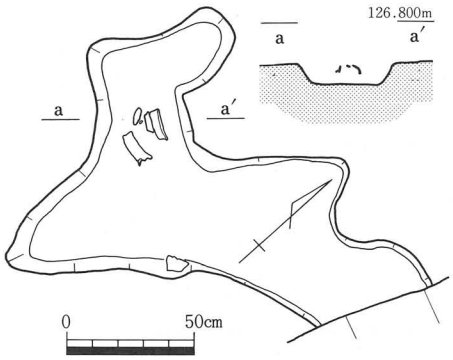
第23図　ＳＫ１遺構断面実測図（１／40）

実測可能な遺物は出土しなかった。

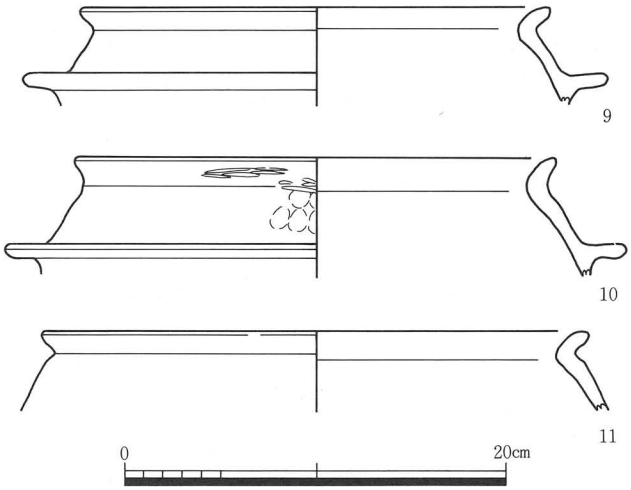
［ＳＫ２］（第24図・25図、図版８）

調査区の上段でＳＫ１の東側約２ｍに位置する。平面形は不定形な土坑で東側は削平されている。遺構内西側からは土師質の土釜が出土した。長軸1.66ｍ、短軸1.27ｍ、深さ0.1ｍを測る。

出土遺物は土師質土釜（９～11）がある。



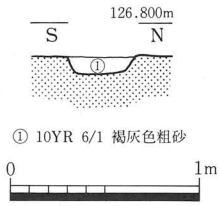
第24図　ＳＫ２遺構実測図（１／30）



第25図　ＳＫ２出土遺物実測図

［ＳＫ３］（第26図）

調査区の上段でＳＫ２の北側約1.5ｍに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈している。埋土は褐灰色粗砂の一層である。主軸方向はＮ－51°－Ｗを示す。長径0.98ｍ、短径0.46ｍ、深さ0.1ｍを測る。

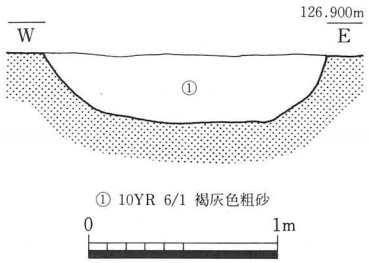


第26図　ＳＫ３遺構断面実測図（１／40）

遺物は出土しなかった。

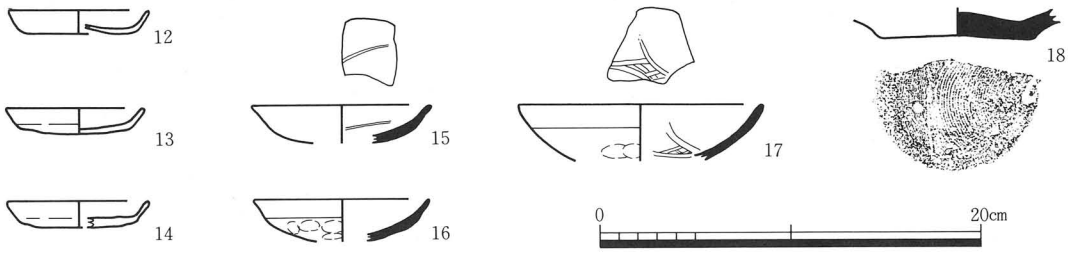
［ＳＫ４］（第27図・28図、図版８）

調査区の上段でＳＫ１の北側約８ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は褐灰色粗砂の一層であるが、土坑内部には川原石が充填されていた。主軸方向はＮ－１°－Ｗを示す。長径1.8ｍ、短径1.53ｍ、深さ0.38ｍを測る。



第27図　ＳＫ４遺構断面実測図（１／40）

出土遺物は土師質皿（12～14）、瓦器椀（15～17）、須恵質鉢？底部（18）が図示できた。

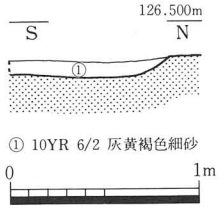


第28図　ＳＫ４出土遺物実測図

［ＳＫ５］（第29図）

調査区の上段でＳＤ３の南側約２ｍに位置する。土坑の南側は調査区外に広がるが平面形は楕円形を呈すると思われる。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。主軸方向はＮ－90°－Ｗを示す。長径3.28ｍ、短径0.9ｍ、深さ0.1ｍを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

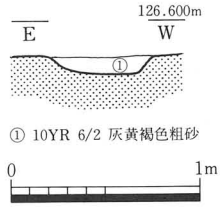


第29図　ＳＫ５遺構断面実測図（１／40）

［ＳＫ６］（第30図）

調査区の上段でＳＤ２の西側約１ｍに位置する。平面形は円形を呈している。埋土は灰黄褐色粗砂の一層である。径0.55ｍ、深さ0.1ｍを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

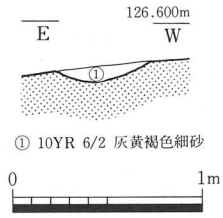


第30図　ＳＫ６遺構断面実測図（１／40）

［ＳＫ７］（第31図）

調査区の上段でＳＤ３の東側約0.5ｍに位置する。平面形は長楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。主軸方向はＮ－４°－Ｗを示す。長径2.1ｍ、短径0.5ｍ、深さ0.15ｍを測る。

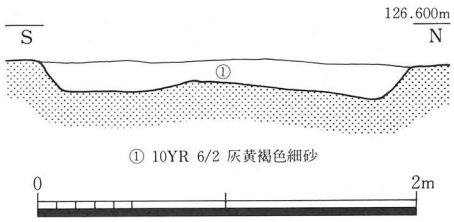
実測可能な遺物は出土しなかった。



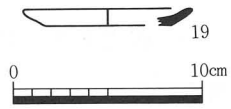
第31図　ＳＫ７遺構断面実測図（１／40）

［ＳＫ８］（第32図・33図、図版８）

調査区の上段でＳＫ４の東側約７ｍに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色粗細砂の一層である。主軸方向はＮ－33°－Ｗを示す。長径2.93ｍ、短径2.5ｍ、深さ0.2ｍを測る。



第32図　ＳＫ８遺構断面実測図（１／40）

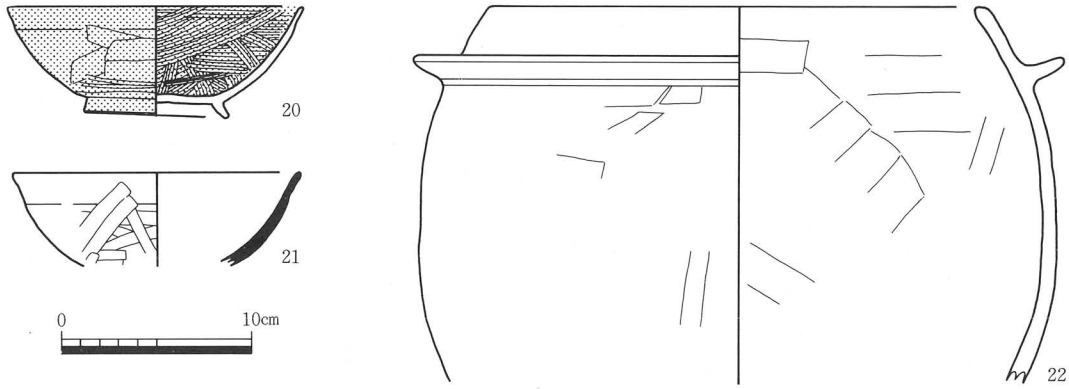


第33図　ＳＫ８出土遺物実測図

出土遺物は瓦器皿（19）が１点図示できた。

［ＳＫ９］（第34図・35図、図版４・８・９）

調査区の中段でＳＫ８の東側約６ｍに位置する。平面形は不定形な長楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。主軸方向はＮ－87°－Ｅを示す。長径3.05ｍ、短径1.15ｍ、深さ0.2ｍを測る。



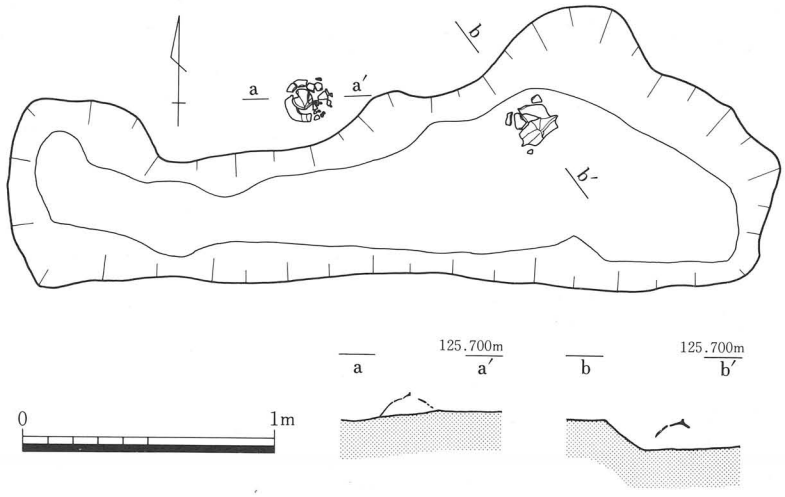
第34図　ＳＫ９出土遺物実測図

遺物は土坑の北側肩部から黒色土器Ｂ類埦（20）、土坑内からは瓦器埦（21）と土師質土釜（22）が図示できた。

［ＳＫ10］（第36図）

調査区の中段でＳＫ９の北東側約２ｍに位置する。平面形は不定形な長楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色礫混じり粗砂の一層である。主軸方向はＮ－６°－Ｗを示す。長径2.05m、短径1.25m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

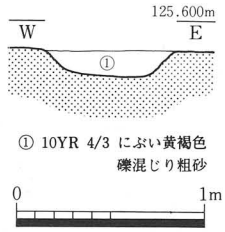


第35図　ＳＫ９遺構実測図（１／30）

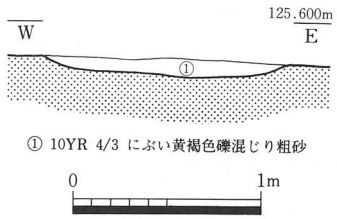
［ＳＫ11］

調査区の中段でＳＫ12の南側に接して検出された。平面形は楕円形を呈している。埋土はにぶい黄褐色礫混じり粗砂の一層である。長径0.58m、短径0.43m、深さ0.15mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。



第36図　ＳＫ10遺構断面実測図（１／40）

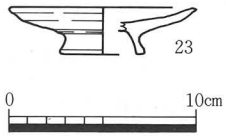


第37図　ＳＫ12遺構断面実測図（１／40）

［ＳＫ12］（第37図・38図、図版３・８）

調査区の中段でＳＫ11の北側に接して検出された。平面形は不定形を呈している。埋土はにぶい黄褐色礫混じり粗砂の一層である。長径1.71m、短径1.22m、深さ0.12mを測る。

遺物は土師質台付坏（23）が図示できた。

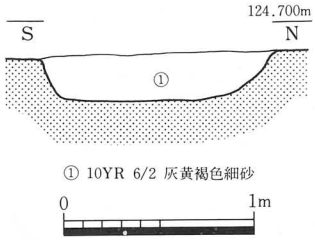


第38図　ＳＫ12出土遺物実測図

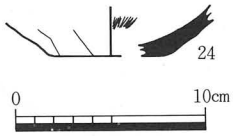
［ＳＫ13］（第39図・40図、図版９）

調査区の下段で調査区の南端に位置し、南側及び東側は調査区外に広がるようである。平面形は不定形な方形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。検出長軸1.71m、短軸1.44m、深さ0.3mを測る。

遺物は瓦質擂鉢（24）が図示できた。



第39図　ＳＫ13遺構断面実測図(1/40)

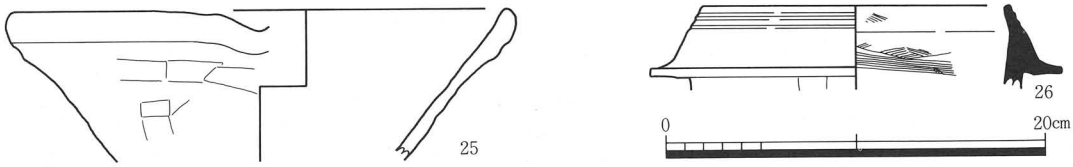


第40図　ＳＫ13出土遺物実測図

［ＳＫ14］（第41図、図版９）

調査区の下段でＳＫ13の北側１mに位置する。平面形は楕円形を呈するようである。主軸方向はＮ－74°－Ｗを示す。規模は長径1.14m、短径0.49m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質片口練鉢（25）と瓦質土釜（26）が図示できた。

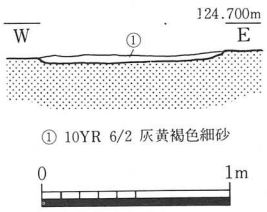


第41図　ＳＫ14出土遺物実測図

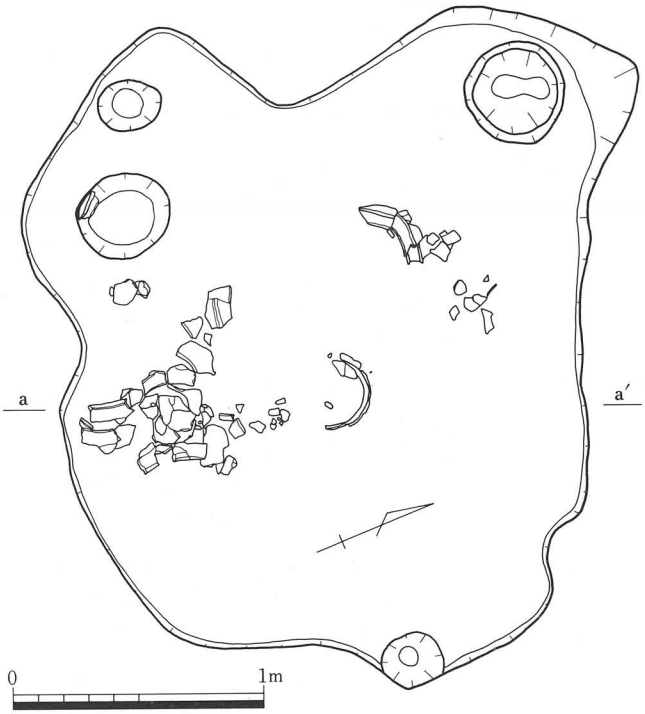
［ＳＫ15］（第42図）

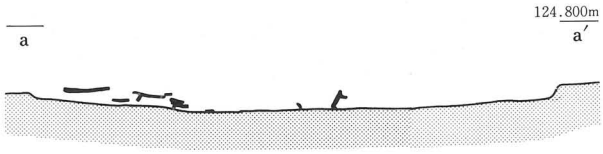
調査区の下段でＳＫ14の北側４mに位置する。平面形はやや不定形な楕円形を呈するようである。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。主軸方向はＮ－２°－Ｗを示す。規模は長径1.57m、短径0.97m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。



第42図　ＳＫ15遺構断面実測図(1/40)

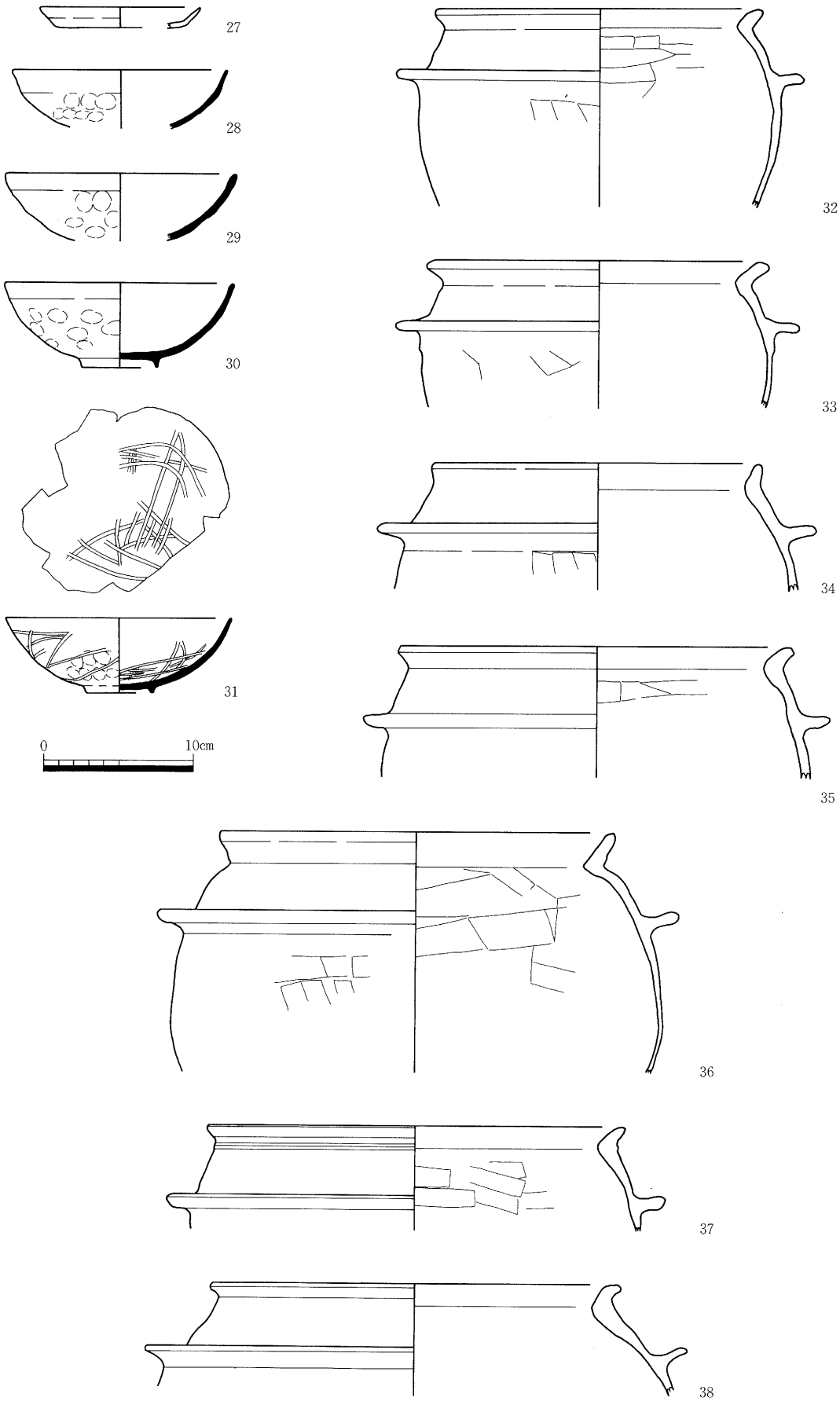




第43図　ＳＫ16遺構実測図（１／30）

［ＳＫ16］（第43図～第45図、図版４・９・10）

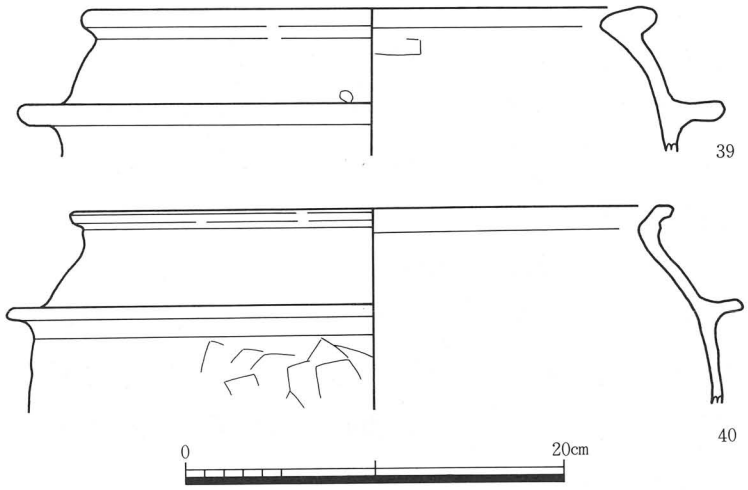
調査区の下段でＳＫ15の西側１mに位置し、ＳＢ１と重複する。平面形はやや不定形な台形を呈す



第44図　ＳＫ16出土遺物実測図（１）

る。内部からは土釜を中心に土器が一括で出土した。主軸方向はN－36°－Wを示す。長軸2.91m、短軸2.64m、深さ0.13mを測る。

遺物は土師質皿（27）、瓦器椀（28～31）、土師質土釜（32～40）が図示できた。

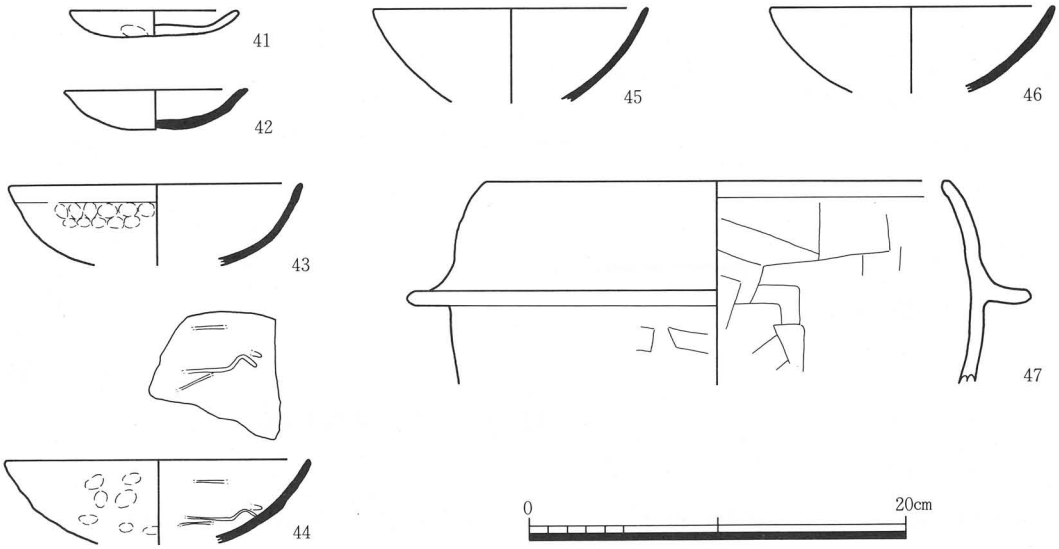


第45図　ＳＫ16出土遺物実測図（２）

［ＳＫ17］（第46図、図版10）

調査区の下段でＳＫ15の東北側３ｍに位置する。平面形はやや不定形な長楕円形を呈する。内部からは土釜を中心に土器が一括で出土した。主軸方向はN－１°－Eを示す。長径1.2m、短径0.54m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿（41）と瓦器皿（42）、更に瓦器椀（43～46）と土師質土釜（47）が図示できた。

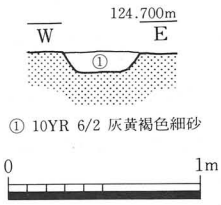


第46図　ＳＫ17出土遺物実測図

［ＳＫ18］（第47図）

調査区の下段でＳＫ16の西北側３ｍに位置する。平面形はやや不定形な梨形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。主軸方向はN－17°－Wを示す。長径0.7m、短径0.6m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

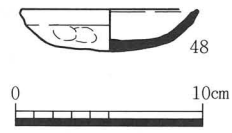


第47図　ＳＫ18
遺構断面実測図（１／40）

［ＳＫ19］（第48図、図版10）

調査区の下段でＳＫ18の東側１ｍに位置する。平面形は不定形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。土坑の主軸方向はＮ－70°－Ｗを示す。長径0.6m、短径0.4m、深さ0.3mを測る。

遺物は瓦器皿（48）が図示できた。

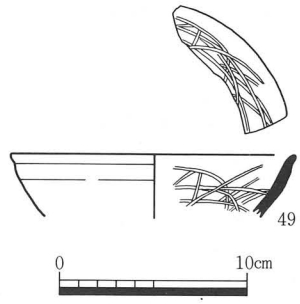


第48図　ＳＫ19出土遺物実測図

［ＳＫ20］（第49図、図版10）

調査区の下段でＳＫ19の北側２ｍに位置する。平面形は不定形を呈する。南側はＳＤ７と重複している。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。長径0.92m、短径0.65m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器椀（49）が図示できた。

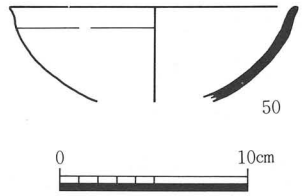


第49図　ＳＫ20出土遺物実測図

［ＳＫ21］（第50図、図版10）

調査区の下段でＳＫ19の北側２ｍに位置する。ＳＫ20の東側に接し、平面形は不定形を呈する。南側はＳＤ７と重複している。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。長径0.83m、短径0.36m、深さ0.4mを測る。

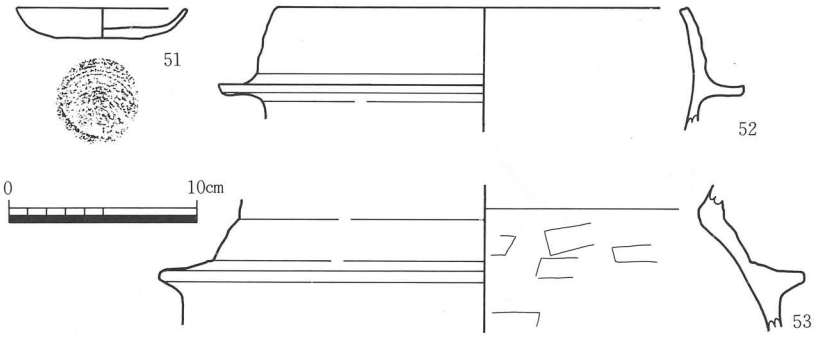
遺物は瓦器椀（50）が図示できた。



第50図　ＳＫ21出土遺物実測図

［ＳＫ22］（第51図、図版10）

調査区の下段でＳＫ21の東側２ｍに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。長径0.5m、短径0.4m、深さ0.4mを測る。



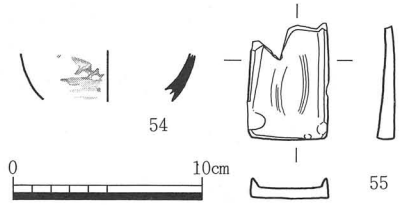
第51図　ＳＫ22出土遺物実測図

遺物は土師質の糸切り底を持つ皿（51）、土師質の土釜（52・53）が図示できた。

［ＳＫ23］（第52図、図版10）

調査区の下段でＳＫ21の北側１ｍに位置する。平面形は不定形な東西に長い楕円形を呈する。長径2.1m、短径1.16m、深さ0.1mを測る。

遺物は染付け碗（54）、石製の硯（55）が図示できた。

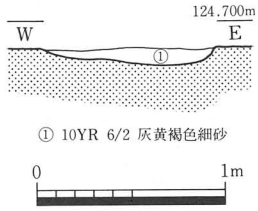


第52図　ＳＫ23出土遺物実測図

［ＳＫ24］（第53図）

調査区の下段でＳＫ20の北側９ｍに位置する。平面形は不定形な南北にやや幅を持つ長い楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。長径2.44m、短径1.0m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

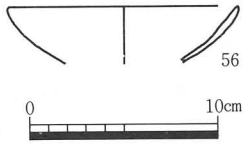


第53図　ＳＫ24遺構断面実測図（１/40）

［ＳＫ25］（第54図、図版10）

調査区の下段でＳＫ24の北西側６ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。長径0.52m、短径0.4m、深さ0.3mを測る。

遺物は土師質坏（56）が図示できた。

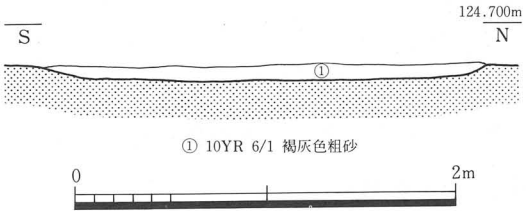


第54図　ＳＫ25出土遺物実測図

［ＳＫ26］（第55図）

調査区の下段でＳＫ25の北東側５ｍに位置しＳＢ３と重複する。平面形は南辺が不定形な長方形の大型の土坑である。埋土は褐灰色粗砂の一層である。長軸6.88m、短軸3.5m、深さ0.5mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

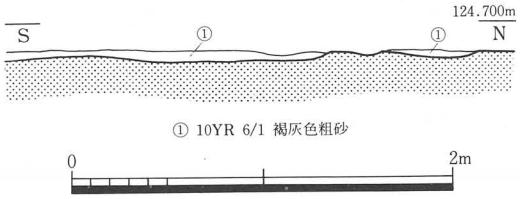


第55図　ＳＫ26遺構断面実測図（１／40）

［ＳＫ27］（第56図）

調査区の下段でＳＫ26の北側1.5mに位置する。平面形は西辺が不定形な長方形の大型の土坑である。埋土は褐灰色粗砂の一層である。長軸4.83m、短軸４ｍ、深さ0.12mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。



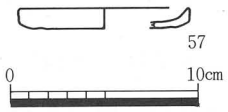
第56図　ＳＫ27遺構断面実測図（１／40）

（４）遺物出土ピット

［ＳＰ１］（第57図、図版10）

調査区の上段でＳＫ２の北側約２ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.28m、短径0.2m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質皿（57）が図示できた。

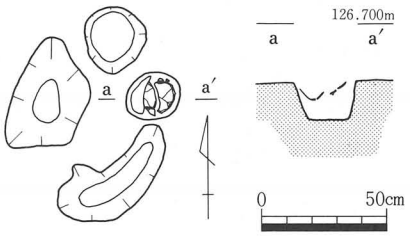


第57図　ＳＰ１出土遺物実測図

［ＳＰ２］（第58図・59図、図版11）

調査区の上段でＳＰ１の南東側約１ｍに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.2m、深さ0.2mを測る。

遺物は埋土上位から瓦器椀（58）が出土した。



第58図　ＳＰ２遺構実測図（１／30）

［ＳＰ３］（第60図、図版５・11）

調査区の上段でＳＫ５の北側約５ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.4ｍ、短径0.37ｍ、深さ0.3ｍを測る。

遺物は土師質皿（59）が図示できた。

［ＳＰ４］

調査区の中段でＳＫ９の北側約２ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.4ｍ、短径0.3ｍ、深さ0.3ｍを測る。

遺物はＳＰ13から出土した黒色土器Ａ類埦と接合した。

［ＳＰ５］（第61図、図版11）

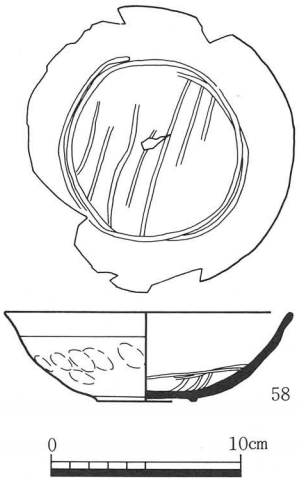
調査区の下段でＳＫ14の北側約１ｍに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.3ｍ、深さ0.3ｍを測る。

遺物は瓦器皿（60）が図示できた。

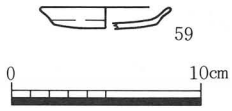
［ＳＰ６］（第62図、図版10）

調査区の下段でＳＰ５の北側約３ｍに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.53ｍ、短径0.49ｍ、深さ0.2ｍを測る。

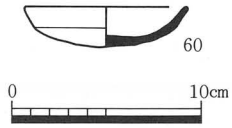
遺物は土師質土釜（61）が出土した。



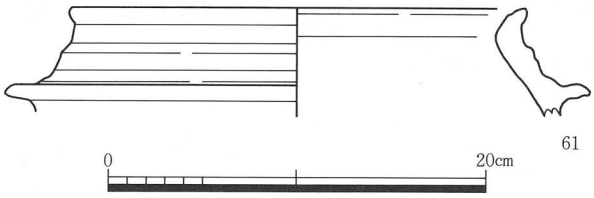
第59図　ＳＰ２出土遺物実測図



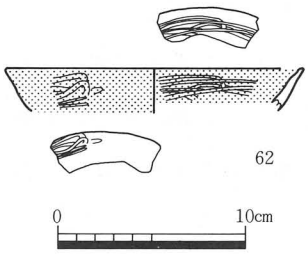
第60図　ＳＰ３出土遺物実測図



第61図　ＳＰ５出土遺物実測図



第62図　ＳＰ６出土遺物実測図



第63図　ＳＰ７出土遺物実測図

［ＳＰ７］（第63図、図版10）

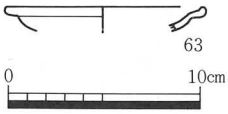
調査区の下段でＳＫ16の西側約２ｍに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.3ｍ、深さ0.3ｍを測る。

遺物は黒色土器Ｂ類埦（62）が出土した。

［ＳＰ８］（第64図、図版10）

調査区の下段でＳＫ15の北側約３ｍに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.26ｍ、深さ0.3ｍを測る。

遺物は土師質皿（63）が出土した。



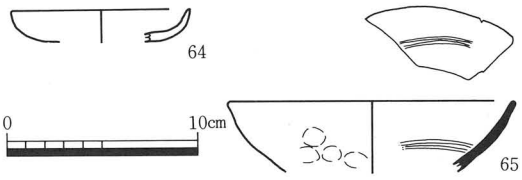
第64図　ＳＰ８出土遺物実測図

［ＳＰ９］（第65図、図版10）

調査区の下段でＳＰ８の東側約0.5ｍに位置する。平面形は角丸方形を呈する。埋土は

灰黄色粗砂の一層である。一辺0.3m、深さ0.3mを測る。

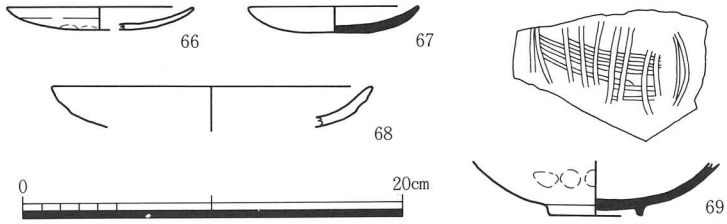
遺物は土師質皿（64）と瓦器椀（65）が出土した。



第65図　ＳＰ９出土遺物実測図

［ＳＰ10］（第66図、図版10）

調査区の下段でＳＰ８の北側約0.5mに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.19m、短径0.1m、深さ0.02mを測る。

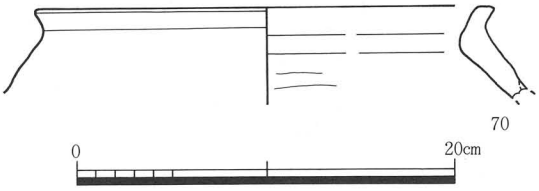


第66図　ＳＰ10出土遺物実測図

遺物は土師質皿（66・68）と瓦器皿（67）、瓦器椀（69）が出土した。

［ＳＰ11］（第67図、図版10）

調査区の下段でＳＫ22の西側に接して位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.2m、深さ0.2mを測る。

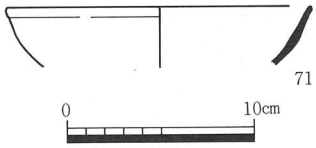


第67図　ＳＰ11出土遺物実測図

遺物は土師質土釜（70）が出土した。

［ＳＰ12］（第68図、図版10）

調査区の下段でＳＫ20の北側に接して位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.23m、短径0.2m、深さ0.2mを測る。



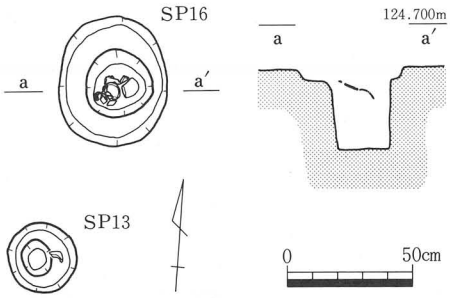
第68図　ＳＰ12出土遺物実測図

遺物は瓦器椀（71）が出土した。

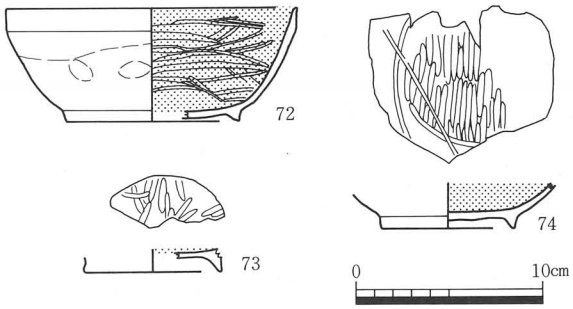
［ＳＰ13］（第69図・70図、図版11）

調査区の下段でＳＤ６の西側約１mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。掘方を有し、掘方径0.29m、柱穴径0.15m、深さ0.2mを測る。

遺物はＳＰ４から出土した黒色土器Ａ類椀と接合した（72）の他に（73・74）が出土した。



第69図　ＳＰ13・16遺構実測図（１/30）



第70図　ＳＰ13出土遺物実測図

［ＳＰ14］

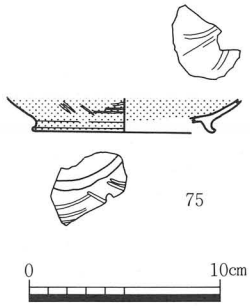
調査区の下段でＳＰ13の東側約１ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.24m、短径0.18m、深さ0.2mを測る。

遺物は約50ｇの鉄滓が出土した。

［ＳＰ15］（第71図、図版11）

調査区の下段でＳＰ14の北側約１ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.38m、短径0.26m、深さ0.2mを測る。

遺物は黒色土器Ｂ類埦（75）が出土した。

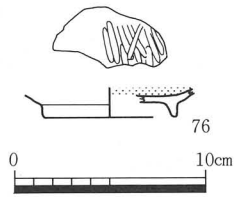


第71図　ＳＰ15出土遺物実測図

［ＳＰ16］（第69図・72図、図版11）

調査区の下段でＳＰ13の北側約0.4mに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.52m、短径0.43m、深さ0.3mを測る。

遺物は黒色土器Ａ類埦（76）が出土した。

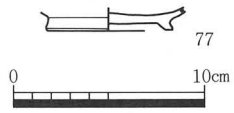


第72図　ＳＰ16出土遺物実測図

［ＳＰ17］（第73図、図版５・11）

調査区の下段でＳＰ16の北東側約３ｍに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.3m、深さ0.5ｍを測る。

遺物は土師質埦（77）が出土した。

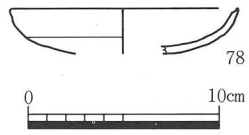


第73図　ＳＰ17出土遺物実測図

［ＳＰ18］（第74図、図版11）

調査区の下段でＳＰ16の北東側約３ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.42m、短径0.33m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質皿（78）が出土した。

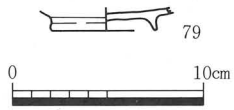


第74図　ＳＰ18出土遺物実測図

［ＳＰ19］（第75図、図版11）

調査区の下段でＳＰ18の北西側約１ｍに位置する。平面形は長楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.4m、短径0.2m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質埦（79）が出土した。

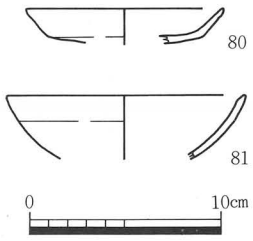


第75図　ＳＰ19出土遺物実測図

［ＳＰ20］（第76図、図版11）

調査区の下段でＳＢ３の南側約２ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.3m、短径0.2m、深さ0.4mを測る。

遺物は土師質皿（80）、土師質埦（81）が出土した。

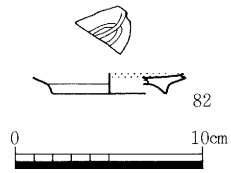


第76図　ＳＰ20出土遺物実測図

［ＳＰ21］（第77図、図版11）

調査区の下段でＳＢ３の南側梁行中央に位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.3m、深さ0.4mを測る。このピットはその位置からＳＢ３を構成する柱穴の可能性が高い。

遺物は黒色土器Ａ類埦（82）が出土した。



第77図　ＳＰ21出土遺物実測図

（５）　包含層（第78図～81図、図版11～14）

包含層からは弥生土器・須恵器・土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器・瓦質土器・輸入陶磁器・国産陶器が出土している。また砥石・サヌカイト製打製石器や鉄製釘・不明鉄製品が出土している。

［弥生土器］

櫛描き廉状文がみられる中期の壺体部（169）が出土している。胎土は生駒山西麓のものである。

［須恵器］

坏身（85・86）と高坏脚部（87）、壺口縁部（129）・体部（130）、甕口縁部（153）・底部（132）がある。（88）については脚部か蓋の口縁部かの判断はできなかった。坏身および高坏脚部、壺体部は陶邑編年のＩ－４に該当する。

［土師器］

高坏の脚部が２点出土した。（84）は布留式土器、（83）は外面が面取りされた奈良時代の高坏である。

［黒色土器］

黒色土器は３点（122～124）図示できた。全て内黒のＡ類埦で（122・124）は口縁部端部内面が段を成す。

［土師質土器］

皿（89～104）と土釜（136・137・144～148）、甕（149～152）、擂鉢（128）が見られる。皿は径６㎝から８㎝のものがほとんどで（104）だけが径11.4㎝を測った。土釜は全て口縁部が短く「くの字」に外反し端部は丸くおさめている。甕は口縁部が短く外反する。

［須恵質土器］

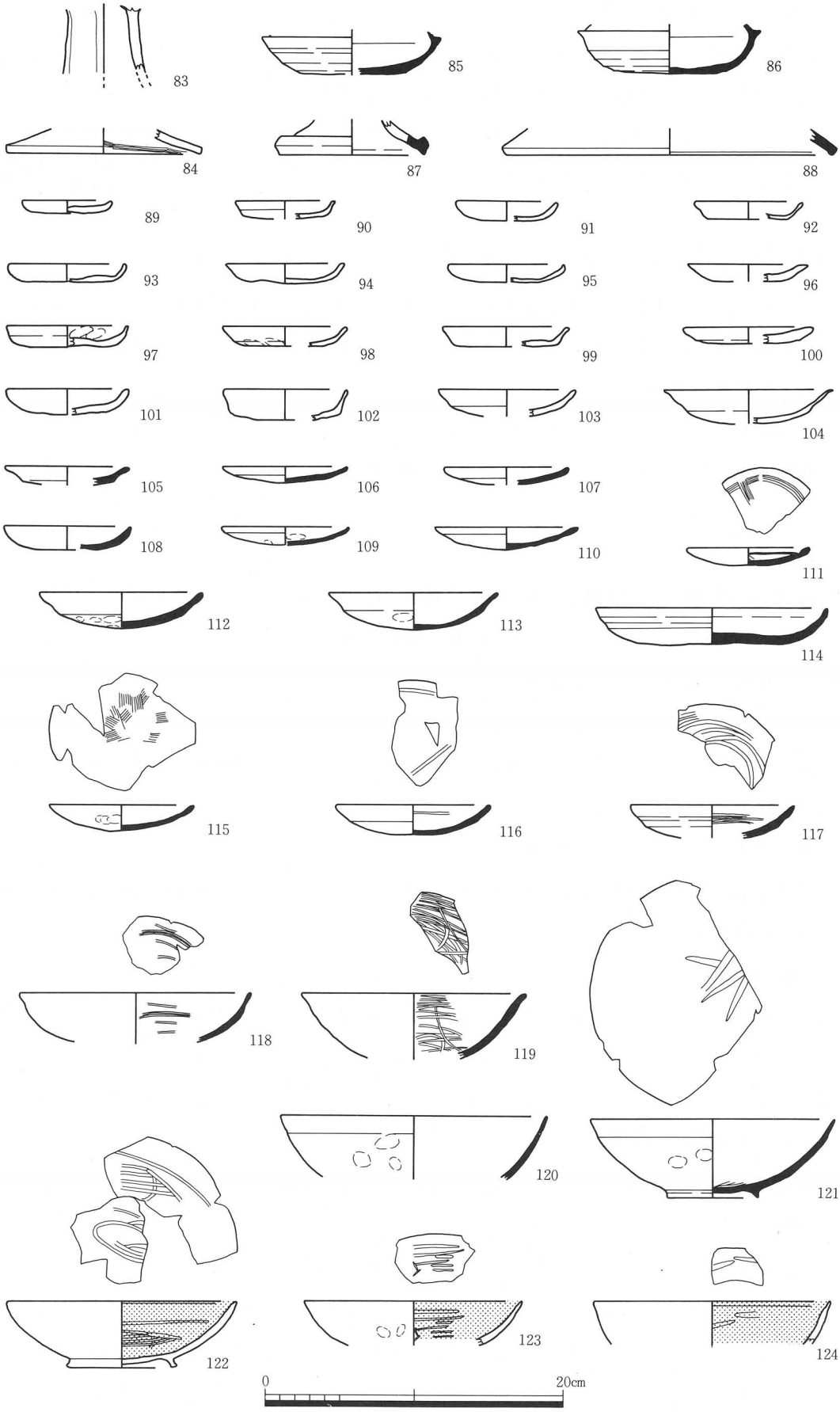
東播系と思われる練鉢の口縁部（125～127）と底部（131）とがある。

［瓦器］

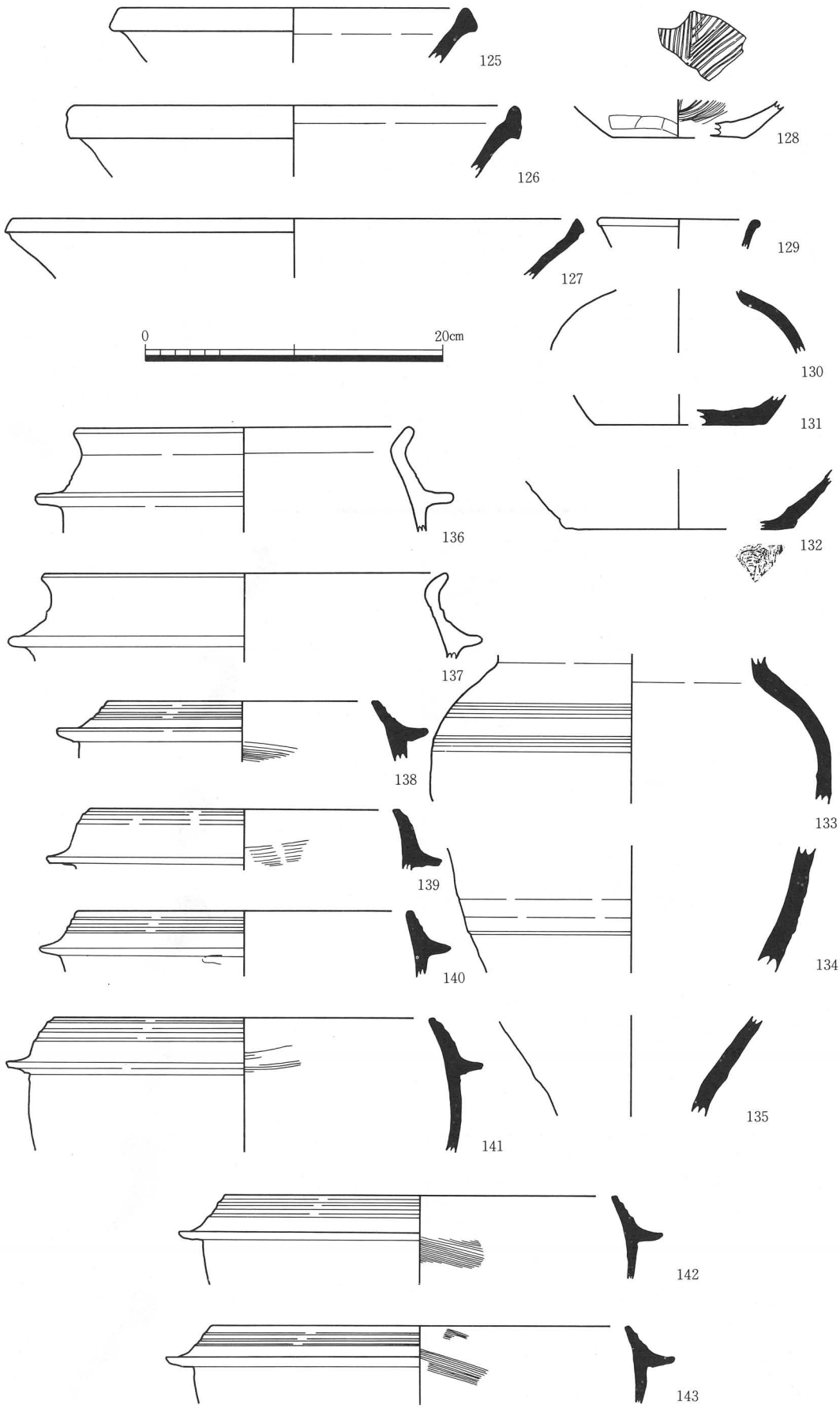
埦は高台を有する（118～121）と消失している（116・117）とが見られる。皿は口径7.3㎝、器高1.3㎝で口縁部が外弯する（105）と口径8.5㎝、器高1.5㎝で口縁部が内弯する（108）、さらに口径15.5㎝、器高2.5㎝で口縁部が内弯するやや大型の皿（114）がある。

［瓦質土器］

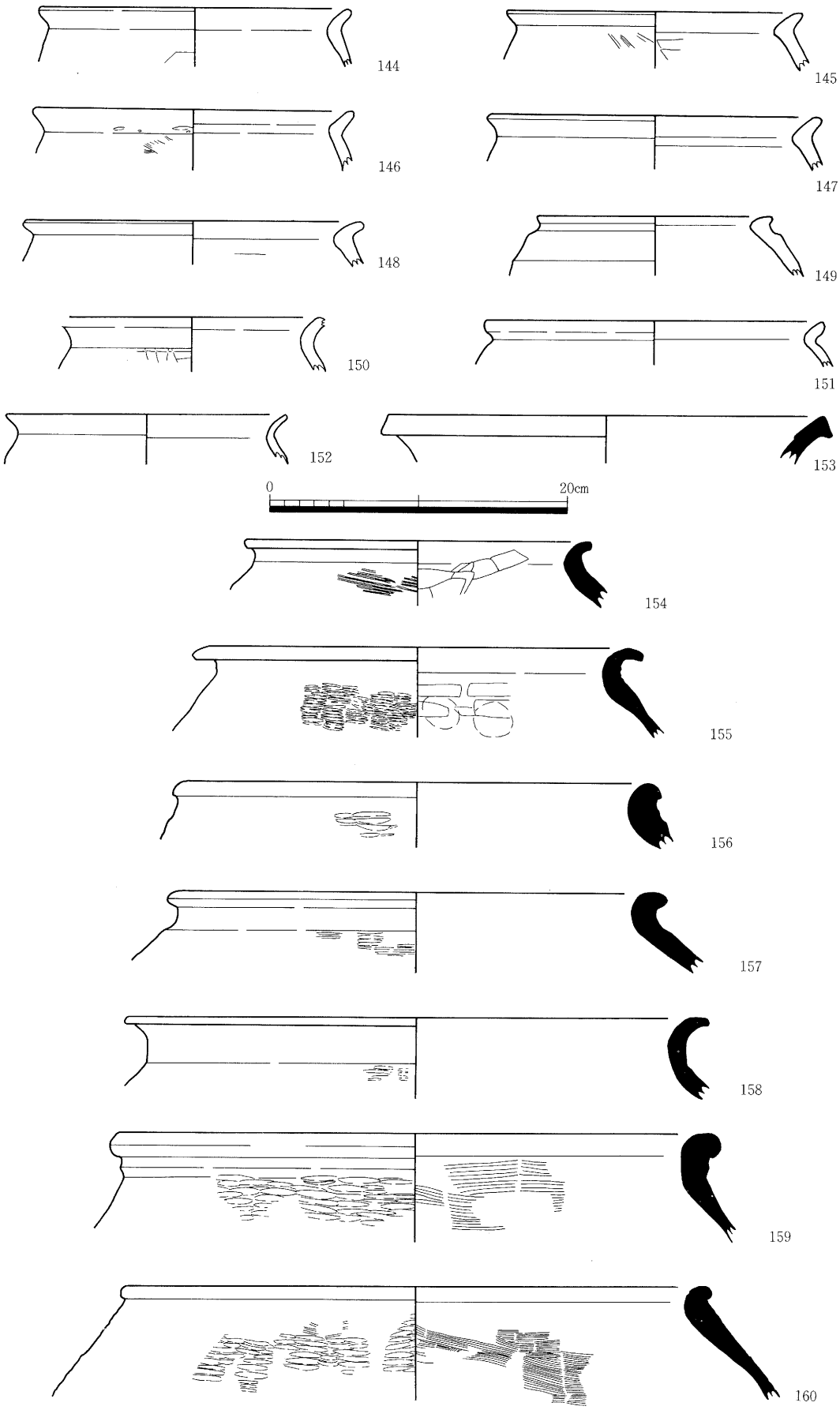
皿と土釜と甕が見られる。



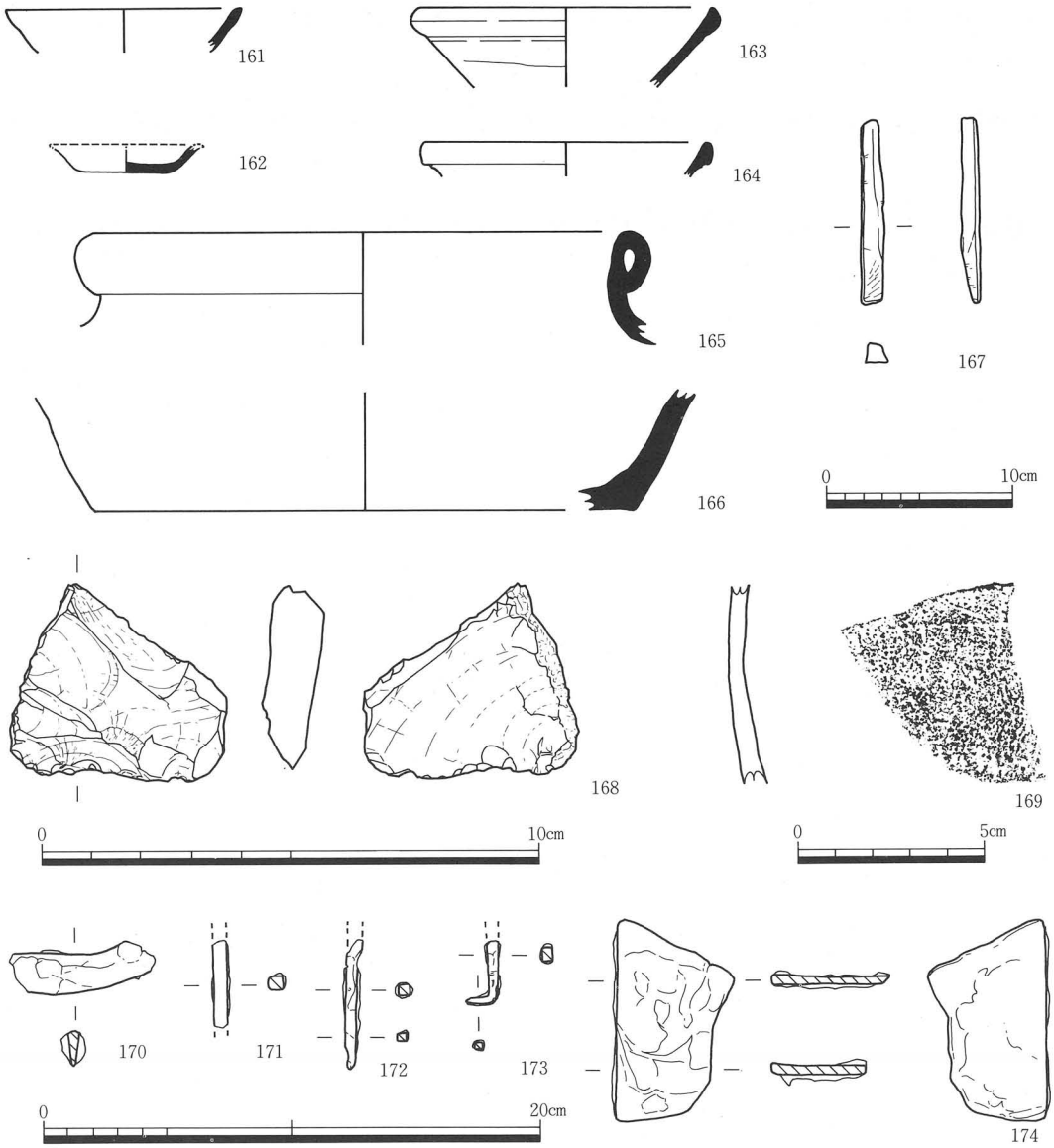
第78図　第１調査区包含層出土遺物実測図（１）



第79図　第１調査区包含層出土遺物実測図（２）



第80図　第１調査区包含層出土遺物実測図（３）



第81図　第１調査区包含層出土遺物実測図（４）

皿は口径8.5㎝、器高1.2㎝を測る天野山金剛寺編年９類の（106・107・109・111）、口径9.5㎝、器高1.5㎝を測る天野山金剛寺編年８類の（110・115）、口径11㎝、器高2.5㎝を測る天野山金剛寺編年２類の（112・113）とに大別できる。

土釜（138～143）はいずれも内傾する口縁部をもち、体部外面ヘラ削り、内面ハケ目が見られる。

甕は口縁部が大きく外弯する（154・155・158）と玉縁状を呈する（156・157・159・160）に大別できる。いずれも外面はタタキが施されている。

［陶器］

備前甕の口縁部（165）と底部（166）、そして４条の平行沈線の文様帯が２条施された壺の肩部（133）がある。また、瀬戸では瓶子の体部が２点（134・135）出土している。

［輸入陶磁器］

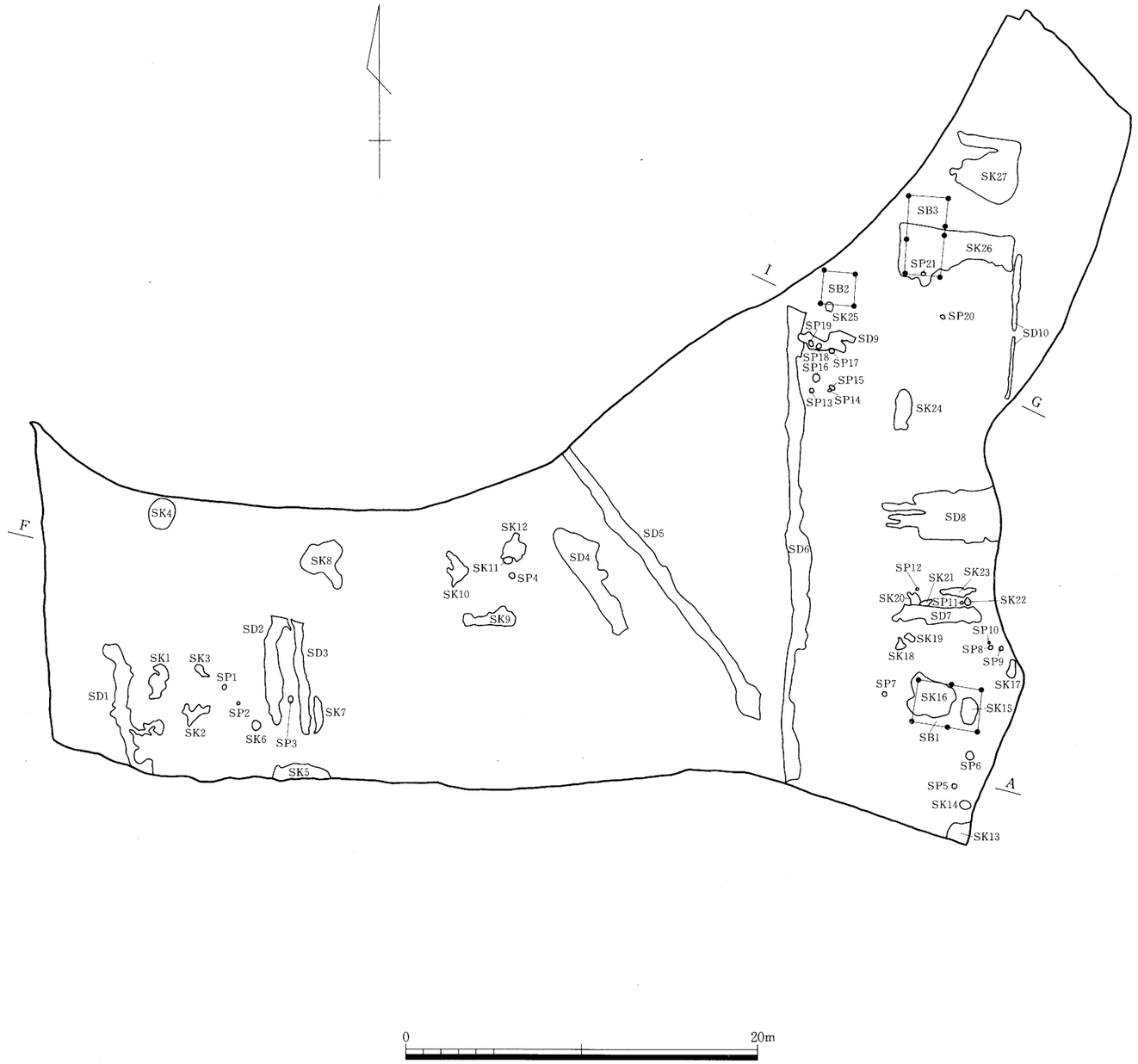
白磁が４点図示できた。（161・162）は皿で、（162）は口禿の口縁を持つもので皿Ⅸ

類に分類できる。（163・164）は玉縁をもつもので碗Ⅳ類に分類される。

［その他］

石製品としては（167）の砥石がある。またサヌカイト製の刃器が１点（168）図示できた。

鉄器では刀子の一部と思われる（170）や釘（171～173）、さらに農具の一部と思われる（174）が図示できた。

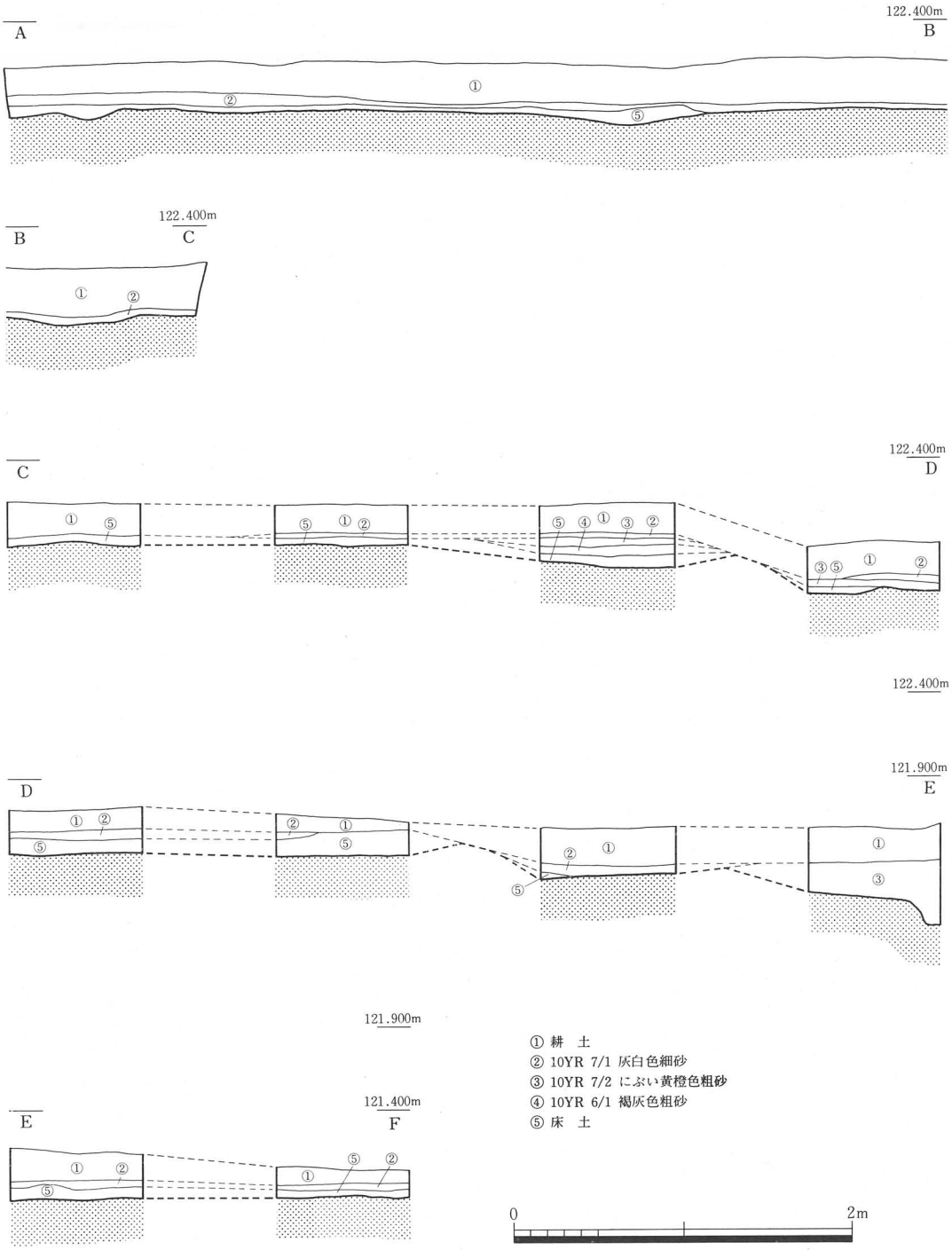


第82図　第１調査区遺構配置図（１／300）

第２節　第２調査区

１　概略

本調査区は第１調査区の北側で、小谷を挟んで約170m離れている。標高は約120mを測る。調査区は低位段丘を石川に沿って幅約９ｍ、長さ約80mで設定した。調査面積は約750㎡である。



第83図　第２調査区土層断面実測図（１／40）

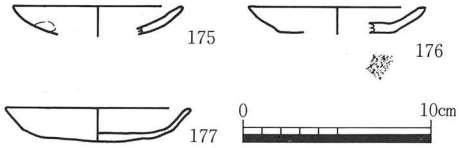
2　遺構と遺物

(1)掘立柱建物

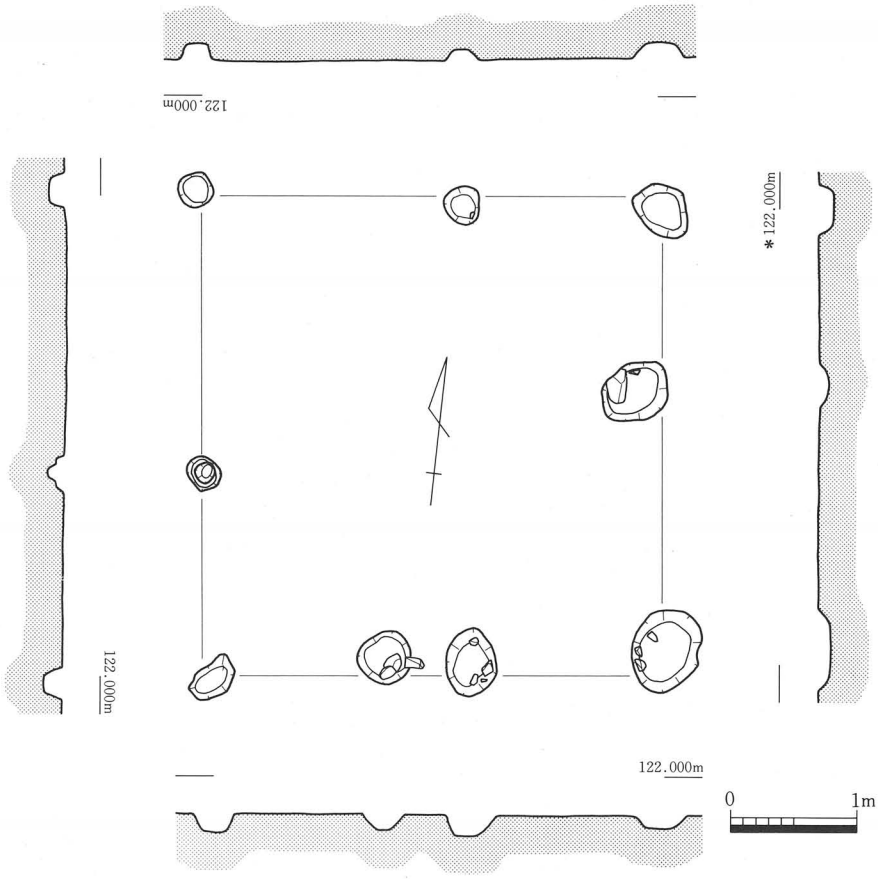
［ＳＢ４］（第84図・85図、図版７・14）

調査区の南西側でＳＢ５と重複する。桁行２間（3.8m）×梁行２間（3.65m）の建物である。柱間は桁行2.4m・1.5m、梁行2.06m・1.6m。桁行方向はＮ－６°－Ｗを示す。柱穴の規模は一定でなく最大径0.6mから最小径0.2mで、深さは0.3mを測る。

遺物は柱穴から土師質皿（175～177）が出土した。



第84図　ＳＢ４出土遺物実測図



第85図　ＳＢ４遺構実測図（１／60）

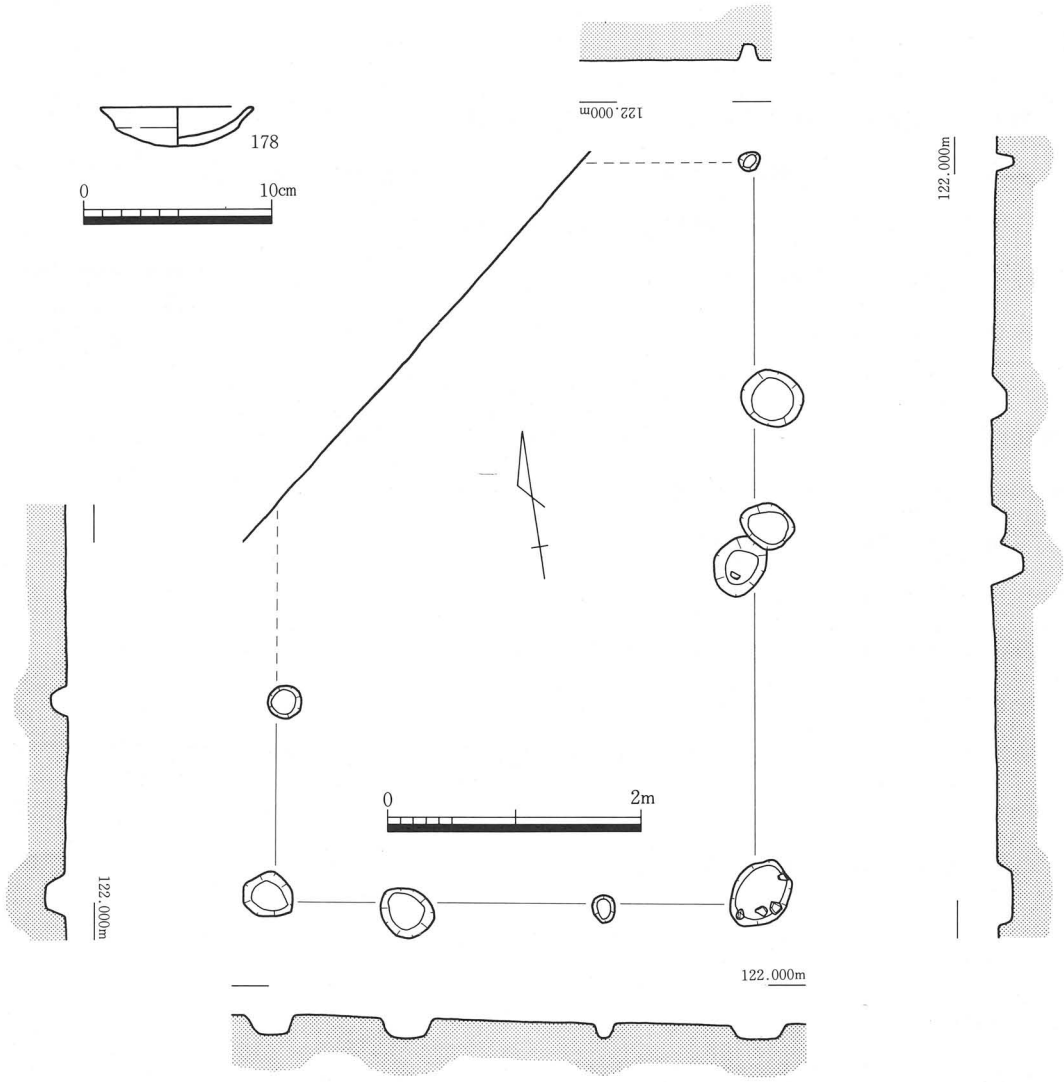
［ＳＢ５］（第86図、図版７・14）

調査区の南西側でＳＢ４と重複する。桁行３間（5.9m）×梁行３間（3.75m）の建物である。柱間は桁行2.6m・1.3m・２m、梁行１m・1.6m・1.15m。桁行方向はＮ－８°－Ｅを示す。柱穴の規模は一定でなく最大径0.6mから最小径0.2mで、深さは0.15mを測る。

遺物は柱穴から土師質皿（178）が出土した。

［ＳＢ６］（第87図・88図、図版７・14）

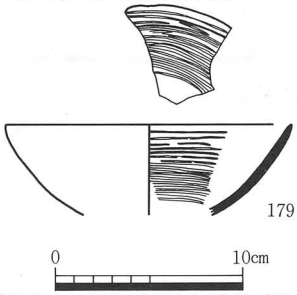
調査区の中央部に位置する。桁行１間（2.4m）×梁行１間（2.13m）の建物である。



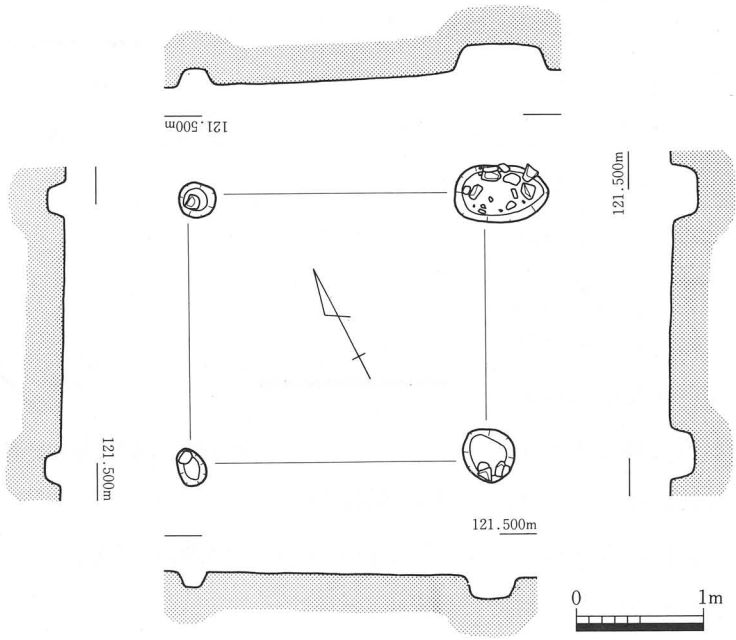
第86図　ＳＢ５遺構実測図（１／60）及び出土遺物実測図

桁行方向はＮ－63°－Ｗを示す。柱穴の規模は一定でなく最大径0.3mから最小径0.2mで、深さは0.15mを測る。

遺物は柱穴から瓦器椀（179）が出土した。



第87図　ＳＢ６出土遺物実測図



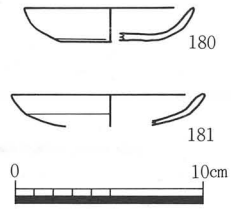
第88図　ＳＢ６遺構実測図（１／60）

（２）溝

［ＳＤ11］（第89図、図版14）

調査区の南西側の南端で検出された。全容は判明しないが東西に走る溝のようである。南側肩部は調査区外である。埋土は灰黄色粗砂の一層である。検出長7.14m、検出幅1.68m、深さ0.42mを測る。

遺物は土師質皿（180・181）が図示できた。



第89図　ＳＤ11出土遺物実測図

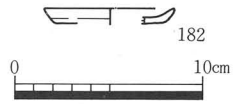
［ＳＤ12］（図版７）

調査区の中央部、ＳＢ６の東側５ｍに位置する。溝は水田の造成時に大部分削平され、西側肩の一部が残存しているだけである。埋土は灰黄色粗砂の一層である。検出長７ｍ、検出幅1.08m、深さ0.18mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ13］（第90図、図版14）

調査区の北東側、ＳＤ12の東側９ｍに位置する。大部分は調査区外で全容は判明しない。西側肩の一部が残存しているだけである。埋土は灰黄色粗砂の一層である。検出長６ｍ、検出幅0.98m、深さ0.1mを測る。



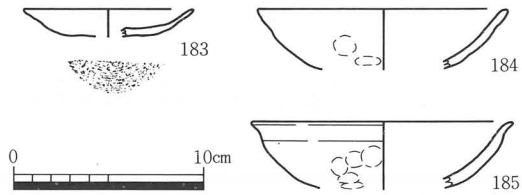
第90図　ＳＤ13出土遺物実測図

遺物は土師質皿（182）が図示できた。

（３）土坑

［ＳＫ28］（第91図、図版15）

調査区の南西側、ＳＢ５の西側３ｍに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。長径0.66m、短径0.48m、深さ0.11mを測る。

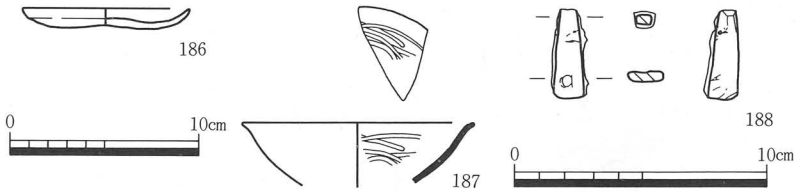


第91図　ＳＫ28出土遺物実測図

遺物は糸切り底の土師質皿（183）、土師質坏（184・185）が図示できた。

［ＳＫ29］（第92図、図版15）

調査区の南西側、ＳＢ４の東側１ｍに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。検出長径1.6m、短径0.6m、深さ0.25mを測る。



第92図　ＳＫ29出土遺物実測図

遺物は土師質皿（186）、瓦器椀（187）、不明小型鉄製品（188）が図示できた。

［ＳＫ30］（第93図、図版15）

調査区の南西側、ＳＢ４の北東側11mに位置する。平面形はそのほとんどが調査区外の

為不明である。検出長軸1.08m、短軸0.9m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器椀（189）が実測できた。

［ＳＫ31］（第94図、図版15）

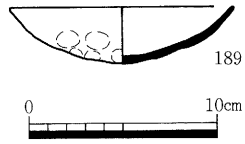
調査区の南西側、ＳＫ30の北側に隣接する。平面形は楕円形を呈する。主軸方向はＮ－59°－Ｗを示す。長径1.64m、短径1.22m、深さ0.18mを測る。

遺物は土師質皿（190）が図示できた。

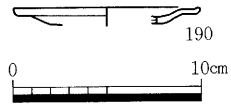
［ＳＫ32］（第95図、図版15）

調査区の北東側、ＳＢ６の北東側８ｍに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。主軸方向はＮ－63°－Ｅを示す。長径は0.66m、短径0.46m、深さ0.15mを測る。

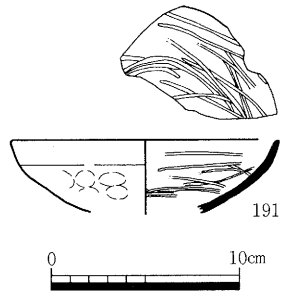
遺物は瓦器椀（191）が図示できた。



第93図　ＳＫ30出土遺物実測図



第94図　ＳＫ31出土遺物実測図



第95図　ＳＫ32出土遺物実測図

（４）遺物出土ピット

［ＳＰ22］（第96図、図版14）

調査区の南西側でＳＫ28の北側約１ｍに位置する。平面形は円形を呈する。径0.25m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質皿（192）が出土した。

［ＳＰ23］（第97図、図版14）

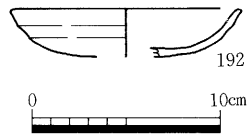
調査区の南西側でＳＫ30の底部から検出された。半分は調査区外に広がる。平面形は楕円形を呈する。検出長径0.4m、短径0.3m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿（193）が出土した。

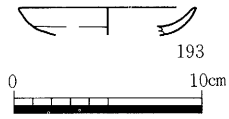
［ＳＰ24］（第98図、図版14）

調査区の中央でＳＤ12の西側約１ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径0.35m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。

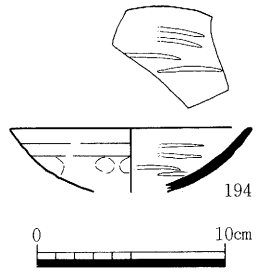
遺物は瓦器椀（194）が出土した。



第96図　ＳＰ22出土遺物実測図



第97図　ＳＰ23出土遺物実測図



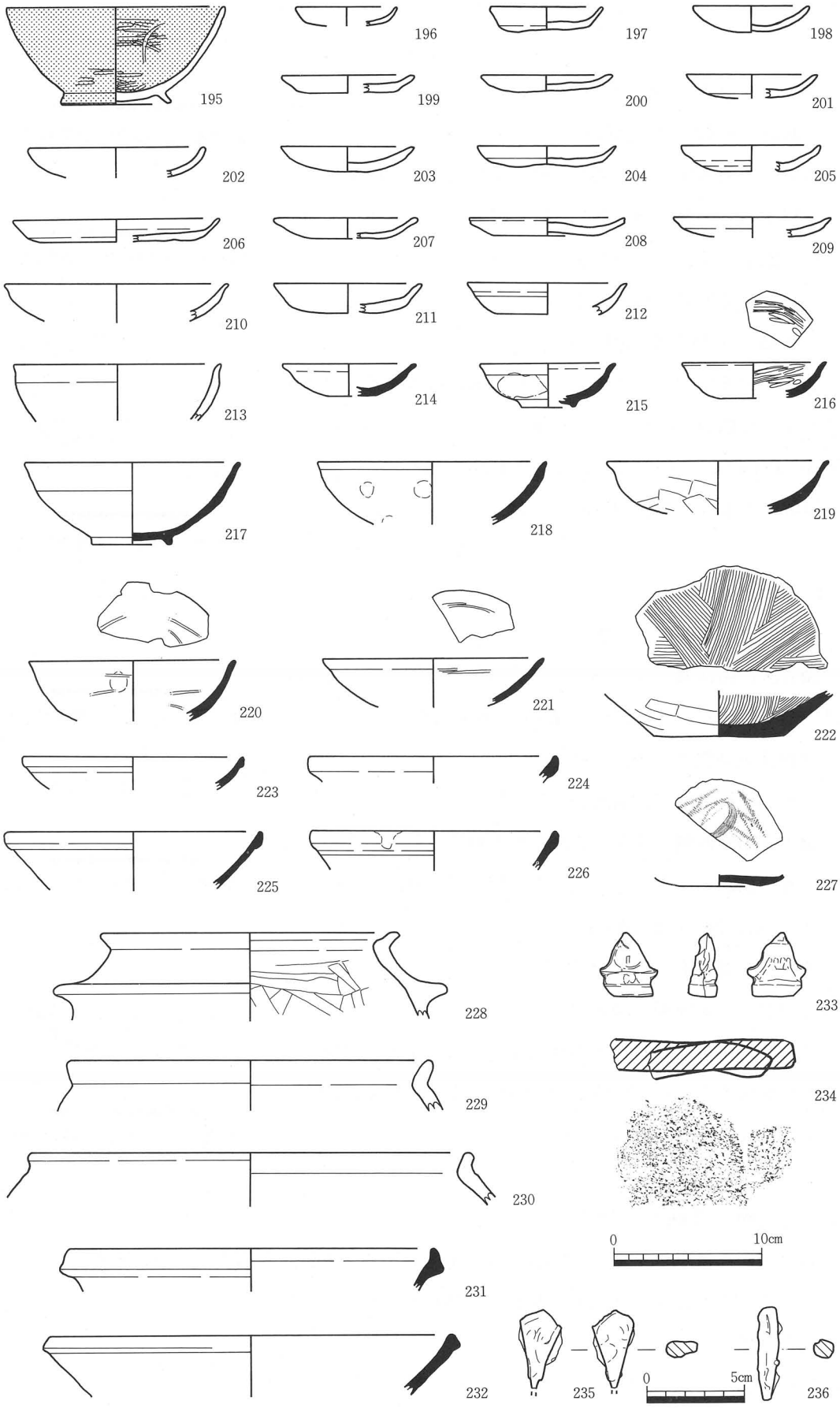
第98図　ＳＰ24出土遺物実測図

（５）包含層（第99図、図版15・16）

包含層からは黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器・瓦質土器・輸入陶磁器が出土している。また瓦・土製品・鉄製釘・不明鉄製品が出土している。

［黒色土器］

黒色土器は１点（195）図示できた。Ｂ類椀である。



第99図　第２調査区包含層出土遺物実測図

［土師質土器］

皿（196～209・211・212）と坏（210）、埦（213）、土釜（228～230）が見られる。皿はその大きさから径6.8㎝から7.4㎝のものが3点（196～198）、径8.8㎝のものが4点（199～201・203）、径9.6㎝のものが3点（204・205・207）、径10㎝のものが1点（211）、径10.6㎝のものが3点（208・209・212）、径12㎝以上のものが2点（202・206）見られる。また、口縁部の形態から、底部から外弯気味に短く屈曲する（197・199・206・211）と、底部からやや内弯気味にのびるものとに分けられるようである。土釜は全て口縁部が短く外反し端部は丸くおさめている。

［須恵質土器］

東播系と思われる練鉢の口縁部が2点（231・232）図示できた。

［瓦器］

埦は高台を有する（217～221）が見られる。更に小型埦（215）がある。皿は2点（214・216）図示できた。

［瓦質土器］

擂鉢（222）の底部が実測できた。

［輸入陶磁器］

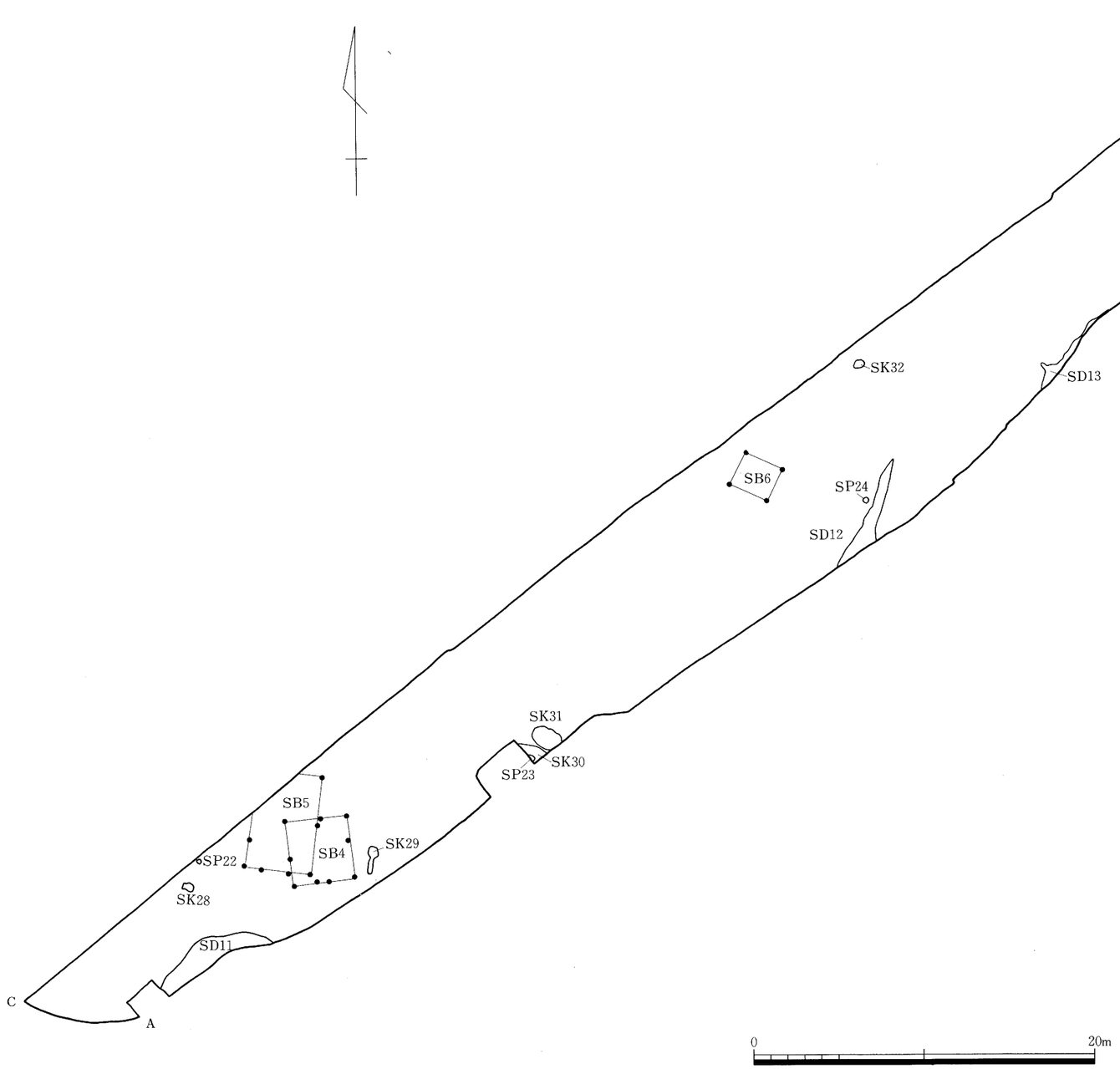
白磁碗が4点と青磁皿1点が図示できた。白磁碗（223～226）は玉縁をもつもので碗Ⅳ類に分類されるものである。

青磁皿（227）は同安窯系で底部に櫛により施文されている。

［その他］

土製品としては（233）の菅原天神の人形がある。また、内面に布目が残る丸瓦の破片が1点（234）図示できた。

鉄器では鏃の一部と思われる（235）や釘（236）が図示できた。



第100図　第２調査区遺構配置図（１／300）

第３章　まとめ

第１節　第１調査区

１　遺構

調査区の下段の遺構は規則性を持っていた。石川寄りで検出された掘立柱建物３棟分はいずれもほぼ北を示す同一方向を示していた。また、下段のＳＤ６やＳＤ10やその他の溝も建物と同一方向を示しており、なんらかの規制を受けている。土坑はＳＫ16をはじめ土器を多量に出土した。

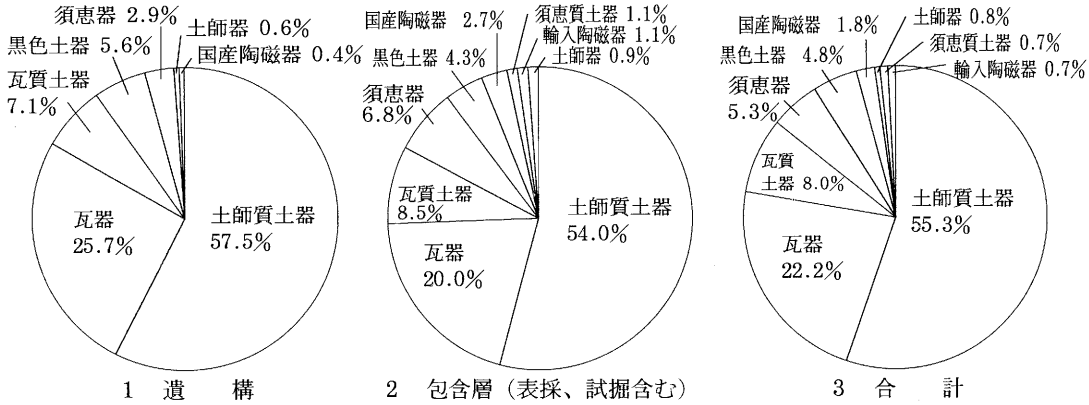
しかし、上段・中段の遺構は規則性がなく、建物を復元することもできなかった。とくに中段はＳＤ５とＳＤ６との間の遺構が希薄である。このため遺構の集中が北西側に偏っていた。

２　遺物

遺構・包含層からの出土土器を合わせて分類してみると55.3%が土師質土器そして瓦器22.2%、瓦質土器８%、須恵器5.3%、黒色土器4.8%、国産陶磁器1.8%、その他の順に出土している。しかし、遺構になると土師質土器、瓦器、黒色土器の比率が少し上がり、ある程度の時期的な特徴を示している。

遺構出土の土器について少し記述すると、まず黒色土器はＡ類埦とＢ類埦がそれぞれ出土している。口縁部まで残存しているものは少なかった。Ａ類埦ではＳＰ13の（72）が口径に対して高台径が大きく、体部から口縁部にかけて直線的にのびている。それに比べＳＢ３の（３）は体部が内弯気味に外傾し端部内面が段をなしている。Ｂ類埦ではＳＢ３の（２）が口径10㎝とやや小型である。またＳＫ９の

	遺構	包・表・試	Total
土師器	3	7	10
須恵器	14	52	66
黒色土器	27	33	60
土師質土器	275	409	684
瓦器	123	152	275
瓦質土器	34	65	99
須恵質土器		9	9
陶質土器			
輸入陶磁器		9	9
国産陶磁器	2	21	23
瓦			
合計	478	757	1235



１　遺　　構　　２　包含層（表採、試掘含む）　　３　合　　計

第２表　第１調査区出土遺物の分類

(20) はやや内弯気味の体部が外傾し、口縁部外面はヨコナデ、高台は「ハの字」状に広がっている。このことからＳＰ13の（72）は古式の様相を呈し、ＳＫ９の（20）はより瓦器椀に近い形態を示している。

瓦器椀はＳＫ９の黒色土器Ｂ類椀（20）と共伴した（21）、ＳＫ20の（49）は他の土坑やピット出土の瓦器椀に比べ古式を呈している。尾上編年のＩの段階に相当し、他はII－１ないし２の時期と考えられる。

土師質土器では瓦器椀と共伴する土釜はすべて菅原編年の河内Ｂ1型である。また、土師質皿ではＳＫ22の（51）は底部外面は糸切り底である。

第２節　第２調査区

１　遺構

第１調査区に比べ遺構は少なく、建物は３棟復元できたが他の溝や土坑は希薄であった。建物ではＳＢ５が１棟だけ第１調査区の３棟の建物と主軸を同一にするようである。

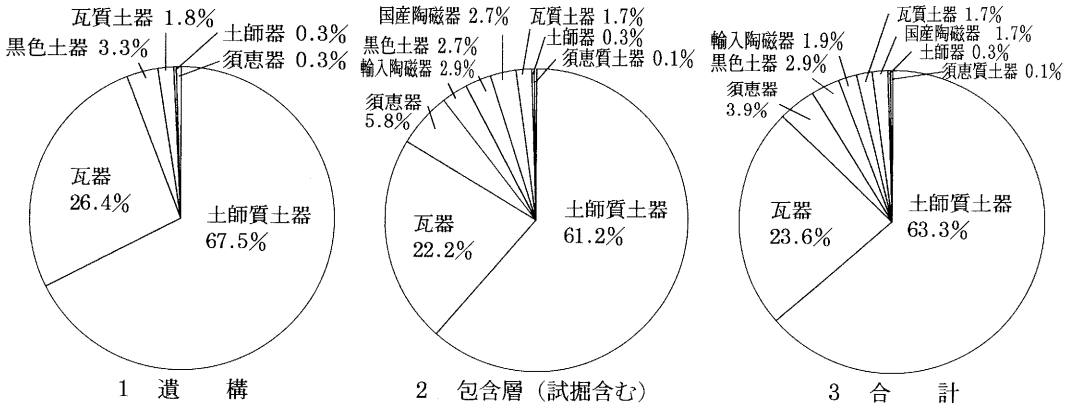
２　遺物

第１調査区と同様に遺構・包含層からの出土土器を合わせて分類してみると、63.3%が土師質土器そして瓦器23.6%、須恵器3.9%、黒色土器2.9%、輸入陶磁器1.9%、その他の順に出土している。しかし、遺構になると土師質土器67.5%、瓦器26.4%、黒色土器3.3%、そしてその他瓦質土器、土師器、須恵器の順になっている。これは、第１調査区の遺構の出土比率と相違し、土師質土器の比率が高いという特徴を示している。

遺構からの土器を少し見てみると、瓦器椀はＳＢ６の（179）が古くII－２の形態を示す。その他ではＳＫ32の（191）がIII－２、ＳＫ29の（187）・ＳＫ30の（189）・ＳＰ24の（194）がIV－３を示す。

皿はＳＫ28の（183）・ＳＰ22の（192）・ＳＰ23の（193）のように底部から内弯気味に口縁部にいたる

	遺構	包・試	Total
土師器	1	2	3
須恵器	1	30	31
黒色土器	9	14	23
土師質土器	179	316	495
瓦器	70	115	185
瓦質土器	5	9	14
須恵質土器		1	1
陶質土器			
輸入陶磁器		15	15
国産陶磁器		14	14
瓦			
合計	265	516	781



１　遺　　構　　２　包含層（試掘含む）　　３　合　　計

第３表　第２調査区出土遺物の分類

ものと、ＳＫ29の（186）のように口縁部が短く外上方にのびるもの、更にＳＫ31の（190）のように所謂「て」の字状の口縁をもつものとがあった。（183）は底部が糸切り底である。

坏はＳＫ28の（184・185）の２点だけであるが、口縁部はヨコナデによって体部との境をなしている。

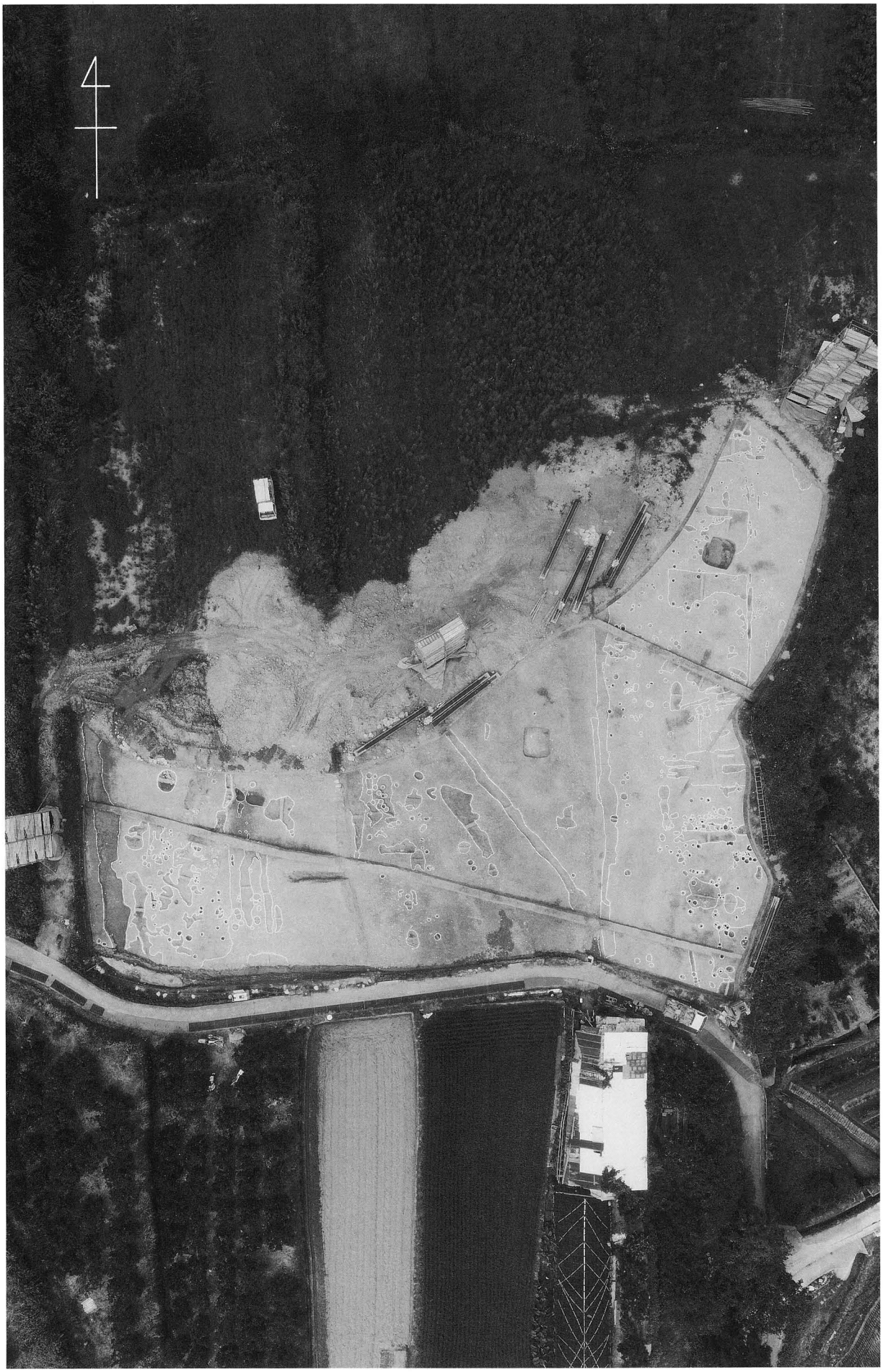
第３節　最後に

第１調査区の遺構の中心となる時期が瓦器の編年のII－１を前後する時期で、実年代としては12世紀代と考えられる。もちろん、ＳＫ14やＳＫ23のように時期の下るものもあるので時期幅は認められる。また、第２調査区はやや遺構ごとに相違するようで瓦器の編年から12世紀から14世紀の実年代が考えられる。

この遺跡の立地するところは石川の低位段丘面で、地山となる層序が軟質なシルトから礫であることから決して条件のよい場所とは考えがたい。また、対岸の野間里遺跡のように周囲に水田として可能な小沖積地はなく、集落立地としては条件の悪いところである。しかし、この時代になって、水田開発が水持ちの悪い低位段丘面に及んできたことを示しているとも考えられる。

図　　版

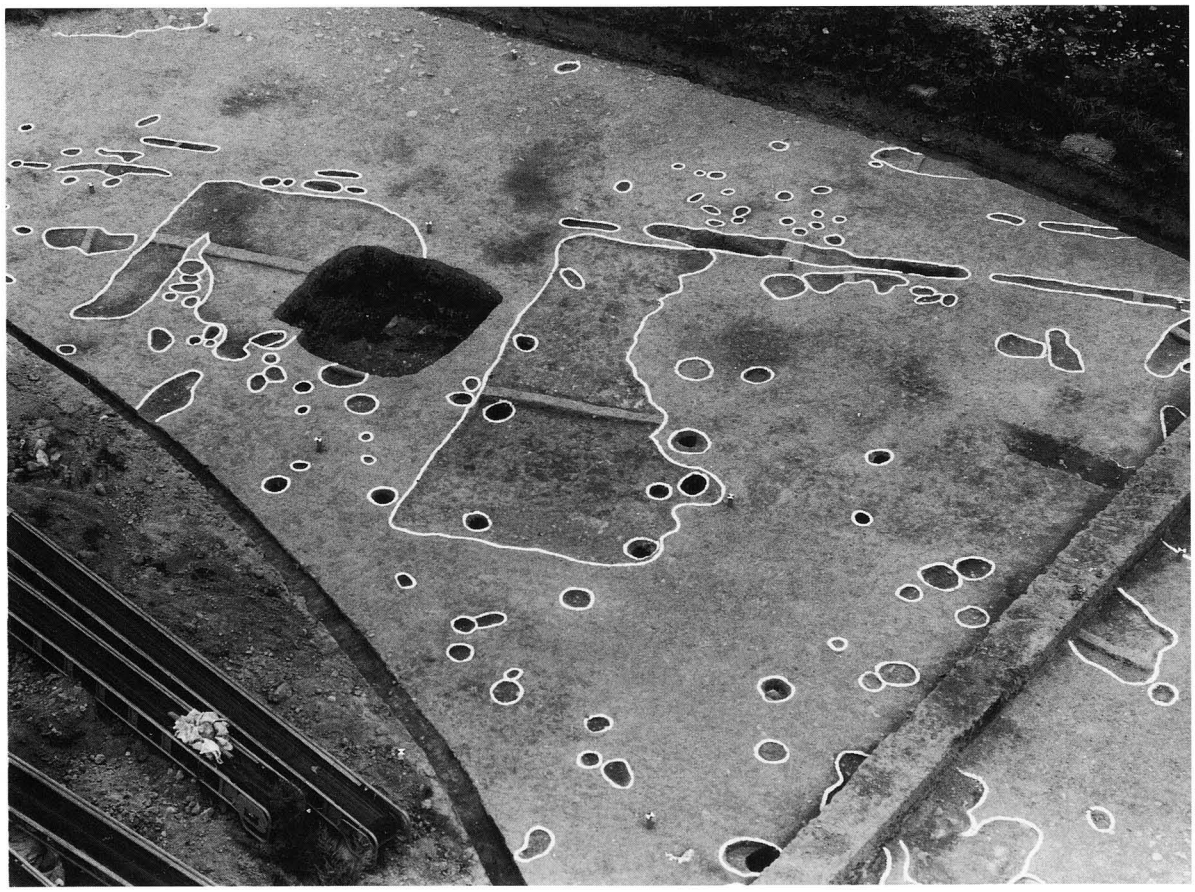
図版1　遺構　第1調査区



調査区全景

図版2　遺構　第1調査区

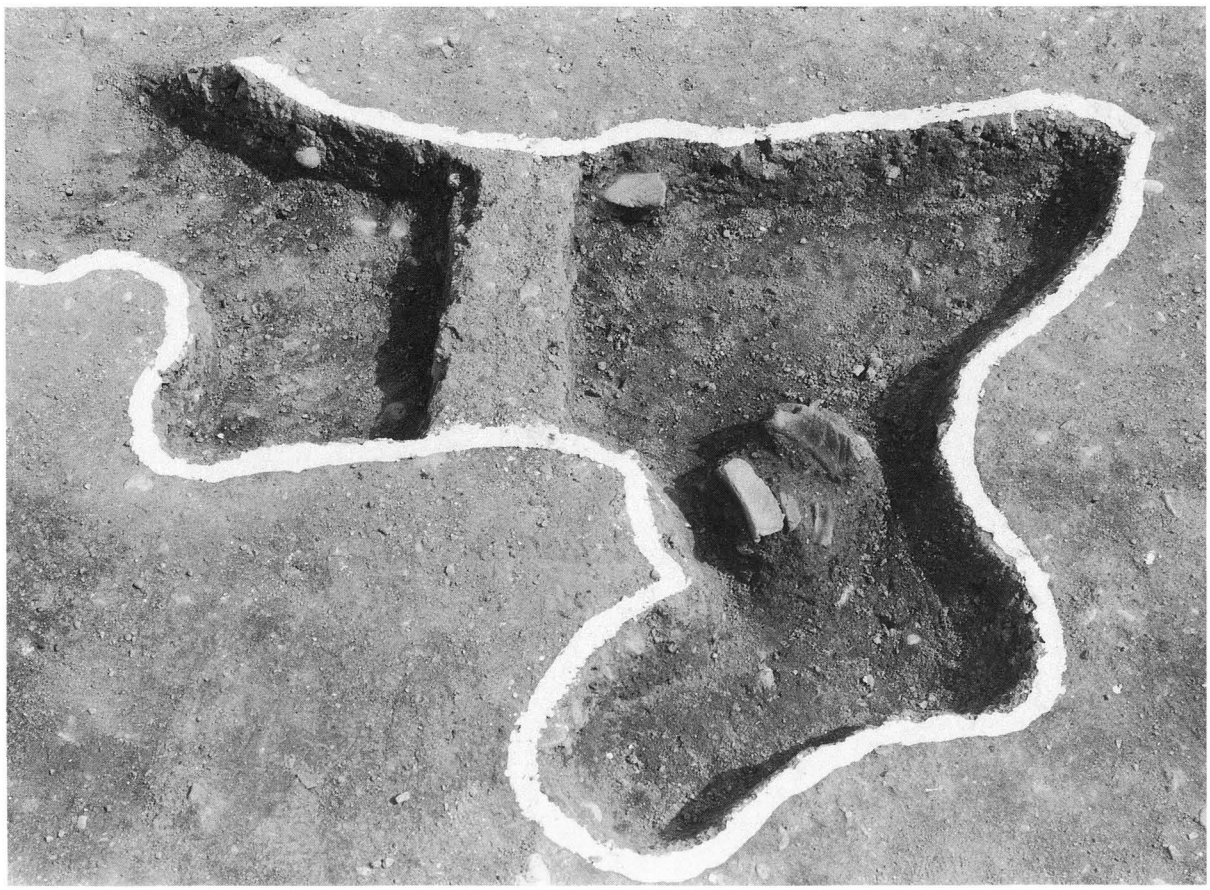
調査区全景（西から）



ＳＢ３・ＳＫ30（西から）

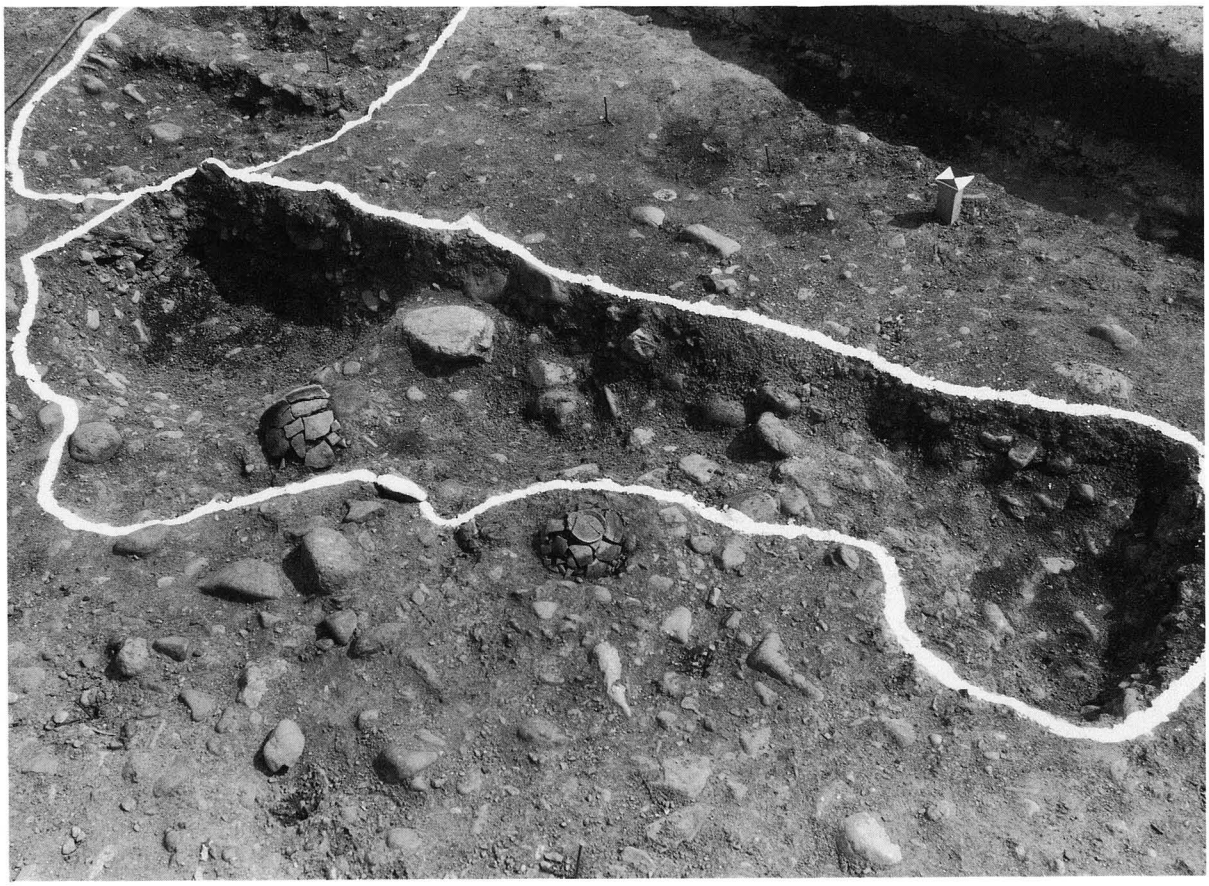
図版3　遺構　第1調査区

ＳＤ４・ＳＤ５・ＳＤ６（東から）

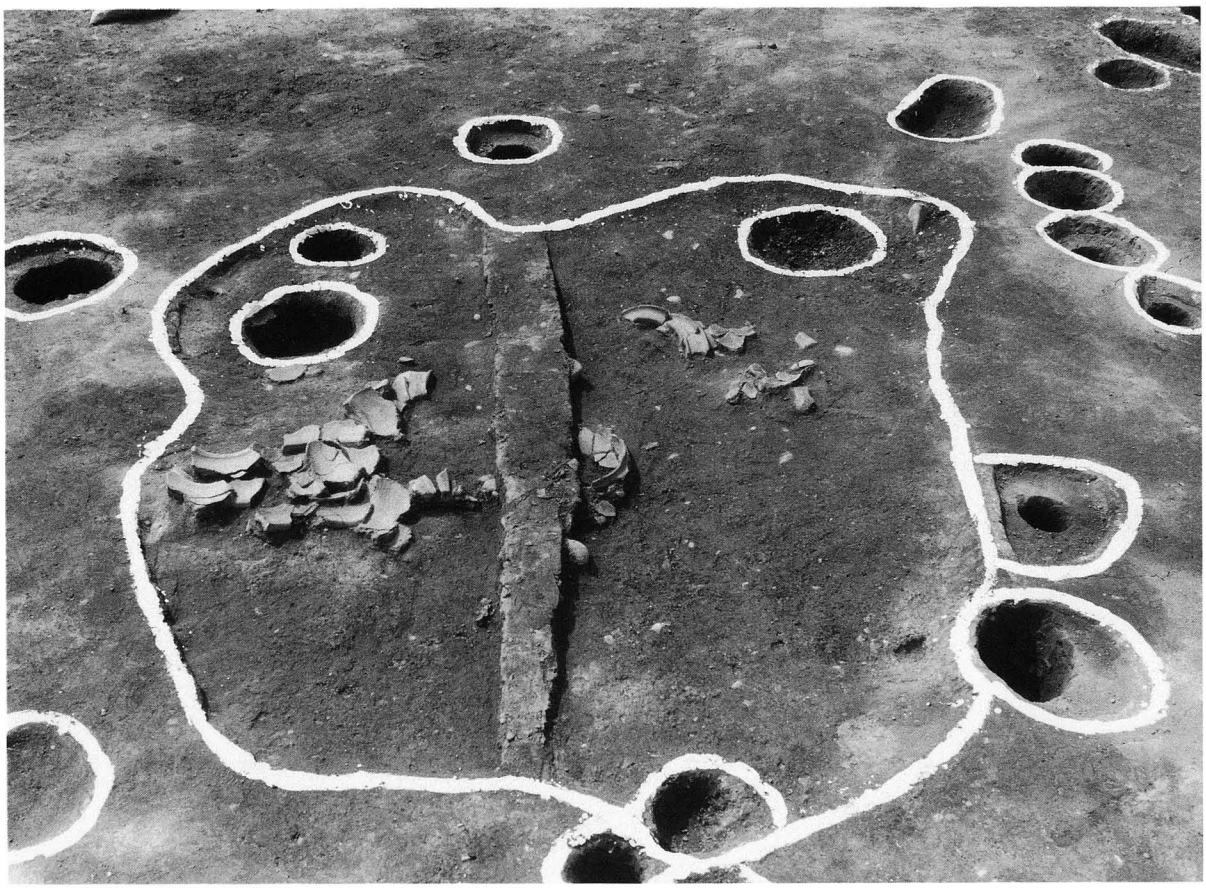


ＳＫ12（西北から）

図版4　遺構　第1調査区

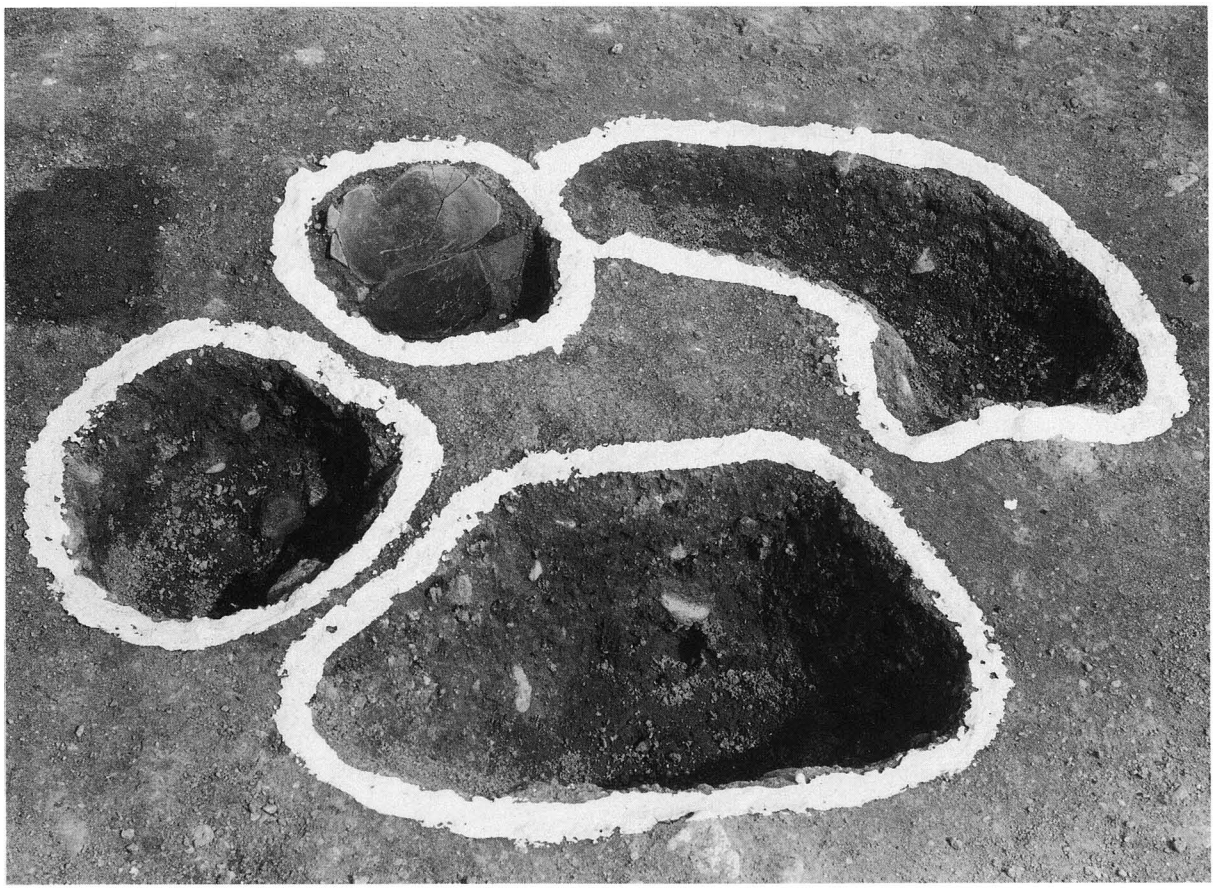


ＳＫ９（北から）

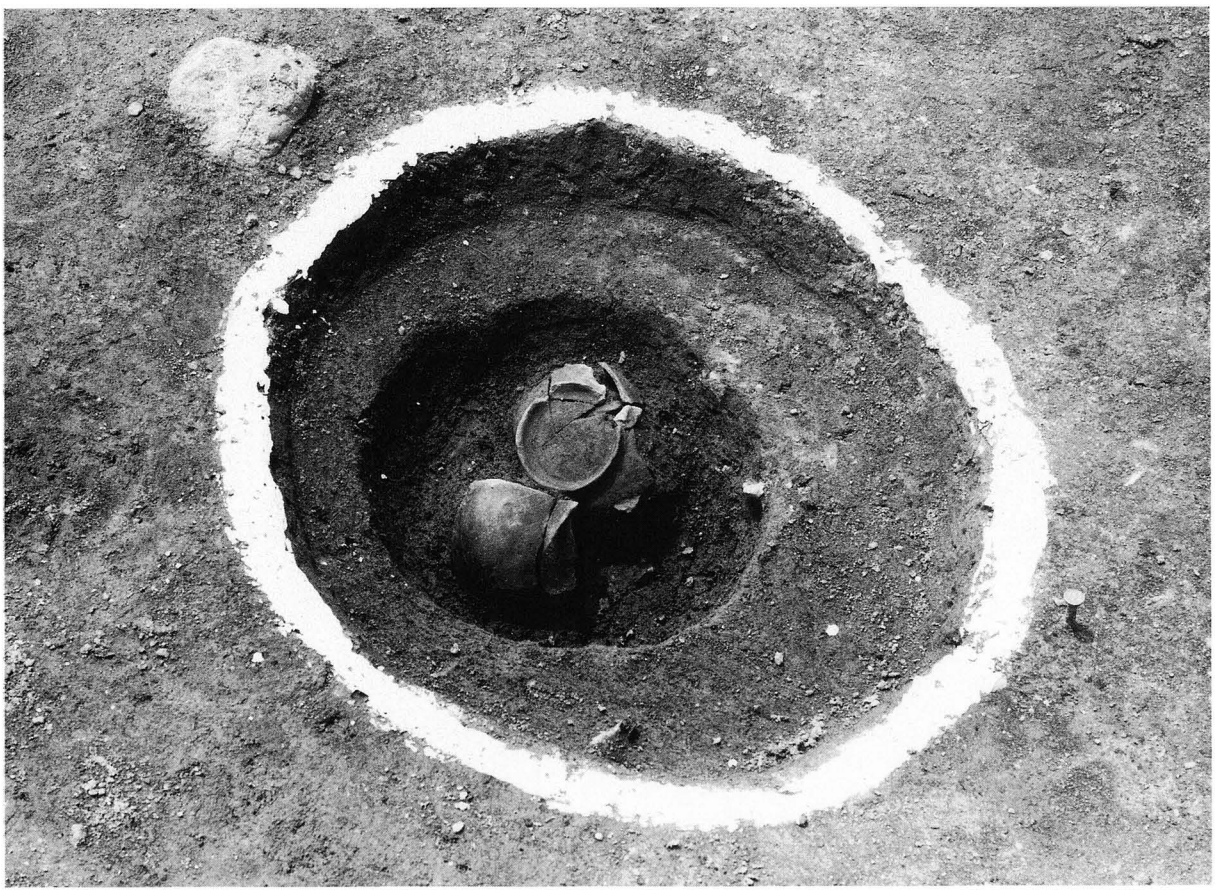


ＳＫ16（東から）

図版5　遺構　第1調査区



ＳＰ３（西から）

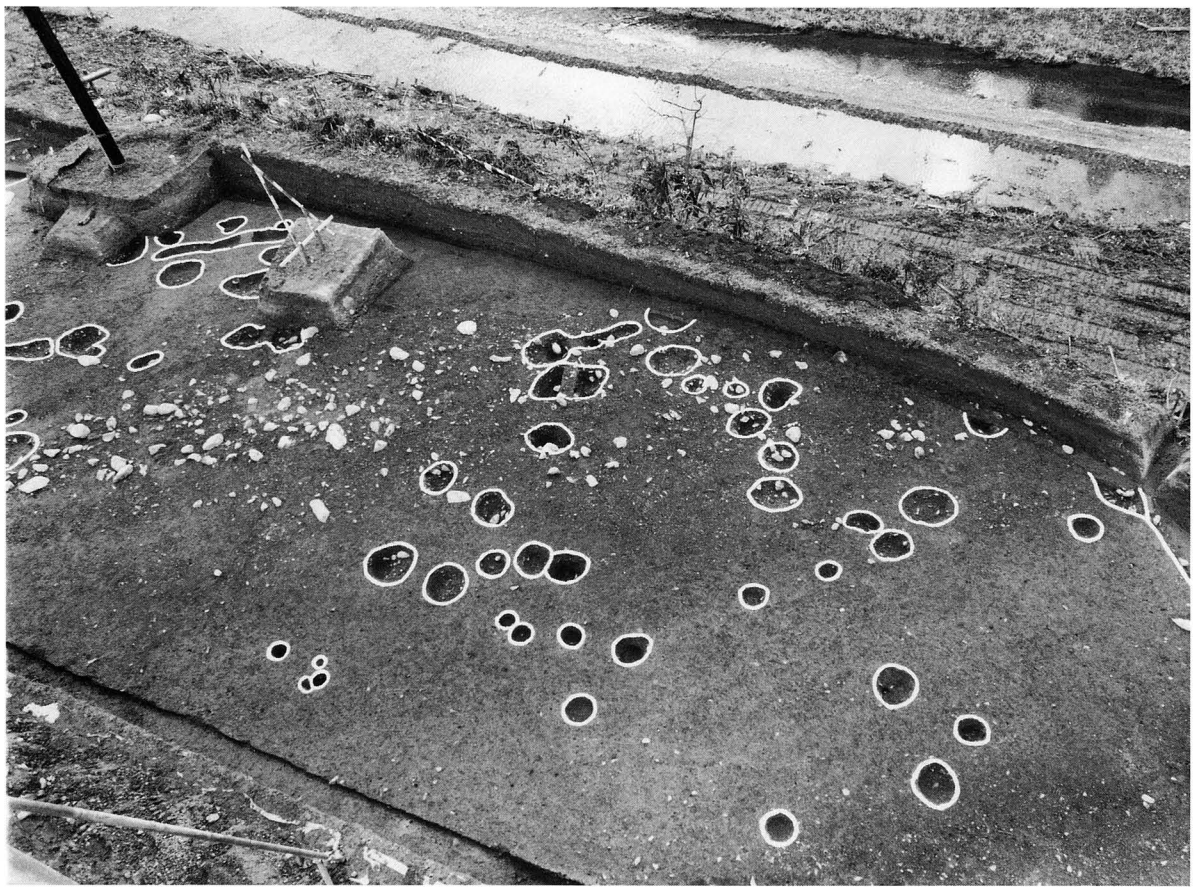


ＳＰ17（北から）

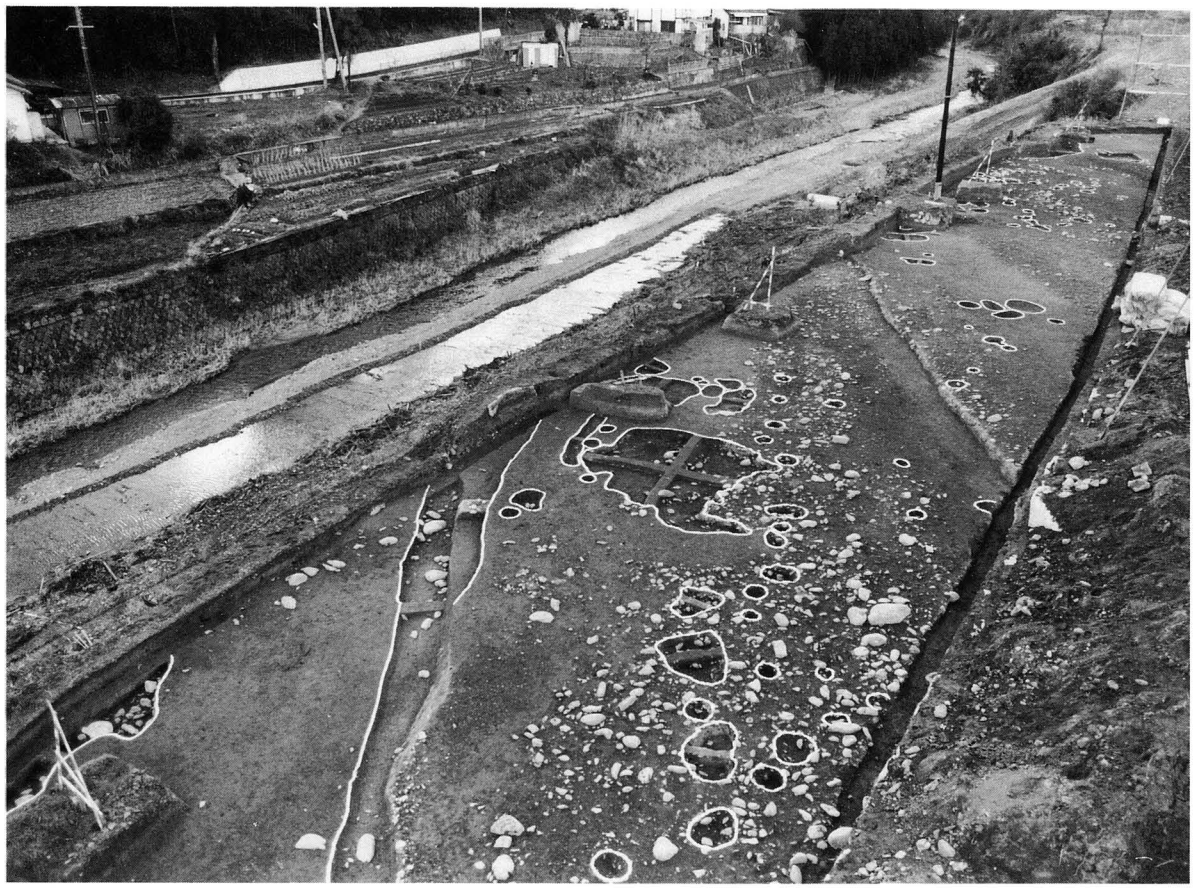
図版6　遺構　第2調査区

調査区全景

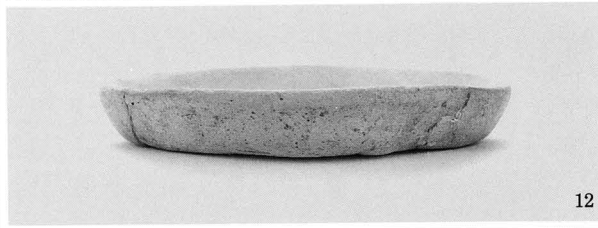
調査区全景（北東から）

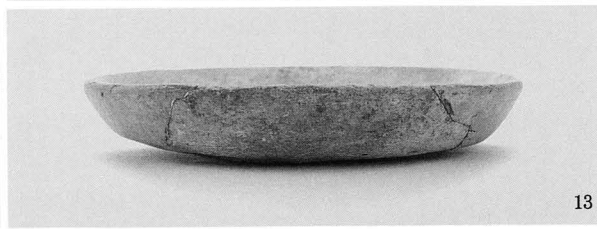


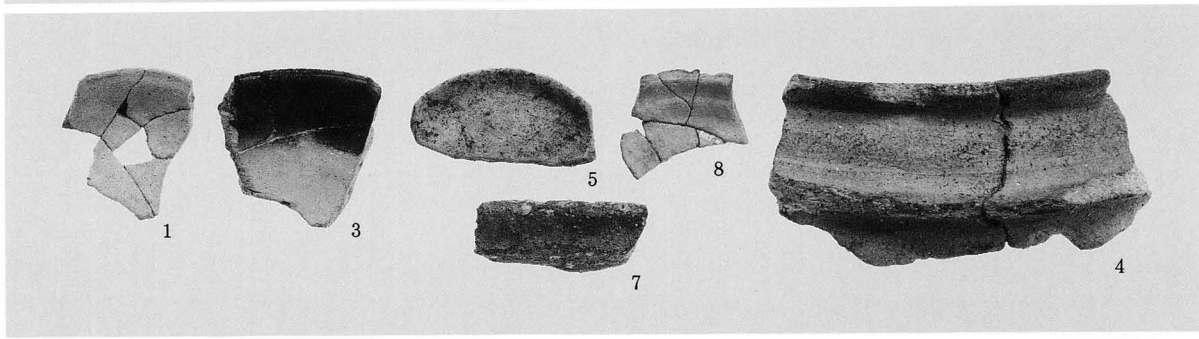
ＳＢ４・ＳＢ５（西から）

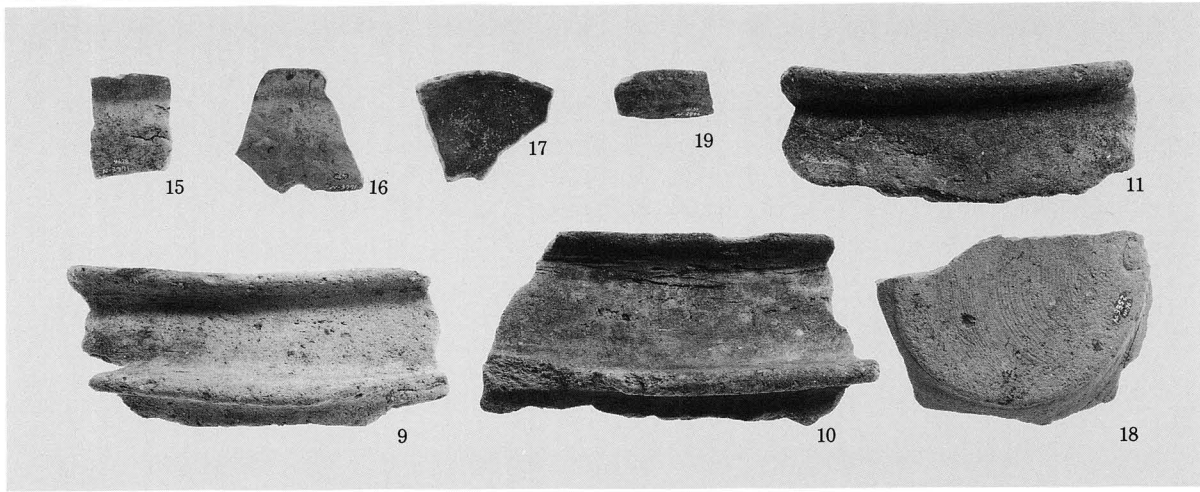


ＳＢ６・ＳＤ12（北から）



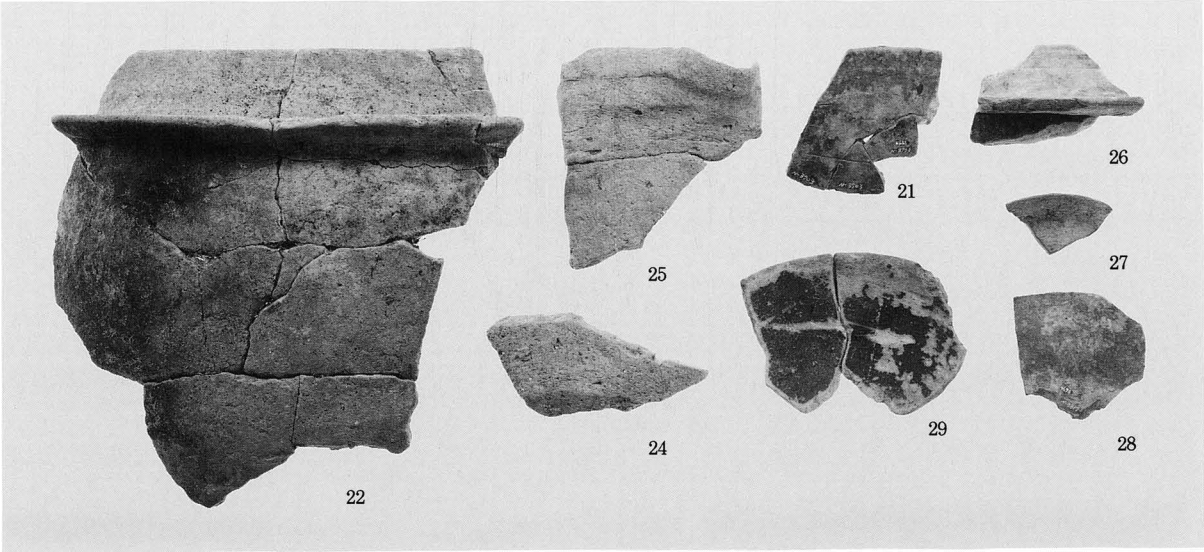


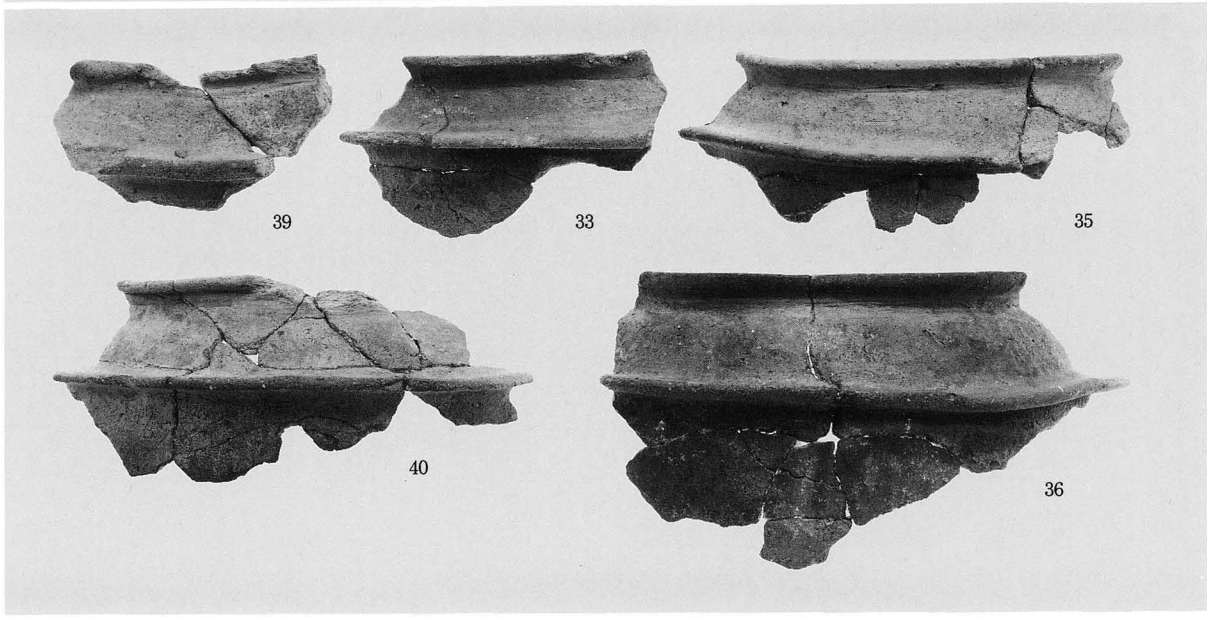




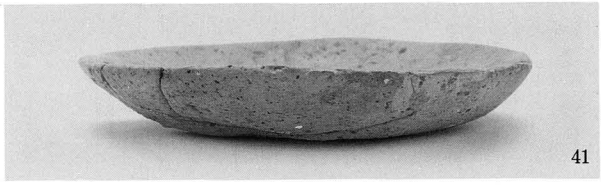
ＳＢ２（1）、ＳＢ３（2・3）、ＳＤ２（4）、ＳＤ４（5・6）、ＳＤ８（7）、ＳＤ９（8）、ＳＫ２（9～11）、ＳＫ４（12～18）、ＳＫ８（19）、ＳＫ９（20）、ＳＫ12（23）

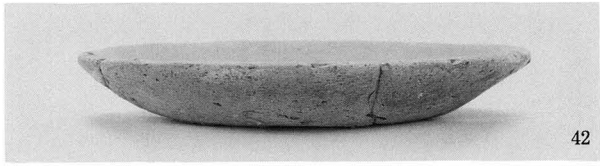
図版9　遺物　第1調査区

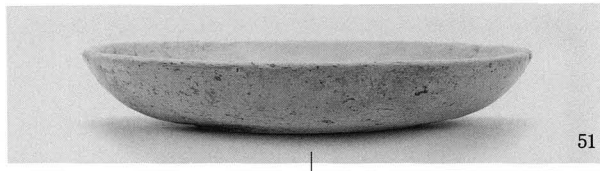


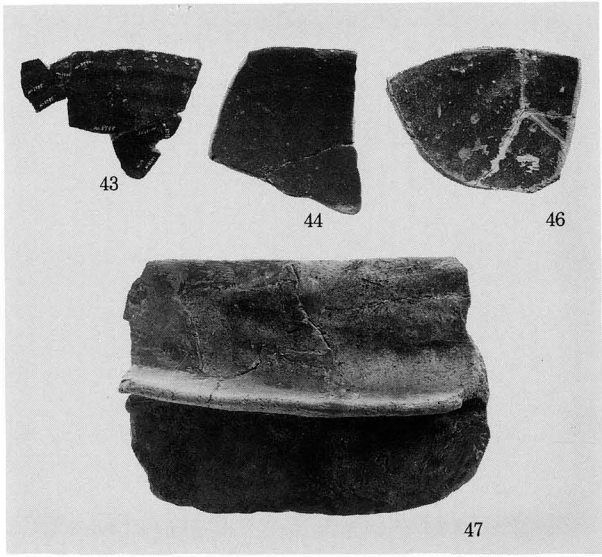


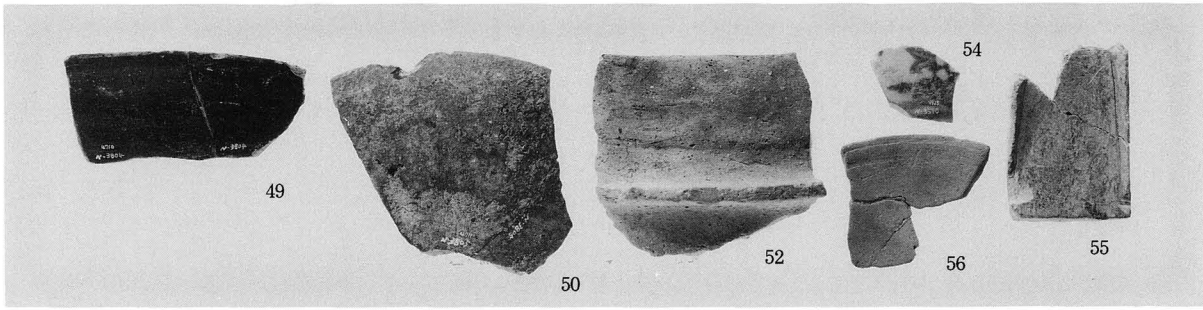
ＳＫ９（21・22）、ＳＫ13（24）、ＳＫ14（25・26）、ＳＫ16（27～36・39・40）

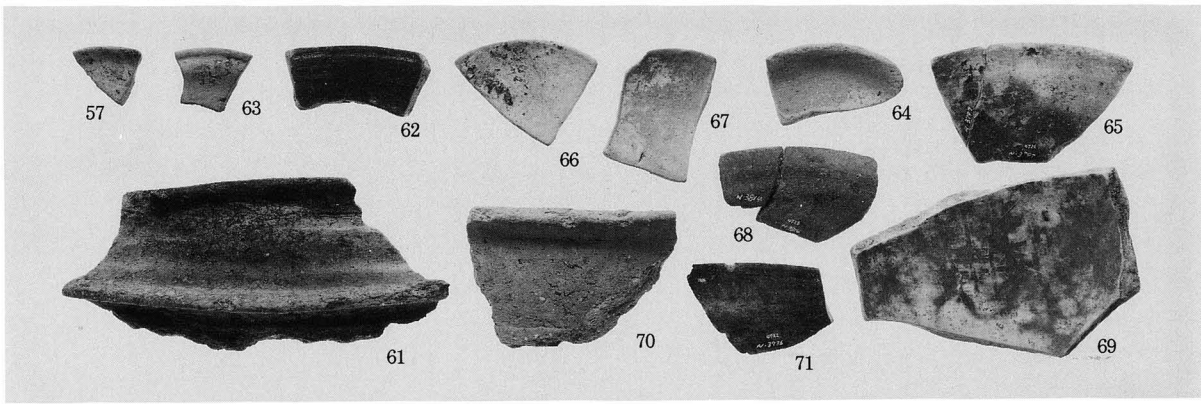




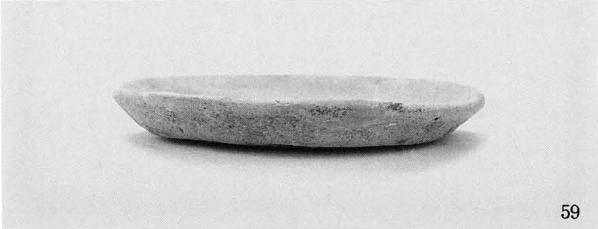


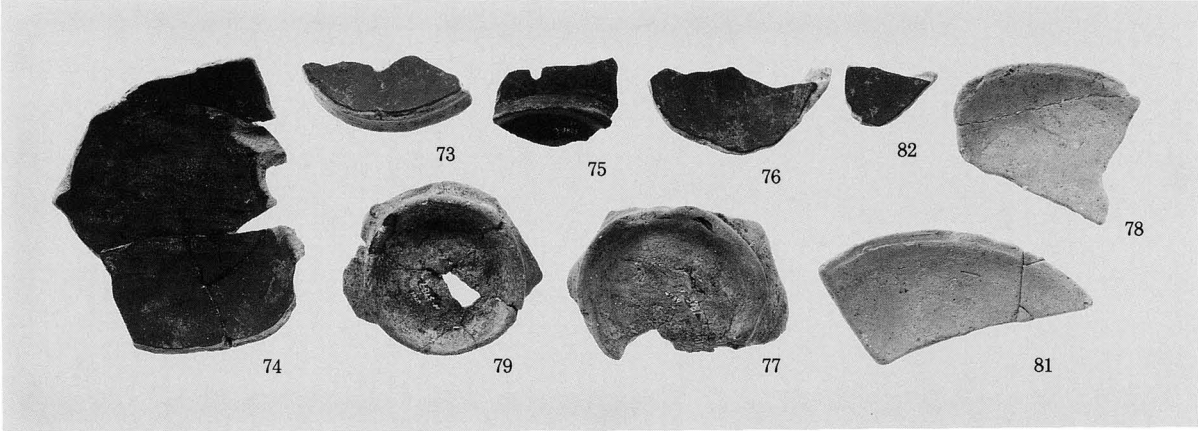


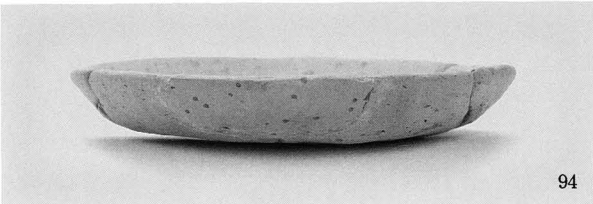


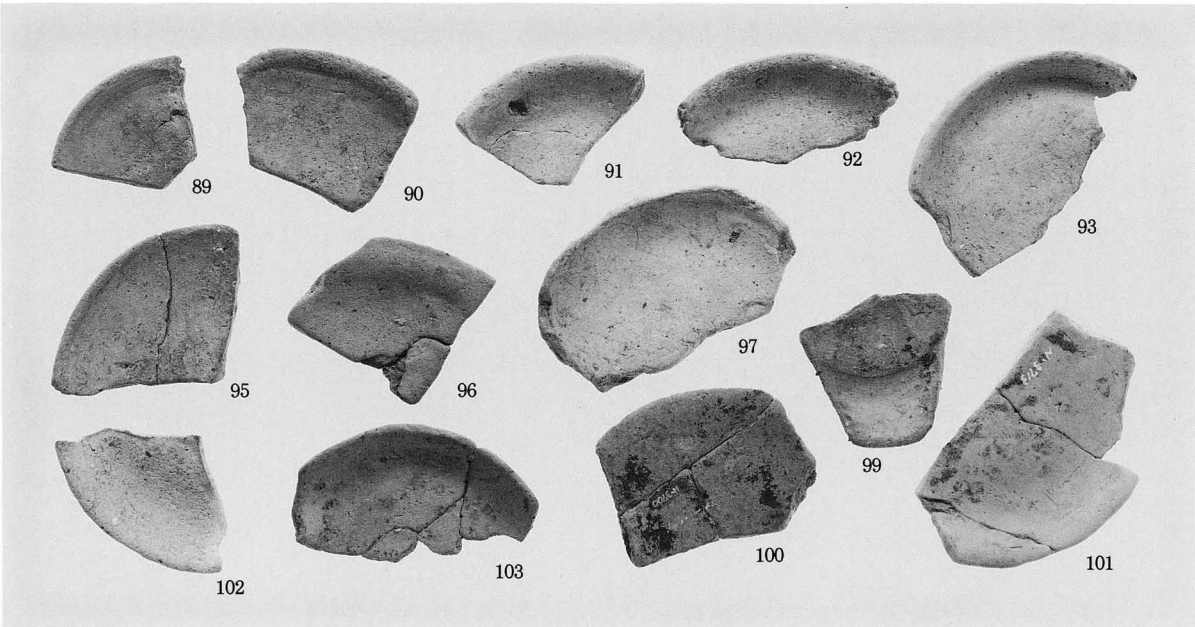


ＳＫ16（37・38）、ＳＫ17（41～44・46・47）、ＳＫ19（48）、ＳＫ20（49）、ＳＫ21（50）、ＳＫ22（51・52）、ＳＫ23（54・55）、ＳＫ25（56）、ＳＰ１（57）、ＳＰ６（61）、ＳＰ７（62）、ＳＰ８（63）、ＳＰ９（64・65）、ＳＰ10（66～69）、ＳＰ11（70）、ＳＰ12（71）

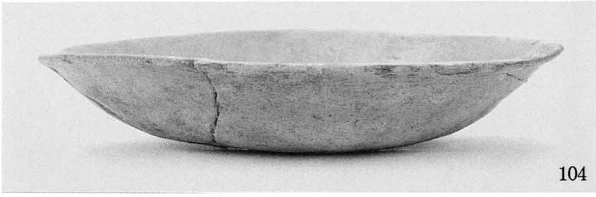


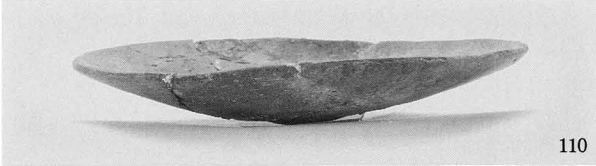


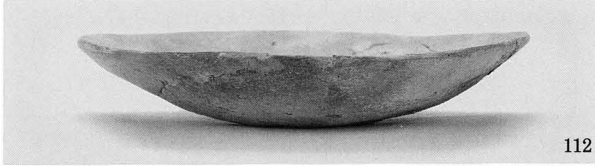


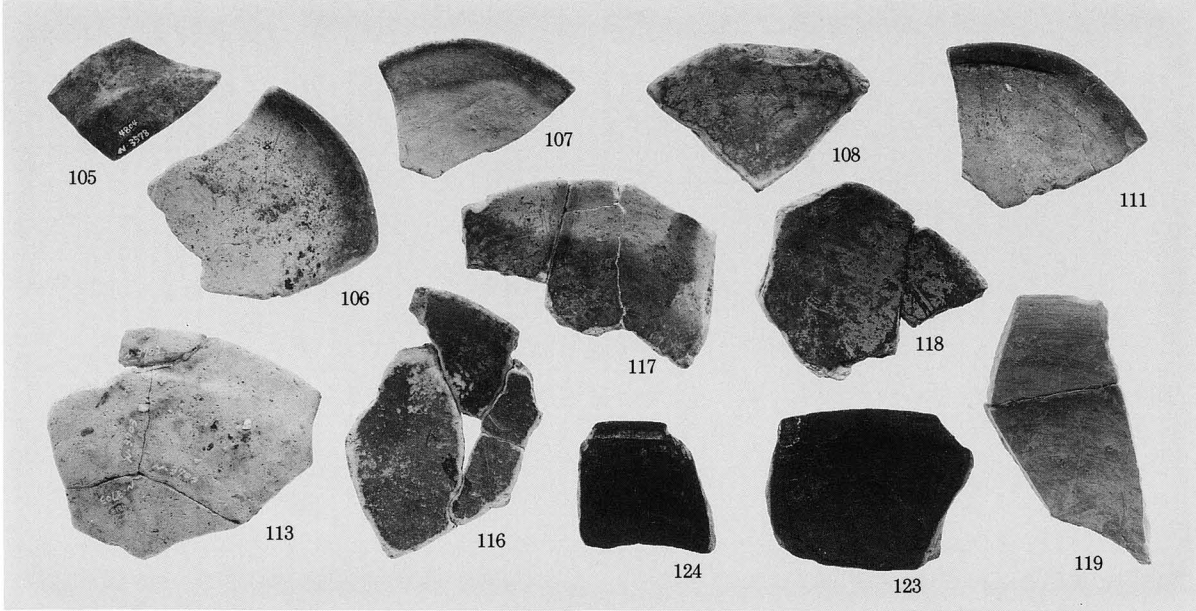


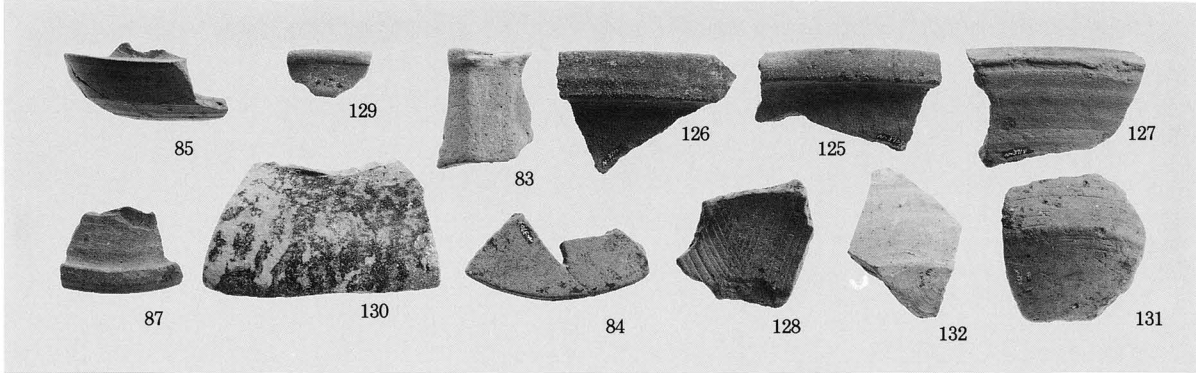
ＳＰ２（58）、ＳＰ３（59）、ＳＰ５（60）、ＳＰ13（72～74）、ＳＰ15（75）、ＳＰ16（76）、ＳＰ17（77）、ＳＰ18（78）、ＳＰ19（79）、ＳＰ20（81）、ＳＰ21（82）、包含層（89～103）



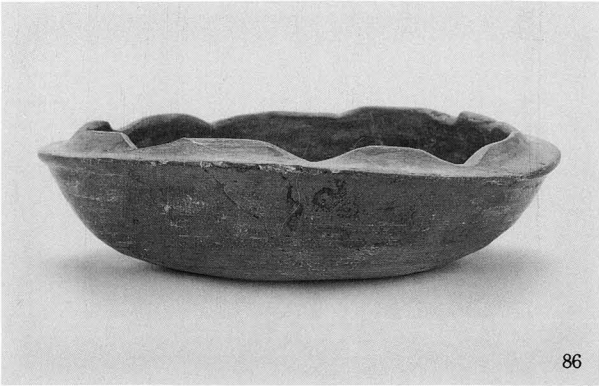


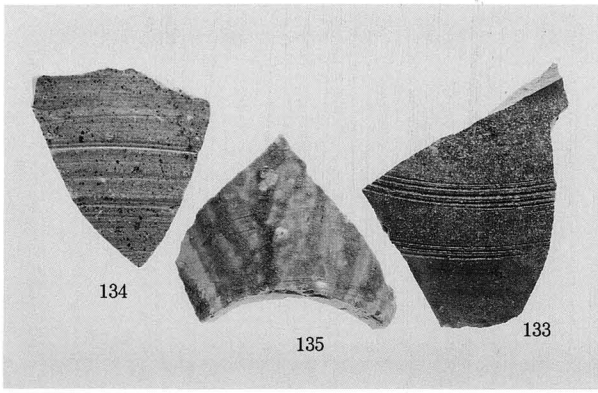


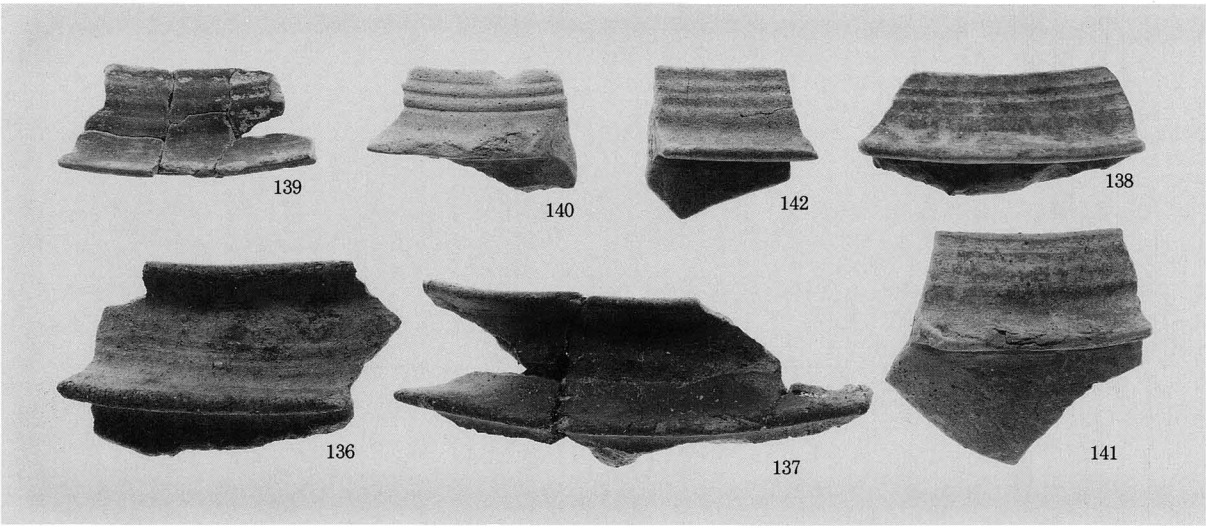


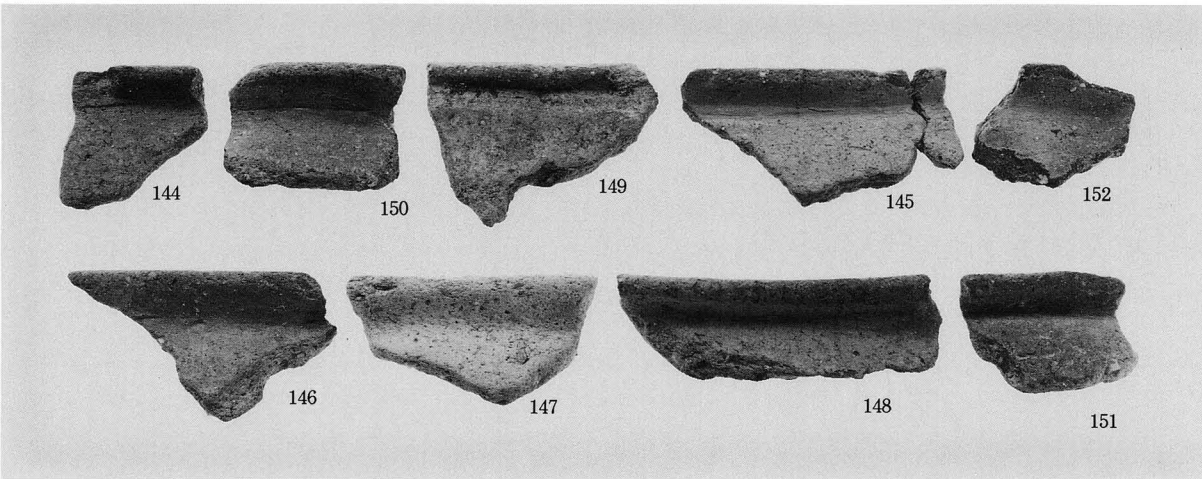


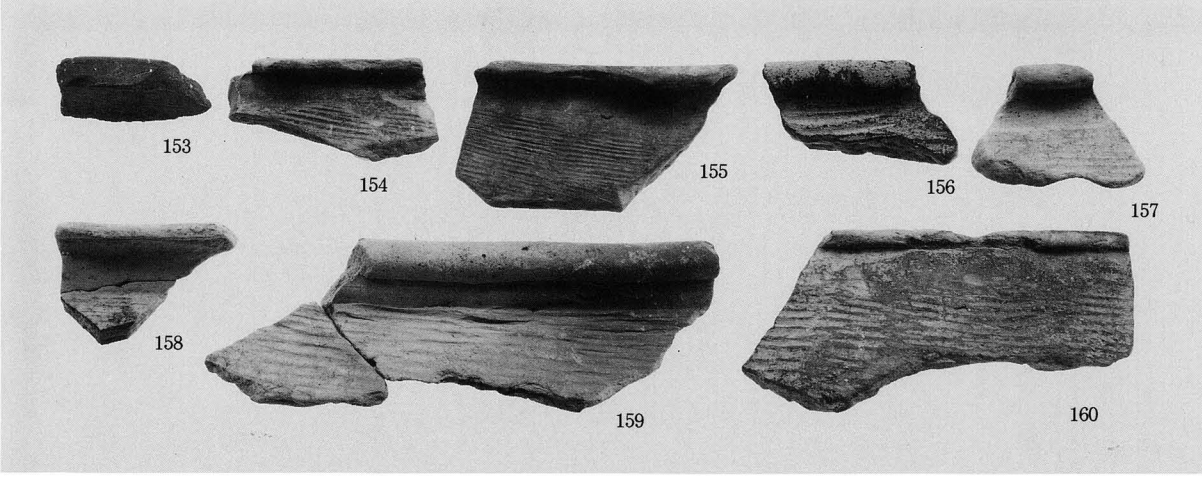
包含層（83～85・87・104～119・121～132）



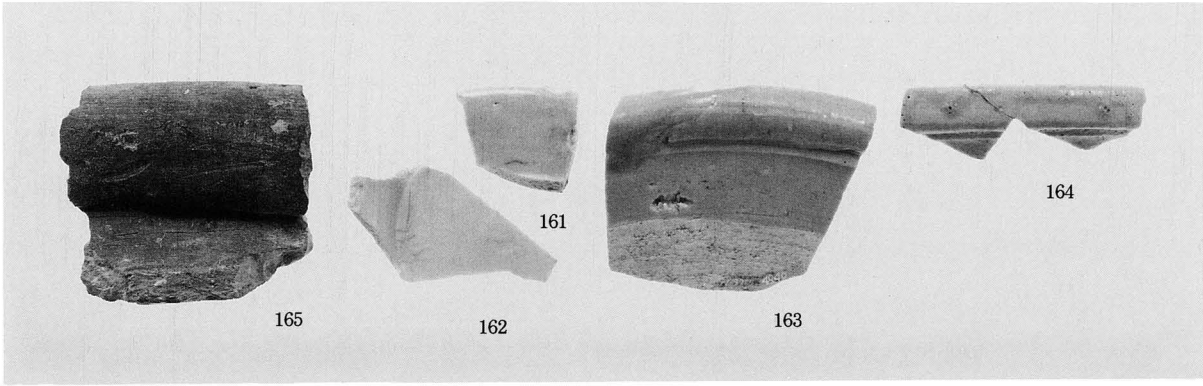


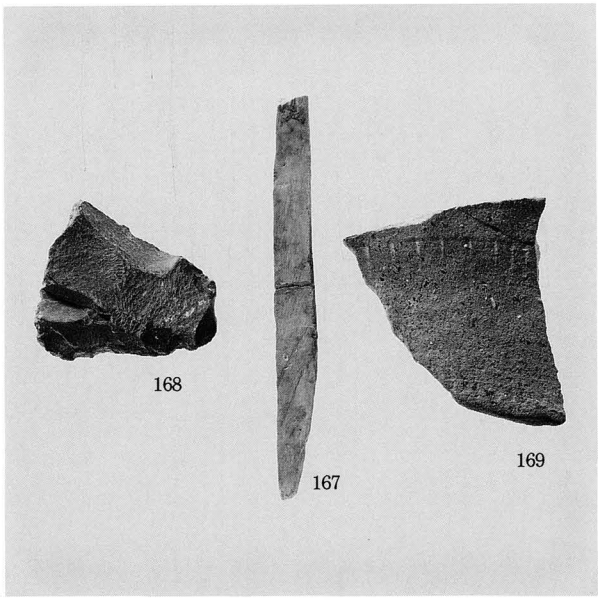


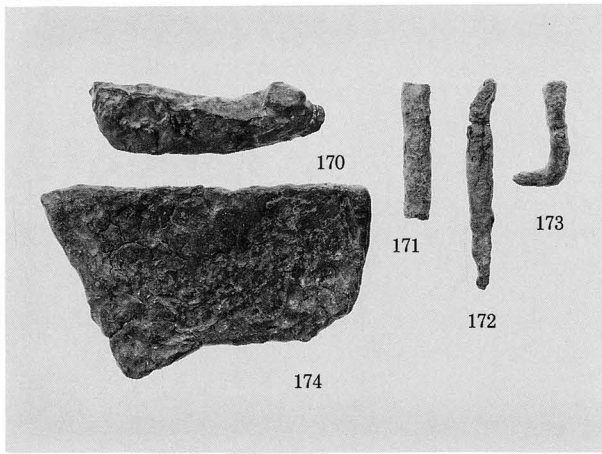


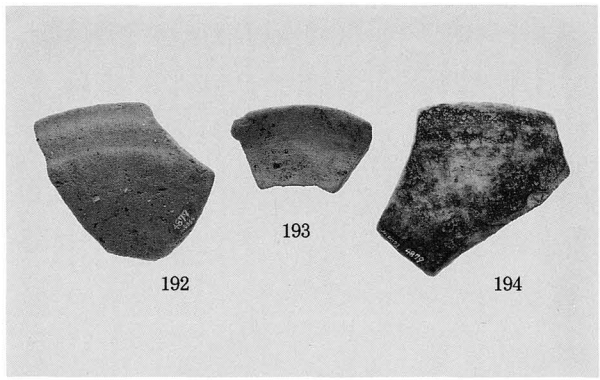


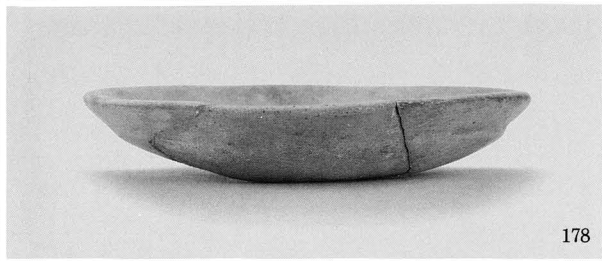
包含層（86・133～142・144～160）

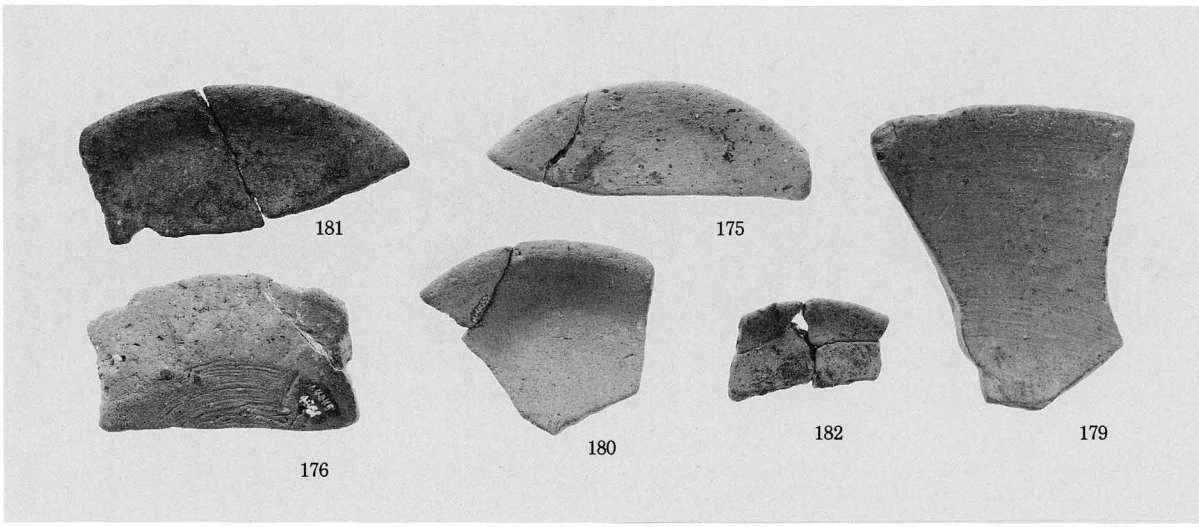




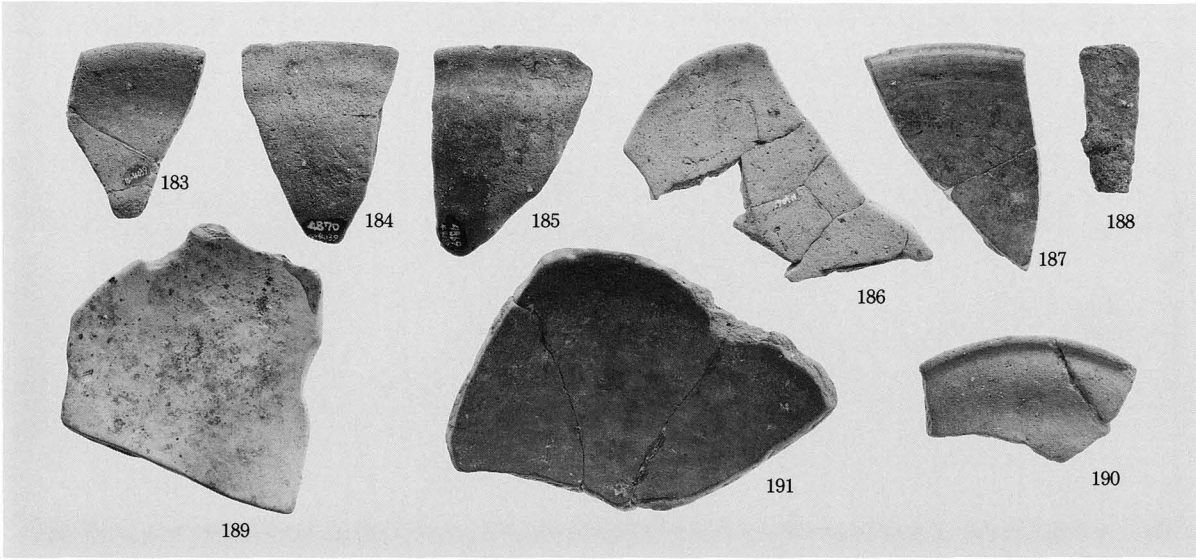


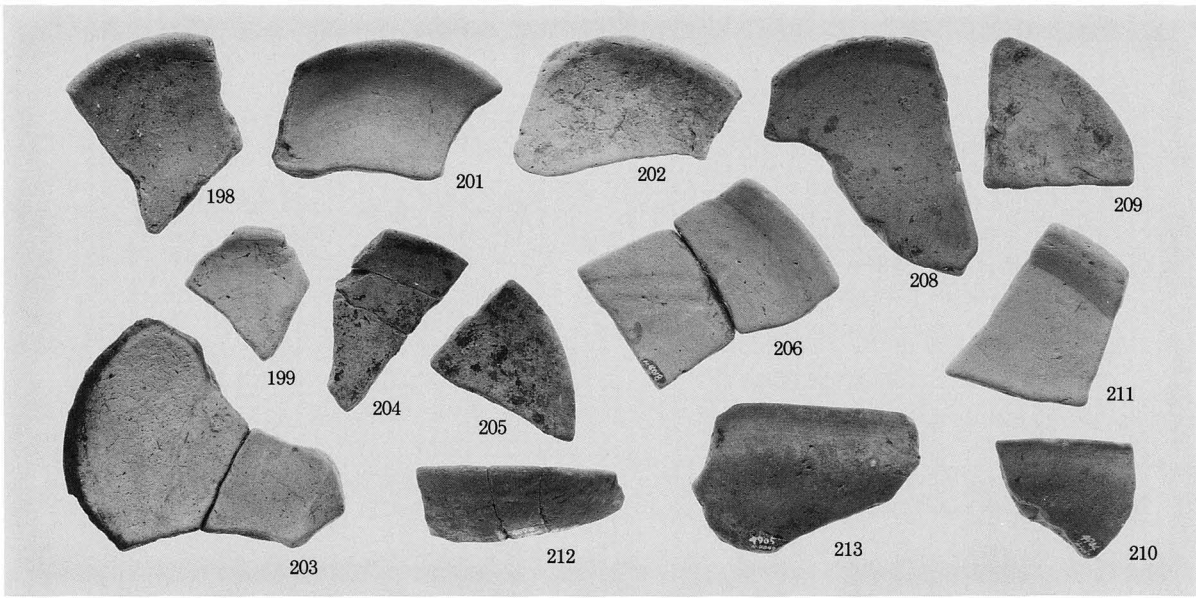


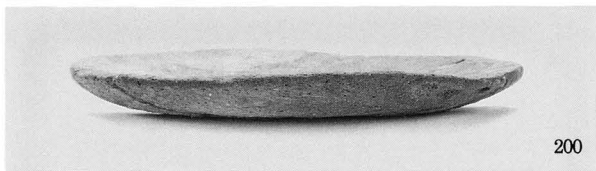




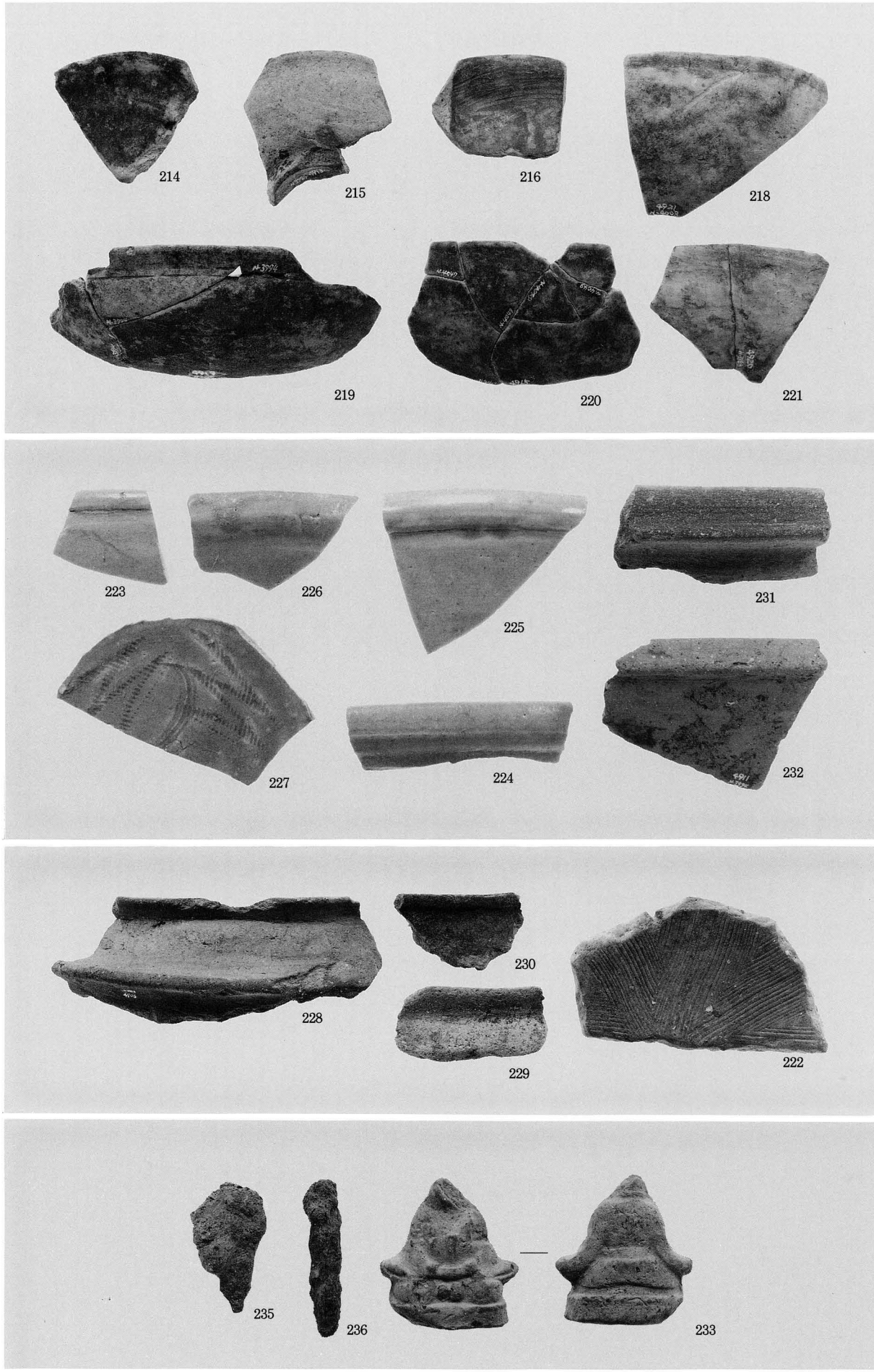
第1調査区包含層（161～165・167～174）、ＳＢ４（175～177）、ＳＢ５（178）、ＳＢ６（179）、ＳＤ11（180・181）、ＳＤ13（182）、ＳＰ22（192）、ＳＰ23（193）、ＳＰ24（194）







ＳＫ28（183～185）、ＳＫ29（186～188）、ＳＫ30（189）、ＳＫ31（190）、ＳＫ32（191）、包含層（195～213・217）



包含層（214～216・218～233・235・236）

報告書抄録

ふりがな	みやのしたいせき
書名	宮の下遺跡
副書名	河内長野市遺跡調査会報X
シリーズ名	河内長野市遺跡調査会報
シリーズ番号	X
編著者名	尾谷雅彦　鳥羽正剛
編集機関	河内長野市遺跡調査会
所在地	〒586 大阪府河内長野市原町396－3　TEL 0721-53-1111
発行年月日	1995年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
宮の下遺跡（みやしたいせき）	大阪府河内長野市高向（おおさかふかわちながのし たこう）	27216	河114	34°26′30″	135°33′15″	1993.5.19～1994.2.14	1750㎡	宮の下農道新設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮の下遺跡	集落	平安時代～鎌倉時代	掘立柱建物　6棟 溝　13条 土坑　32基 ピット　24基	黒色土器 土師器 土師質土器 瓦器 輸入陶磁器	

大阪府河内長野市

宮の下遺跡

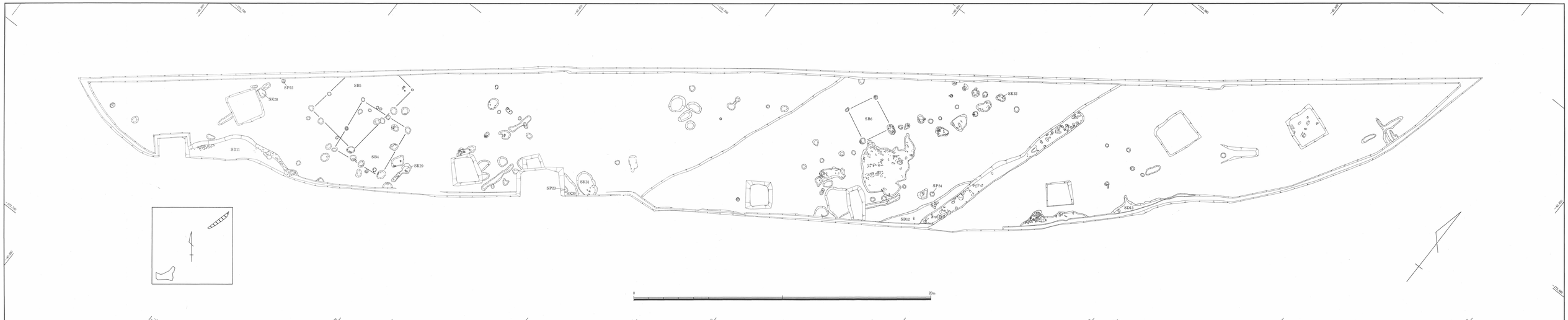
1995年3月

発行　河内長野市遺跡調査会

印刷　中島弘文堂印刷所

□□□-□□

付図１　宮の下遺跡第１調査区遺構配置図（1/100）



付図２　宮の下遺跡第２調査区遺構配置図（1/100）